筑西市埋蔵文化財調査報告書　第６集

茨城県筑西市

炭　焼　戸　東　遺　跡

― つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書３ ―

2009

茨　城　県　筑　西　市
筑　西　市　教　育　委　員　会
有限会社勾玉工房Mogi

茨城県筑西市

炭　焼　戸　東　遺　跡

― つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書３ ―

２００９

茨　城　県　筑　西　市
筑 西 市 教 育 委 員 会
有限会社勾玉工房 Mogi

例言

1. 本書は、茨城県筑西市松原 599 番地ほかに所在する炭焼戸東遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び報告書作成は、道路開発事業に伴う事前調査として筑西市より委託され、市教育委員会の指導の下に有限会社勾玉工房 Mogi が実施した。
3. 発掘調査および整理作業は下記のとおり実施した。

   発掘調査　平成 20 年 9 月 25 日～平成 20 年 11 月 25 日 (対象面積 2,200㎡)

   担当者 : 伊藤康倫 (有限会社勾玉工房 Mogi)

   整理作業　平成 20 年 11 月 26 日～平成 21 年 3 月 10 日

   担当者 : 田中暁穂 (有限会社勾玉工房 Mogi)
4. 発掘調査で得られた出土遺物およびその他の資料は、筑西市教育委員会に保管している。遺跡略号は「SMI-E」である。
5. 発掘調査参加者は以下のとおりである。

   大関きよ子　北原隆　国府田かおり　坂本正江　杉山ミヨ　中島伊一　中島亨　中島宏　藤倉秋之助

   松崎初江　森田美代　吉田豊　古田部弘　関美代子　冨田たか　渡辺フク
6. 整理作業は、以下の構成で行った。

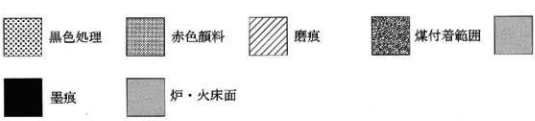
   遺物・遺構図面整理　　岩崎美奈子　大賀さつき　木村春代　越川範子　小山郷子　廣井さやか

   デジタル編集　　川口和之　大賀智章　大賀文香

   経理・事務　　宇佐美薫
7. 本書の編集は田中が担当した。第 1 章第 1 節を筑西市教育委員会が、第 2 章第 6 節・第 3 章第 1 節を大賀健が執筆し、その他は田中が執筆した。

   遺物観察表は大賀健・大賀さつき・田中で作成した。遺物写真撮影は墨書土器赤外線撮影を田中が行い、その他を川口和之・大賀智章が行った。
8. 遺構平面図は航空測量により作成した。
9. 座標値は世界測地系第Ⅸ系を使用した。挿図の方位は座標北を示し、高さの数値は標高を示している。
10. 土層説明および遺物観察表中の色調表記は、『新版　標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修) を参照した。
11. 地形図は国土地理院 1/25,000「筑波・真壁」を使用した。
12. 本書の挿図および写真図版の縮尺は、基本層序 1/80、遺構全体図 1/200・1/1000

    遺構個別図 1/60、遺物実測図・遺物写真　1/3・1/4
13. 本書に用いたスクリーントーンは右の通りである。



14. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏、諸機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。(順不同、敬称略。)

    篠原正　林田利之　松田政基　宮内勝巳　有限会社カワヒロ産業　芦田測量

    株式会社エイティー　株式会社スカイサーベイ

目次

例言
目次
第１章　序章
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1
　第３節　遺跡の位置と環境 …… 1
第２章　検出された遺構・遺物
　第１節　調査の概要 …… 5
　第２節　古墳時代 …… 5
　第３節　平安時代 …… 6
　第４節　中近世 …… 13
　第５節　時期不明遺構 …… 13
　第６節　縄文・弥生時代の遺物 …… 14
第３章　まとめ
　第１節　６号住居跡出土滑石製模造品について …… 15
　第２節　墨書・刻書土器 …… 16
　第３節　各時期の遺跡の性格について …… 17
引用・参考文献
抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第２図　海老ヶ島城・松原村絵図 …… 4
第３図　基本土層 …… 5
第４図　炭焼戸東遺跡調査範囲 …… 6
第５図　「院」の字体の分類 …… 17
第６図　「貝」扁の変化 …… 17
第７図　遺構の主軸方位 …… 18

表目次

表１　周辺の遺跡一覧 …… 3
表２　土坑計測表 …… 20
表３　ピット計測表 …… 21
表４　遺物観察表（1） …… 22
表５　遺物観察表（2） …… 23
表６　遺物観察表（3） …… 24
表７　遺物観察表（4） …… 25
表８　遺物観察表（5） …… 26
表９　遺物観察表（6） …… 27
表10　遺物観察表（7） …… 28
表11　遺物観察表（8） …… 29
表12　遺物観察表（9） …… 30
表13　遺物観察表（10） …… 31
表14　遺物観察表（11） …… 32
表15　遺物観察表（12） …… 33
表16　遺物観察表（13） …… 34
表17　遺物観察表（14） …… 35
表18　遺物観察表（15） …… 36
表19　遺物観察表（16） …… 37
表20　遺物観察表（17） …… 38
表21　遺物観察表（縄文・弥生土器） …… 39
表22　遺物観察表（石器） …… 39
表23　未掲載遺物重量表 …… 40

図版目次

図版 1　遺跡全体図
図版 2　遺構分割図 (1)　西区 1・2
図版 3　遺構分割図 (2)　中央区 1・2
図版 4　遺構分割図 (3)　東区 1
図版 5　遺構分割図 (4)　東区 2
図版 6　遺構分割図 (5)　東区 3
図版 7　遺構個別図 (1)　SI1・2・6、SD1
図版 8　遺構個別図 (2)　SI3 ～ 5
図版 9　遺構個別図 (3)　SI7 ～ 11
図版 10　遺構個別図 (4)　SI12 ～ 14
図版 11　遺構個別図 (5)　SI15・16、SB1
図版 12　遺構個別図 (6)　SB2ab・3
図版 13　遺構個別図 (7)　SB4、SE1・2、SD2 ～ 4・6 ～ 8・10
図版 14　遺構個別図 (8)　SK1 ～ 11・13 ～ 20・25・27・28
図版 15　遺構個別図 (9)　SK29 ～ 33・35 ～ 38、P3・7・10・16・19 ～ 21・151・168・169
図版 16　遺物実測図 (1)　1 ～ 26
図版 17　遺物実測図 (2)　27 ～ 66
図版 18　遺物実測図 (3)　67 ～ 85
図版 19　遺物実測図 (4)　86 ～ 112
図版 20　遺物実測図 (5)　113 ～ 139
図版 21　遺物実測図 (6)　140 ～ 169・171
図版 22　遺物実測図 (7)　170・172 ～ 193
図版 23　遺物実測図 (8)　194 ～ 215
図版 24　遺物実測図 (9)　216 ～ 232
図版 25　遺物実測図 (10)　233 ～ 269
図版 26　遺跡全景
図版 27　調査区西側・中央・東側、6 号住居跡
図版 28　1 ～ 8・10 号住居跡
図版 29　9・11 ～ 15 号住居跡、5 号溝
図版 30　16 号住居跡、1 ～ 3 号掘立柱建物跡
図版 31　3 号掘立柱建物跡、1 ～ 4 号溝
図版 32　6・7 号溝、1・2 号井戸、20 号土坑
図版 33　出土遺物 (1)　1 ～ 45
図版 34　出土遺物 (2)　46 ～ 91
図版 35　出土遺物 (3)　92 ～ 122
図版 36　出土遺物 (4)　123 ～ 174
図版 37　出土遺物 (5)　175 ～ 219
図版 38　出土遺物 (6)　220 ～ 269
図版 39　墨書土器 (1)
図版 40　墨書土器 (2)

第1章　序章

第1節　調査に至る経緯

平成19年9月4日付け筑土木第86号にて、筑西市長冨山省三(建設部土木課(現:土木部土木課)扱)から、筑西市松原地内におけるつくば明野北部工業団地進入路整備工事に伴い「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて(照会)」が提出された。筑西市教育委員会は、遺跡の取扱いについて筑西市建設部土木課と協議を行い、工事の計画変更は困難であることから文化財保護法第94条に基づき、平成19年9月7日付け筑土木第89号にて、筑西市長冨山省三から茨城県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘の通知について」が提出された。その後、平成19年9月25日付け文第1003号にて、茨城県教育委員会教育長から筑西市長あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」により工事着手前に発掘調査を実施するよう勧告があり、記録保存を目的とした発掘調査が実施された。

発掘調査は、平成19年度において予定路線の一部、約900㎡を実施済り し、残りの未調査部分について、平成20年6月23日付けで筑西市土木部長より、発掘調査を実施し全線を工事着手することについて打診を受けた筑西市教育委員会は、筑西市土木部土木課と発掘調査の実施に向けて調整を図り、調査を有限会社勾玉工房Mogiに委託することとした。調査に際しては、筑西市、筑西市教育委員会、有限会社勾玉工房Mogiの三者により「埋蔵文化財に関する協定書」を締結するとともに、有限会社勾玉工房Mogiにより平成20年8月20日付けで、茨城県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財の発掘調査の届出について」が提出された。調査経費については筑西市が全額負担し、筑西市教育委員会の指導のもと、有限会社勾玉工房Mogiが同年9月25日から11月25日まで現地での発掘調査を実施することとなった。

注1) 林　邦雄・小野寛人・市瀬俊一　2008『筑西市埋蔵文化財調査報告書　第5集　炭焼戸東遺跡』筑西市教育委員会・株式会社東京航業研究所

第2節　調査の経過

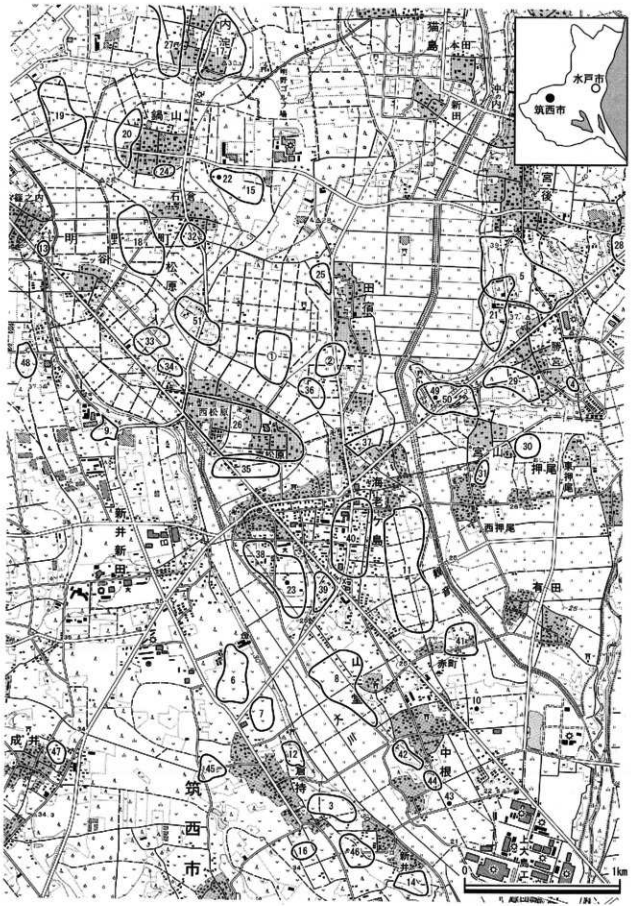
本発掘調査は平成20年9月25日に調査範囲を確定し、表土掘削を開始した。表土掘削終了後、作業員を投入して遺構精査及び確認を行い、10月10日遺構確認状況を撮影した。10月14日ベンチマーク・グリッド杭を打設した。その後遺構発掘作業に入り、遺構半截・断面記録作業を行って完掘した。11月12日空中写真撮影及び航空測量を行った。11月17日市教委から調査終了確認後埋戻し作業を行い、11月25日調査を終了した。

整理作業は平成20年11月26日～平成21年3月10日に行った。12月中旬までに遺物水洗・注記を終了し、随時接合・実測・トレースを行った。1月以降遺物撮影・報告書執筆・編集を行った。

第3節　遺跡の位置と環境(第1・2図、第1表)

炭焼戸東遺跡は筑西市松原599番地ほか(旧明野町)に所在する。周辺の地形は筑波山の西麓に真壁台地があり、西に小貝川、東に桜川が南流している。遺跡は標高約27mのその台地上に立地し、東に観音川、西に大川排水路が流れている。周囲の低地との比高差は約2m、現況は畑地である。台地上には縄文～中世の遺跡が多く点在している。

縄文時代の遺跡としては早期で中妻(倉持)遺跡(3)がある。前期は大地遺跡、中期では中妻(倉持)遺跡(3)・天神遺跡(5)・久保山遺跡(6)・宮北遺跡(7)がある。後期には鶴田石葉山遺跡・台山遺跡(9)などが見られる。



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院発行 1/25000『真壁』『筑波』に加筆）

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世	番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
1	炭焼戸東遺跡		○			○	○	27	内淀西遺跡				○	○	○
2	蛍冠北遺跡		○		○	○	○	28	宮後金井遺跡				○	○	
3	中妻（倉持遺跡）	○	○	○	○	○	○	29	碑西遺跡		○		○	○	
4	向台遺跡				○	○		30	矢尻遺跡					○	○
5	大神遺跡		○		○	○		31	坪内遺跡					○	○
6	久保山遺跡		○		○	○		32	石倉東遺跡				○	○	
7	宮北遺跡		○		○	○	○	33	中根遺跡				○	○	
8	山王堂遺跡		○	○	○	○		34	新堀遺跡				○	○	
9	台山遺跡		○		○	○		35	城ノ内遺跡					○	○
10	赤町（中根）十三塚遺跡					○	○	36	蛍冠南遺跡				○	○	○
11	館野遺跡		○		○	○	○	37	戸張遺跡				○	○	○
12	宮前遺跡			○	○	○		38	岡山遺跡		○		○	○	○
13	稲荷前遺跡				○	○	○	39	久保新田遺跡				○	○	○
14	倉持前畑遺跡				○	○		40	海老ヶ島東原遺跡				○	○	○
15	鍋山東原遺跡		○		○	○		41	赤町遺跡				○	○	○
16	原久保遺跡		○		○	○		42	狭間遺跡				○	○	○
17	北浦遺跡				○	○		43	台遺跡				○	○	○
18	石倉西遺跡				○	○		44	堂前遺跡					○	○
19	西明遺跡				○	○		45	水落遺跡				○	○	○
20	屋敷付西遺跡					○		46	富士山遺跡		○		○	○	○
21	宮山古墳群				○			47	十三塚遺跡		○		○	○	○
22	八坂神社古墳				○			48	原遺跡				○	○	○
23	稲荷塚古墳群				○			49	宮山観音古墳				○		
24	屋敷付南遺跡						○	50	宮山遺跡		○	○	○	○	○
25	田宿炭焼戸遺跡						○	51	炭焼戸西遺跡						○
26	海老ヶ島城跡					○									

表1　周辺の遺跡一覧

周辺の遺跡は中期を中心とするもので、晩期から弥生中期までの遺跡はほとんど確認されていない。

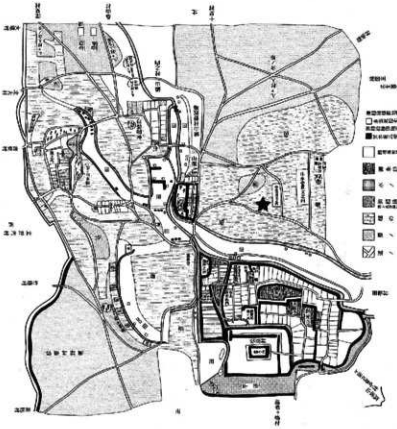
弥生時代後期になると遺跡が見られるようになり、更に古墳時代に入ると遺跡数が増加していく。古墳時代の前期までは台地上に立地するが、中期以降になると低地にも遺跡が見られるようになる。古墳は中期以降のものが見られ、後期の群集墳の段階には増加傾向が窺える。古墳では全長100m超の前方後円墳、宮山観音古墳(49)や円墳では稲荷塚古墳(23)、鍋山東原遺跡(15)がある。集落は宮山遺跡(50)・鍋山東原遺跡(15)・石倉東遺跡(32)・中根遺跡(33)・新堀遺跡(34)・台山遺跡(9)・蛍冠北遺跡(2)・蛍冠南遺跡(36)・戸張遺跡(37)・岡山遺跡(38)・海老ヶ島東原遺跡(40)・館野遺跡(11)などがある。

奈良・平安時代には当地域は常陸国白壁郡となり、延暦4(785)年に真壁郡と改称される。郷域を比定することは難しいが、大林(村)郷とするのが通説である。筑波山を挟む東には国府が所在する石岡市がある。本遺跡の中心時期である9世紀中葉～10世紀前半は在地有力者層の成長が見られ、特に当該地域では旧明野町東石田に将門の伯父国香の居館が所在したとの伝承がある。遺跡は大川・観音川流域の台地縁辺部に集落が営

まれ、台山遺跡 (9)・岡山遺跡 (38)・中根遺跡 (33)・蓋冠北遺跡 (2)・蓋冠南遺跡 (36)・城ノ内遺跡 (35)・戸張遺跡 (37)・海老ヶ島東原遺跡 (40)・館野遺跡 (11) などの遺跡が所在する。

中世の遺跡としては田宿炭焼戸遺跡 (25)・炭焼戸西遺跡 (51)・岡山遺跡 (38)・海老ヶ島東原遺跡 (40)・館野遺跡 (11) が周辺に見られる。中でも遺跡の南 400m には旧河道と見られる低地を隔て戦国期の平城である海老ヶ島城跡 (26) が当地域の重要な遺跡となる。海老ヶ島城は寛正 2(1461) 年から普請が行われたが、応仁元 (1467) 年に下総結城氏の当主結城成朝の嫡男秀千代が入城し、以後結城・小田方の両者により城主は頻繁に交替する。永禄 12(1569) 年佐竹義重に攻略され、佐竹領となり、城主となった宍戸外記が海老ヶ島新左衛門と称したとされる。慶長 7(1602) 年佐竹氏の秋田転封に宍戸氏が同行し、元和元 (1615) 年一国一城令により廃城となった。

近世の遺跡周辺の様子は慶応 3(1867) 年に写しが作成された「海老ヶ島城・松原村絵図」(図 2) に見られる。寛永 3(1626) 年作成と伝えられるこの絵図には海老ヶ島城本丸の北側に集落が展開され、旧河道であろう部分が田となり、北に畑地や入会地が広がる様子が窺える。本遺跡は畑地に位置している。



第 2 図　海老ヶ島城・松原村絵図（『明野町の村絵図』1986 より転載）

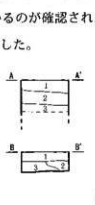
第２章　検出された遺構・遺物

第１節　調査の概要

調査区のグリッドの設定は、世界測地系第Ⅸ系により 10m の方眼を設定し、西から東へ A ～ Z、a、b とし、北から南へ 4、5、6・・・と設定し、その組合せにより表記した。調査区の K11 の座標は X=28920.000、Y=18050.000、U12 の座標は X=28910.000、Y=18150.000 である。

基本層序は市教委による試掘調査時の土層断面に拠った。模式図 (図 3) に図示したように３層に分層される。一部中世以降の遺構で１層下から掘削されているのが確認されたが、調査区内は後世の耕作により削平されたと見られ、基本的には Ⅲ層上面を遺構確認面とした。

土坑・ピットについては基本的に遺物の出土も少なく、所属時期が明確ではないものが多いため、遺構一覧表に掲載した。本調査に先立って、遺跡範囲内では既に４ヶ所において調査が行われている (図 4)。全体として中近世の遺構について密接な関連が見られるが、特に隣接する平成 17 年調査区では古代の遺構について同一遺構や、同時期と推定される遺構などが見られた。



基本土層 A
1. 耕作土
2. 黒褐色土　しまり、粘性ややあり、赤色粒含む。
3. 明褐色土　しまり、粘性ややあり、赤色粒多量。

基本土層 B
1. 耕作土
2. 黒褐色土　遺構覆土、ローム粒少量含む。
3. 暗褐色土　ローム粒、赤色粒多量。

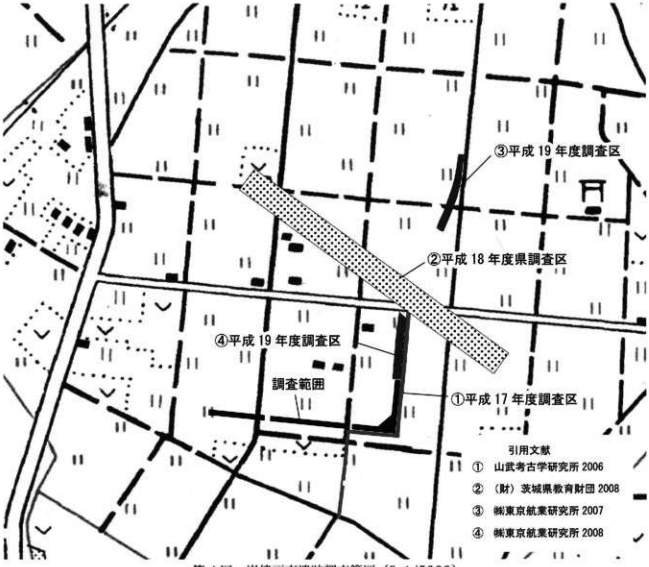
第３図　基本土層 (S=1/80)

第２節　古墳時代

6 号竪穴住居跡 (図版３・7・16・17・27・28・33)

O・P11 グリッドに位置する。規模は東西 7.92m、南は調査区外になるが、残存規模で南北 4.8m になる。床面標高は 26.34 ～ 26.68m、深さは 26 ～ 39cm、主軸方向は N0° E である。周溝は確認されなかった。中央に炉 A、その南に炉 B が検出された。北西隅には貯蔵穴が検出され、上師器甕が出土した。その他に径 20cm 前後のピットがいくつか見られるが、小規模で方形の平面形を為すものを含み、住居の主柱穴の位置とは一致しないことから、後世のものと考えられる。床面には炭化材が点在しており、床直上出土遺物が多く残存率が高いことなどから、焼失住居と考えられる。

遺物は古墳時代中期末葉である和泉期に属し、土師器甕 (1 ～ 6)、土師器坩 (7)、土師器高坏 (8 ～ 13) が出土した。1 は東北隅の床面で横位の状態で出土した。口縁に隆帯がめぐり、二重口縁を模倣している。石田川Ⅱ式の甕である。2・4 は貯蔵穴付近に集中するが、床面～ 10cm 前後のレベルのため貯蔵穴には伴わないと考えられる。3 は北壁寄り中央付近に下半が横位の状態で出土、その周辺に破片が散在していた。また滑石製模造品 (有孔円板・剣形) が出土した (31 ～ 44)。併せて砥石・原石・荒割状未成品・剥片・形割状未成品などの製作工程を示す資料 (14 ～ 30) も出土し、本遺構で滑石製模造品製作が行われたことが窺える。成品は殆ど覆土からの出土であり、出土位置・層位は不明である。しかし剣形模造品 (32) は北壁際中央付近床面から 10cm の高さで出土しており、周囲で荒割の破片 (21)、形割片 (28)、剥片 (23・24) がほぼ同レベルで出土している。また砥石 (14)・滑石原石 (15) はやや離れた北西隅貯蔵穴の南で出土している。西壁際調査区硬付近にも原石 (17)、住居西側中央付近で荒割 (22)・剥片 (25)・形割 (27・30) が出土している。概ね滑石製模造品に関する遺物は住居の覆土２層に属する。製作工程など詳細については第３章第１節において述べる。この他鉄製品 (45) が出土した。鋳造品であるが、残存する部分からは何であるか不明である。



第 4 図　炭焼戸東遺跡調査範囲（S=1/5000）

第 3 節　平安時代

当該期の竪穴住居の特徴を挙げると、棚状施設を持つ 9 号住居がある。類例として東京都清瀬市下宿内山遺跡、日野市南広間地遺跡、埼玉県大里郡寄居町樋ノ下遺跡、県内でもひたちなか市武田遺跡群、結城市峯崎遺跡、真壁郡真壁町小山遺跡が挙げられている [川津法伸 1996]。本調査区に北接する平成 19 年度調査区においても同様の住居が検出されている。9・13・14 号住居に見られる床下土坑は栃木県芳賀町免の内台遺跡 [山武考古学研究所 1992] など北関東で 7 世紀頃から見られ、奈良・平安時代に発掘例が増加する施設である。住居の防湿のために灰などを埋めたものとも言われるが、その目的は明らかにされていない。また、竈を 2 ヶ所設置する住居も見られ、3・15 号住については北竈と東竈を有し、茨城県内の竈の設置方位が 10 世紀に入るあたりで北から東に変わる傾向が指摘されている [茨城県立歴史館 1995]。さらに、12 号住については東と南に竈が検出されている。

土器の年代は 9 世紀代に属するため、須恵器の出土量は少ない。甕が多く、転用硯も 5 点ある。主に胎土により分類を行ったが、産地は常陸国内であると推定される。9 世紀代に操業している大規模窯跡群として新治・木葉下・堀ノ内窯があるが、木葉下窯は 9 世紀中頃まで続くものの、供給地域ではないのか、本遺跡では該当する製品が見られなかった。各胎土の出現傾向は、胎土 A に甕が多いこと以外には特に挙げられない。遺構間の相違も確認されなかった理由は点数が少ないためであろう。観察表には備考欄に以下に掲げた分類記号を記載している。

胎土A. 新治窯跡群の製品。長石・石英などの大きい粒子を含む。特に雲母を多量に含むのが特徴。焼成は軟質な場合が多い。本遺跡では器種は甕が多い。

18 点 (68,80 ～ 83,102,116,130,177,178,181,183,184,185,212,216,220,222,240,248)

胎土B. 長石・石英の粗粒を含むが、雲母は含まない。締まりが硬質でやや暗い色調である。稲敷郡周辺に窯が存在すると想定されている [赤井博之 1997]。4 点 (91,241)。

胎土C. 緻密な胎土で含有物が少ない。φ 2mm前後の白色粒子 (長石など) を少量含む。調整もﾄﾞ寧で、良好な還元焼成である。利根川下流域に窯が想定されている [市川市教委 1996]。3 点 (143)。

胎土D. 微細な白色粒子を比較的多く均一に含む。焼成はやや軟質。坏では底部を一方向のヘラケズリで調整し、体部下端を幅広の手持ちヘラケズリで調整する。10 点 (69,70,72,103,179,180,211,217,218)。

1 号竪穴住居跡（図版 2・7・17・28・34）

B・C9 グリッドに位置する。主軸方向は N39° E である。北側約 1/2 以上が調査区外となりその概要は不明である。残存規模は南北 1.36m 東西 2m、底面高約 26.32m、深度 22cm である。貼床は見られなかったが、周溝は深さ 8 ～ 18cm で全周する。南隅で 2 号土坑を切っている。覆土は自然堆積である。遺物は内面黒色処理の土師器坏 (46) のみを掲載する。この他土師器甕・甑、須恵器甕の小片が出土している。時期は 9・10 世紀代と見られる。

2 号竪穴住居跡（図版 2・7・17・28・34）

C9 グリッドに位置する。主軸方向は N17° E である北側約 2/3 以上が調査区外であり、後世の攪乱により竈などを削平され、東接する 1 号溝に切られている。残存規模は完存する北西 - 南東軸で 2.88m、調査区外に伸びる北東 - 南西軸で 1.04m となる。底面高は 26.55m、深さ約 7cm と浅い。周溝は検出されておらず、隅丸で、北東壁はやや内向する。遺物は竈を中心に分布する。掲載遺物は 6 点である。土師器甕 (47,48,49)、土師器高台付坏 (50,51)、灰釉陶器皿 (52) である。土師器甕 (47) 以外はすべて竈内より出土している。甕はすべて口唇を摘み上げる常総型と見られる。高台付坏は高台部分のみの資料であるが、「ハ」字に高台を貼付する形態である。灰釉陶器については小片であるため施釉方法も不明だが、猿投の黒笹 90 号窯～折戸 53 号窯の時期の製品と見られる。

3 号竪穴住居跡（図版 2・8・17・18・28・34）

D9・10 グリッドに位置する。南東隅は調査区外となる。平面規模は南東 - 北西軸で長 5.48m、北東 - 南西軸で長 4.56m と東西を長軸とする長方形をなす。底面高約 26.48m、深さは約 28cm と浅く、周溝は幅 12 ～ 28cm、深さ 3 ～ 7cm で全周する。竈は北東・南東壁中央にそれぞれ検出されたが、新旧関係は不明である。南東の竈 A では主軸方向は S56° E、北東の竈 B では主軸方向は N31° E である。主柱穴は P1 ～ 3 であるが、南東の主柱穴は検出されなかった。南西壁際、竈 B に対峙する位置には出入口と考えられる P4 が検出された。また北東隅、竈 AB の間には長軸 56cm、短軸 52cm の焼土範囲が検出された。深度が浅いため正確ではないが、壁は緩やかに立ち上がると見られる。

遺物は竈のある東半に集中し、竈からは土師器を主として遺物が多く出土した。掲載遺物は土師器甕 (53) が竈 B から出土している。常総型甕で胴部外面下半の調整がヘラケズリになるが、まだ胴部の張りがある段階である。土師器坏では体部が直線的に開く古いタイプ (55 ～ 59) と内彎し椀状を呈する新しいタイプ (60 ～ 62)

とが出土している。63・64はどちらにも含まれない9世紀前半までによく見られる器形である。灰釉陶器皿(71)は器壁が薄く口唇部が玉縁状となる。刷毛塗りによる施釉と見られ、黒笹90号窯の製品と推定される。70は須恵器で、宮都の須恵器編年における壺Gとされる器種であり、遺跡を官衙・仏教関連施設として評価する指標のひとつとされる｜考古学から古代を考える会2000|。69は胴部外面に青海波文を有する須恵器甕である。66・67は転用砥と推定されるが、67には赤色顔料が付着しており、朱墨の可能性が考えられる。転用紡錘車(72)は住居北西部の床面近くで出土し、須恵器坏底部を使用したものでヘラ記号「×」が記される。上製半玉は2点出土し、73は北西の主柱穴P2から、74は竈からの出土である。

4号竪穴住居跡（図版2・8・18・28・34）

F10グリッドに位置する。主軸方向はS77°Eである。規模は東西長3.48m、南北長3.4m、底面高は26.20～26.29m、深さ30～38cmである。周溝や主柱穴は検出されていない。竈は東壁南隅に設けられており、遺存状態は良好であった。床面は部分的に硬化しているが、貼床とは考えられなかった。

遺物は主に南東半に多く、住居の床面に近いレベルで出土している。須恵器甕(80)は床面で横位の状態で出土した。バケツ形で当て具痕はあるが、外面に叩きなどの痕跡は見られない。胴部中位にヘラ記号「×」が記される。須恵器甕(80・81・83)は胎土がそれほど粗くなく、雲母も多くは含まれないが、胎土Aに分類した。須恵器甕(82)は雲母・白色粒子が多く含まれ、胎土が粗粒であるため同様に胎土Aとした。土師器坏(76～78)は椀状に立上がり、口縁部で外反する器形で、底径が小さくやや深身である。また、高台付皿(79)には内面に「上」の刻書(姚成前)が見られる。これらの遺物が共伴することから、9世紀後半の時期の住居と考えられる。

5号竪穴住居跡（図版3・8・18・19・28・34）

N10グリッドに位置する。主軸方向はN12°Eである。完存する東西長2.44m、北側が調査区外となる南北長2.04m、底面高26.68～26.72m深さ16～17cmである。竈・周溝・主柱穴は見られない。南東隅に長軸84cm、短軸80cm、深さ約23cmのピットが検出された。土師器甕(85)・土師器高台付坏(87)は調査区壁際住居中央付近の覆土1層、住居の埋土からの出土である。土師器坏類(86～88)は椀形であり、高台は「ハ」字に貼付される。9世紀半ばでも新しい時期の可能性がある。89は提瓶で、被熱している。

7号竪穴住居跡（図版3・9・19・28・34）

S11グリッドに位置する。主軸方向はS77°E、完存する東西長4.64m、殆ど調査区外となる南北長0.64m、底面高26.57m、深さ24cmである。周溝の深さは4～6cm検出された。竈は端部が北壁土層断面で確認された。南壁を南接する8号住居跡の竈に一部削平され、東に10号住居の一部が検出された。掲載遺物は90・91である。90は直線的に開く土師器坏である。91は須恵器高台付坏である。底径が大きく、体部下端に稜を持つ。胎土は新治産に似るが、雲母を含まないためBとした。遺物が少ないため時期は不明だが、9世紀前～中期に含まれる可能性がある。

8号竪穴住居跡（図版3・9・19・28・35・39）

S11グリッドに位置する。主軸方向はN22°Eで、完存する東西長3.92m、竈が一部調査区外となる南北軸で長4.32mとなる。底面高26.54～26.69m、深さ20～24cm、周溝は幅8～12cm、深さ5～8cmで北

壁を除き検出された。周溝の掘り込みは明確で、床面は平滑である。7号住居跡との重複があり、竈より西側の北壁が検出できず、新旧関係は竈が7号住居跡を壊して構築されたことから、本住居が新しいと判断した。北東隅は25号土坑に削平されている。南壁中央竈の対面に直径26cm、深さ約10cmの出入口ピットが見られた。

遺物は竈に集中しており、竈の燃焼部からは伏せた状態で高台付坏(101)が出土している。椀形をした坏にやや「ハ」字状に高台が付く。底部と体部の外面にヘラ記号「×」が記される。92～94は常総型の土師器甕で、93は胴部下半をヘラケズリし、94は胴部の張りがやや弱くなる。いずれも9世紀の特徴を示す。須恵器甕(102)はバケツ形で頸部に補修孔が穿たれる。胎土に雲母が多量に含まれることから胎土Aと見られる。土師器坏類(95～101)が椀形で薄手であるという特徴もあり遺構の時期は9世紀中～後期と考えられる。

9号竪穴住居跡（図版4・9・19・29・35）

T11グリッドに位置する。主軸方向はN3°Eで、東半が調査区外となる。底面高26.50～26.42m、深さ約50cmで、残存規模は南北長3.8m、東西長1.96～2.28mで西壁は北に向かいやや開く。竈は北壁のほぼ中央と推定される位置にある。竈は東袖が調査区壁で欠けるが、良好な状態であった。また竈の西から住居北西隅まで、床面から約35cmの高さに、幅1.24m、奥行き0.6mの棚状の施設が設けられている。周溝は幅10cm、深さ約10cmで全周するが、北西・南西隅では幅が広くなる。床面は平滑である。住居のほぼ中央と思われる調査区壁には南北1.2m、東西0.6m、深さ22cmの断面形が弧状の床下土坑が検出された。

遺物は土師器高台付皿(112)が住居南側で住居埋土中から出土した他は竈内に集中する。104～106は常総型の土師器甕と見られ、107は小形甕である。胴部の張りはやや弱くなり、胴部下半の調整はヘラケズリである。土師器坏(108～111)はやや椀状を呈するものの、直線的な立上がりを有する。遺構の時期は9世紀中～後期と見られる。

10号竪穴住居跡（図版3・9・20・28・35・39）

S11グリッドに位置する。ほとんど7号住居跡に削平され、大半が調査区外になるが、主軸方向はN10°Eと見られる。残存規模は東西長80cm、南北長52cm、底面高26.68m、深さ14cmである。周溝や竈などは検出されていない。遺物の総量が少なく、掲載遺物も3点である。113の常総型土師器甕は最大径が胴部近くにあり、口唇部の摘み上げも明瞭である。土師器坏(114・115)も直線的に立上がる形態である。重複関係にある7・8号住居の遺物よりも若干早い時期が考えられる。114の休部外面には横位で「万財」の墨書がなされている。

11号竪穴住居跡（図版4・9・20・29・35）

V11グリッドに位置する。遺構の多くが調査区北壁の外となる。主軸方向はN6°Eで、完存する東西軸長1.8～2.12m、南北軸の残存長が0.92m、底面高約26.7m、深さ22～30cmである。ごく浅い周溝が西壁から南壁まで検出された。壁の立上がりは比較的緩く、底面は西から東に向かい低くなる。東壁は北へ向かうにつれ開くように設けられている。また東壁の一部はP141により削平されている。竈・主柱穴などは確認されなかった。遺物の出土が少なく、掲載遺物は2点である。

12 号竪穴住居跡（図版 5・10・20・29・35）

Z11 に位置する。完存する南北長 3.4m、東が調査区外となる東西長 2.92m、底面高 26.35 ～ 26.41m である。その位置から平成 17 年度調査区の SI10 と同一遺構と考えられる。SI10 は東壁中央付近に竈が検出されているため、東竈を主軸とすると主軸方向は N86° E、南壁の西隅の竈に主軸を合わせると、主軸方向は N4° W となる。周溝は幅 20 ～ 24cm、深さ約 5cm で浅い状態である。西壁付近の床は攪乱を受けており、覆土中にも攪乱が多く確認された。また、北壁の調査区壁付近も攪乱を受けている。東北部分には東西長 1m、南北長 1.52m、深さ約 13cm の浅い落ち込みを検出した。床面は他にも周溝付近に凹凸がある。灰釉陶器椀 (121) は体部下端にヘラケズリが見られることから黒笹 90 号窯の製品の可能性がある。

13 号竪穴住居跡（図版 5・10・20・29・36・39・40）

Z9 グリッドに位置する。主軸方向は N1° E、南北長 3.8m、東北長 3.88m、底面高 26.6 ～ 26.65m、深さ 14 ～ 28cm である。竈は北壁中央に検出されたが、主柱穴はなく、周溝はごく浅く全周している。4 号掘立柱建物の柱穴である P165 と重複するが新旧関係は確認することが出来なかった。浅い床下土坑が検出され、床面はやや凹凸がある。住居北側では 5 号溝を切っている。

遺物は住居跡内に点在している。土師器坏 (122 ～ 125) のうち器形が分かる 122・123 は椀状である。土師器皿は高台が欠損するものを含め 3 点 (127 ～ 129)・土師器仏鉢 (126)・砥石 (131) が出土している。須恵器甕 (130) は胎土 A で体部外面に擬格子状の叩きが施され、体部外面に大きく「院」と墨書される。同じく高台付皿 (127) 底部外面・土師器皿 (128) 体部外面に「院」と墨書されている。また、土師器坏 (123) は外面に煤が多量に付着しているため、すべては釈読できていないが、体部外面に横位で「佛御冂」と墨書されている。新治産須恵器甕や土師器高台付皿が出土したこと、土師器坏の器形的特徴から 9 世紀中～後期と推定される。

14 号竪穴住居跡（図版 6・10・20・21・29・36）

Z7 グリッドに位置する。主軸方向は N4° E、南北長 3.2m、東北長 3.92m、底面高 26.6 ～ 26.66m、深さ 16 ～ 32cm である。住居跡のほぼ中央を南北に中世の 3 号溝が貫いており、竈も北壁東隅寄りに僅かに痕跡が見出せるのみである。竈のすぐ南にも P159 が掘削されている。西半にはごく浅い周溝が廻っているが、主柱穴は検出されなかった。壁の立上がりは比較的緩やかである。床面は凹凸が比較的多い。東南の床下には南北長 1m、東西長 0.94m、深さ 13cm の床下土坑が検出された。覆土は黒褐色土にロームブロックが多く混入し、焼土粒を少量含む。遺物は 3 号溝による削平のためか深度の深い土坑に集中して残存している。土坑内から上師器甑型甕 (132)・土師器高台付坏 (140)・土師器仏鉢 (142)・須恵器高台付坏 (143)・灰釉陶器耳皿 (144) が出土している。132 は口唇部の摘み上げや胴部の張りがやや弱い。143 は精良な胎土で堅緻な焼成であり、胎土 C と推定される。底部内面に赤色顔料が付着しており、朱墨の可能性がある。144 は高台部分と耳屈折内部が無釉で、刷毛塗りで施釉がなされ、黒笹 90 号窯の製品と見られる。住居の時期は 9 世紀中～後期と考えられる。

15 号竪穴住居跡（図版 6・11・21・22・29・36・37・40）

Z8 グリッドに位置する。西部が調査区外となるが、完存する南北長は 5m、東西の残存長は 3.2m、底面高 26.6m、深さ約 40cm である。竈は 2 基あり、東壁中央より南の竈 A を主軸とすると方向は N90° E、北壁中央と推定される竈 B を主軸とすると方向は N0° E となる。竈 A は煙道部を 3 号溝に切られている。竈 B の東

隅には竈が付設された痕跡が残っていた。主柱穴は検出されなかったが、周溝は幅 28cm、深さ 5 ～ 10cm ほどで明確に全周している。住居跡中央、調査区西壁付近には長軸約 40cm、深さ 10cm ほどの長円形のピットが見られ、南壁の竈 B に対面する位置には長軸 32cm、短軸 28cm、深さ約 40cm のピットが検出された。それを除けば比較的平滑な床面で、貼床が施されていた。

遺物は他の住居と比べ多く、特殊な遺物としては仏鉢 (174 ～ 176・185)、土師器では火舎脚部 (172)・灯明皿 (163)・高坏 (173)・須恵器甕転用硯 (180)・灰釉陶器版 (186)・鍛冶椀連遺物である須恵器坏転用坩堝 (183・184)・金床石 (191)・金属製品の鋳造鋳型と思われる破片 (187 ～ 189) が出土した。墨書土器は土師器坏 (153) 底部外面に「匚 (家カ)」、土師器坏 (157)・高台付皿 (169) の体部外面に横位に「寺」と記された土器が出土した。土師器高台付皿が出土するが、土師器高台付坏の体部下端に稜が見られるものがあり、須恵器が他と比較して多く共伴する。このことから住居の時期は 9 世紀中～後期と考えられる。

16 号竪穴住居跡（図版 5・11・30）

Z10 グリッドに位置する。ほとんどが調査区外であるため詳細は不明だが、主軸方向は N10° W とする。南西隅は攪乱に削平される。残存規模は南北長 2.52m、東西長 0.96m、底面高 26.53m、深さ 44cm である。平成 17 年度調査の SI11 と同一遺構の可能性があるがどちらも遺存状態が良くないため、不明である。

1 号掘立柱建物（図版 5・11・30）

Y・Z11 に位置する。主軸方向は N90° E で、2 間 × 3 間の東西棟の側柱建物である。桁行の柱間は心々で 1.48 ～ 1.62m、梁行の柱間は 1.80 ～ 1.86m である。柱穴規模は長軸 80 ～ 88cm の円形あるいは方形の掘方で底面高は 26.22 ～ 26.72m、深さ 34 ～ 44cm である。柱痕は P1 を除きすべてに見られ、直径 20cm 前後である。P3・9・10 では柱痕が太いが、柱を抜き取った痕跡の可能性もある。土層は人為堆積の状態であったが、版築が行われたかは不明である。すべての柱穴で柱の当たりが確認された。P6・8・9 からは土師器の細片が出土している。

2 号 a・b 掘立柱建物（図版 5・12・24・30・38）

X・Y11 グリッドに位置する。主軸方向は N2° W で、2 × 3 間の南北棟の側柱建物である。桁行の柱間は心々で 1.48 ～ 1.80m、梁行の柱間は 1.50 ～ 1.74m である。柱痕を 2 本持つ柱穴があり、土層の堆積状況から、南側に 2 号 a 建物を建てた後、北に 40cm ほど離れた位置に 2 号 b 建物を建て替えたものと考えられる。2 号 b 建物の柱はいずれも先にあった柱穴の北壁に柱を寄せかけるようにして建築している。このため柱穴の規模は長軸 0.72 ～ 1m の円形あるいは方形をなすが、不整形を呈するものもある。底面高 26.4 ～ 26.2m、深さ約 30 ～ 50cm である。掲載遺物は土師器坏 (221) で底部外面に焼成後の刻書があるが、内容は不明である。

3 号掘立柱建物（図版 5・12・30・31）

Z9・10 グリッドに位置する。西端は調査区外となり、建物規模は不明である。しかし 1・2 号建物が桁行と梁行の柱間とでは梁行の方が長いこと、2 × 3 間の規模であることから、本遺構も南北軸を梁行とした東西棟の建物であると考えられる。このため主軸方向は N89° E、梁行 2 間の柱間は心々で 1.86 ～ 2.10m、桁行は残存する部分で 2 間となり、柱間は 1.62 ～ 1.80m である。柱穴は長軸 0.72 ～ 1m の隅丸方形あるいは略円形で、底面高 26.5 ～ 26.28m、深さ 40 ～ 60m となる。柱痕は 3 本に検出され、柱の当たりはすべての柱

穴で確認できた。P3からは土師器の細片が出土している。

4号掘立柱建物（図版5・13）

Z9グリッドに位置する。P160・165・166・167が検出されたが、それ以外は調査区外となり、建物規模は不明である。3号建物同様、東西棟とするならば、主軸方向はN89°E、梁行2間、残存する桁行1間で、柱間はすべて2mとなる。長軸1m前後の略円形あるいは方形の柱穴で、底面高26.3～26.48m、深さ40～50cm前後となる。柱痕や柱の当たりが明確な柱穴は見られなかった。P165についてはSI13と切り合っているが、その新旧関係については不明である。

1号井戸（図版3・13・23・24・32・37・40）

L10グリッドに位置する。直径1.6mの円形で、底面高24.76m、深さ1.92m以上になるため完掘していない。深さ1mの位置で幅20～30cmの中場を持ち、そこから底部に向かい狭くなっていく。土層は自然堆積をなす。新治産須恵器甕(216)・体部外面下端に墨書された土師器坏(215)など5点を掲載した。

2号井戸（図版3・13・24・37・38）

Q11グリッドに位置する。長軸長2.28m、短軸長0.96mの円形と推定されるが、南半が調査区外であり不明である。底面高25.5m、深さ1.7m以上となるため、完掘していない。断面形は漏斗状であるが、深さ1mの位置で膨らみを持つ。土層は自然堆積の状況を示す。最下層から新治産須恵器甕(220)が出土している。

4号溝（図版5・13・23・31・37・40）

X11・12グリッドに位置する。長7.2m、幅1.28～2.08m。走行方向はN0°Eである。北は底面に凹凸がある。中程に長径76cm、短径44cm、深さ40cmのピットが検出されたが、溝に伴わない可能性が高い。出土遺物については、土師器坏(209・210)はやや内彎するが体部と底部の境が明瞭な稜を持つ。須恵器甕(211)は胎土Dに分類され、内面に磨痕があり転用硯の可能性がある。また、火舎の脚部と見られるもの(213)も溝底面より出土している。本遺構の南端は平成17年度調査のSD04に接続し、SD04からは火舎の獣脚部が出土している。遺構は9世紀後半に属すると考えられる。

5号溝（図版5・10）

Z9グリッドに位置する。13号住居跡に削平されているため推定の規模となるが、長7m、幅0.52～0.8m、走行方向はN3°Wである。底面高26.81m、深さ12cmと浅く、断面形は弧状である。東西端が調査区外に伸び、東側は隣接調査区の不整形な落ち込みに続くが詳細は不明である。遺物は出土していないが、13号住居跡に切られるため、古代の遺構である可能性が高い。

20号土坑（図版2・14・24・25・32・38）

H10グリッドに位置する。長軸長2.76m、短軸長1.6m、底面高25.64m、深さ90cmと大型で楕円形の土坑である。覆土は13層に及び、自然堆積をなす。掲載遺物は概ね上層と7層までの出土である。上端の下に緩やかな段があり底面の周縁は膨らみを持つ。土師器甕のうち229・230は器壁型、231・232は小形甕である。口唇部の摘み上げは弱く、229は胴部の張りが少ない。須恵器甕は240が下層に、241が5層に含まれる。また、

掲載していないが上層に上師器坏底部片で回転糸切りの遺物が含まれるため、遺構は9世紀後半～10世紀前半に属すると考えられる。237・238は体部外面にヘラ記号を記すが焼成後の記入と見られる。242は石製紡錘車で3層からの出土である。

第4節　中近世

1号溝（図版2・7・22・31・37）

C9・10、D9に位置する。走行方向はN10°Eである。遺物が鉄滓1点のみのため時期が不明である。しかしⅡ層上面から掘削された遺構であるため、中世以降の溝と想定される。

3号溝（図版6・13・22・23・31・37）

Z5～9、a5～9グリッドに位置する。14号住居跡、6・7・10号溝、42号土坑と重複するが、14号住居跡の方が古いということしか確認されていない。平面形は「コ」字状を呈するが南北端は東に延伸し、平成17年度調査区のSD07・08と接続する。走行方向は南北溝がN0°Eで長32.8m、幅2.48～2.88m、北は東西溝で走行方向N90°E、長5.6m、幅2.48～2.72m、南は東西長2.6m、幅2.4mが検出された。断面形状は薬研状で、深度は0.75～1.29mとなり、底面高は北東端で26.1mであるが南に向かうに従い浅くなる。南北溝の中間あたりには長1.72m、幅0.8m、深さ約1mで一段掘り込んだ部分が見られる。土層断面の観察によれば、その土層（13・14層）はそれより上の層とは堆積状況が異なる。最下層の14層では黄白色粘質土と鉄分を多量に含んだ黒褐色土が締まりのない薄い互層を為しており、その上の13層も同様の堆積であるが鉄分の含有はやや少ない。また上層の土圧のため下方へ撓曲し、14層よりは締まりを持つ。平成17年度調査では、接続するSD07・08について上層の①～⑥層に関して人為填圧としているが、3号溝の対応する土層についても人為堆積と考えられる。この掘り込みから南下すると底面高は下がりはじめ、南のコーナー部分で緩やかな段を有して約30cm低くなる。南北溝中央部の掘り込みがどのような意味を持つものかは不明であるが、区画溝の何らかの施設を有していた可能性も想定される。内耳鍋（193～196）・土師質小皿（197～199）・常滑焼甕（200）が出土しているが、200が15世紀代に遡るが、他は16世紀代に所属する。海老ヶ島城と並行する時期の溝と考えられる。県調査区でもほぼ並行する時期の溝が検出された。この他羽口（204・205）・楕形滓（206）・金床石（207）・五輪塔の一部（208）が出土した。また古代の平瓦（203）や下層には上師器甕（202）も含まれる。

8号溝（図版13）

Y12グリッドに位置する。走行方向はN7°Eである。長3.4m、幅0.76～1.12m、深さ約11cm、底面高26.75mである。南端は隣接調査区のSD05に接続する。SD05の時期は近世とされている。

第5節　時期不明遺構

2号溝（図版2・13・31）

E9・10グリッドに位置する。走行方向はN21°Eである。長7.2m、幅0.44～0.68m、深さ約20cm、底面高26.42mである。調査区を横断している。底面は凹凸が多くあり平滑ではない。13号土坑・P21に切られる。P38と重複するが新旧関係は不明である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

6号溝（図版6・13・32）

Z7・a7グリッドに位置する。走行方向はN87°Eである。長7.04m、幅0.52～0.84m、深さ0.43m、底面高26.58～26.73mで調査区を東西に横断する。3号溝とも直交するが、新旧関係は不明である。平成17年度調査区にはこれに接続するやや不整形な落ち込みが確認されるが、詳細は不明である。遺物が出土していないため時期は不明である。

7号溝（図版6・13・32）

Z5グリッドに位置する。走行方向はS87°Eである。東西方向の溝で長1.52m、幅0.56～0.68mで東端は3号溝と切合うが、新旧関係は不明である。底面高26.94m、深さ9cmとごく浅く、遺物も出土しなかったため時期は不明である。

10号溝（図版6・13）

Z5・6グリッドに位置する。走行方向はN87°Eである。東西方向の溝で長1.4m、幅0.96～1.04mで東端は3号溝と切合うが、新旧関係は不明である。底面高26.8m、深さ23cmと浅く、遺物も出土しなかったため時期は不明である。

第6節　縄文・弥生時代の遺物（図版24）

本遺跡において検出された縄文・弥生式土器は、17片である。このうち3片が住居跡及び土坑からの出土であるが、遺構に伴うものではない。平成17年度に行われた同遺跡の調査では、堀之内1式の埋甕が検出されているものの今回では遺構の検出はなかった。

出土した遺物は細片3点を除く14点について掲載した。

・縄文時代早期

252は縦方向に粗い撚糸文を施文するもので縄文早期前半撚糸文系の土器と判断される。口縁部を欠損するために明瞭ではないが、撚糸の施文状況より夏島段階の可能性がある。

・縄文時代前期

253は肋骨文を意識する文様が並行沈線により描かれるもので、地紋はない。胎土中に微量ながら繊維の混入が見られることより、縄文前期後半浮島1式土器と判断される。

・縄文時代中期

254～257は無節Lの縄文にZ字状の結節文を横方向に施文するもので254では口縁部付近の破片であろうか折り返しが見られる。以上の特徴より、本遺物は中期初頭下小野式段階の遺物と判断される。258は縦方向の沈線に沿ってLRの縄文を縦方向に施文するもので、胎土中には雲母の混入が見られる。中期前半五領ヶ台式土器と判断される。259は円筒状の工具による繊細な角押文列が描かれ角押列の間に交互刺突が加えられ、胴部下半には粗いLRの縄が施文される。縄文が施文される点より、五領ヶ台式上器の新しい段階と判断される。260は小形の扇状の把手を有する口縁部の破片である。口縁直下には断面三角形でY字状の隆帯が貼付される。雲母を多量に混入しており阿玉台1B式土器と判断される。261は胴部の破片である。縦方向に粗い沈線を描いているが、僅かに角押文の痕跡が観察され、胎土中に雲母を混入することより阿玉台式土器と判断した。

・縄文時代後期

262は太い沈線により曲線状の区画を設け内部にLRの縄文を充填し、区画外は磨り消している。加曾利E4

段階から称妙寺式に移行する段階の遺物であろう。中期最終末の可能性もあるが、ここでは後期の資料として取り扱った。263 は屈曲する胴部の破片である。沈線による曲線状の区画が描かれ、内部に刺突が加わる。称妙寺 2 式段階の資料である。264 は口縁部の破片である。やや外反して開く口縁で、口縁部直下に太い沈線が 1 条巡る。堀之内 1 式土器と判断した。

・弥生時代後期

265 は薄手の土器で器面には附加条第 1 種の縄文が施文される。同様の土器は縄文土器にも見られるが薄手であり、弥生式土器と判断される。上稲吉段階の弥生式土器の可能性を考えている。

以上縄文・弥生式土器について概観したが 2006 年の調査において報告でも縄文前期末の上ノ茸遺跡と堀之内式が報告されており今回の調査によって得られた資料とは齟齬はないものと判断される。

石器は 4 点について提示した。何れも遺構覆土中からの出土であるが、遺構に伴うものではない。石材についても 4 点共に異なっている。266 は剥片、267・269 は使用痕のある剥片、268 は石核である。以下各石器について詳細な観察を行う。

266 はメノウの縦長剥片である。打点は表皮部分で、裏面と表面の剥離方向が逆転している。表側は表皮を残している。

267 は灰褐色を呈する珪質頁岩の横長剥片である。外側縁に細かな剥離痕が認められ、使用痕と判断される。剥離は下端部で背面側にのみ観察される事から、掻器的な用い方を行っている。

268 はチャートの石核である。表皮は観察されないことより大形の原石が選択されているものと判断される。剥離は多方向より行われるもので、剥片は比較的小形の物が剥がされている。石鏃の製作を目的とする石核の可能性が高い。

269 は黒曜石の縦長剥片である。左側縁の背面側にのみ細かな剥離痕が見られ、267 同様掻器的な使用が行われている。黒曜石中には多量の気泡 (星) が混入される。

以上 4 点の石器について観察したが、その特徴より縄文時代の資料と判断される。

第 3 章　まとめ

第 1 節　6 号住居跡出土滑石製模造品について

本遺跡で検出された住居の内、6 号住居のみが古墳時代中期末葉の住居であった。他は平安時代の住居で、周辺においても該期の遺構は検出されておらず、特異な状況である。調査範囲が道路の路線内という限られた範囲であったために、周辺の状況は明白ではないが、これまでに行われてきた炭焼戸東遺跡では初見である。

6 号住居跡は火災を受けている為によるものであろうか、遺物量も豊富である。この中で特に滑石製模造品の出土が特筆される。滑石製品は住居跡北西部を中心に出土しており、住居北部中央にはやや大形の砂岩製の砥石 (14) も出土している。滑石製模造品工房にかかわる資料としては、原石、荒割、研磨段階の各資料が少量ながら出土した。これらのことから、本住居内において滑石製模造品の剣と有孔円板の製作が行われていたことが判明している。下総玉造遺跡に見られるような工作用ピットの検出はなかったが、出土遺物から特に剣形模造品の製作に関する若干の工程が追えた。

・I 段階 (15 ～ 18)

原石は拳大ほどのものを持ち込んでおり、表皮を残す原石も見られる。露頭より大まかに割り取られて搬入されたものであろう。

・2段階 (19～22)

15・16の原石に鑿状の金属によると思われる刃物の傷が平行な条として残されている。同様の傷は荒割り段階の資料18にも見られ、原石から荒割に至る工程が鑿状の、先端がやや平坦な刃物によることが観察される。本遺構では円板の未製品を検出できていない為に、断定できないが、荒割りが終了した段階で、破片の形状から円板と剣形に選別されるものと判断される。

・3段階 (27～30)

資料27では荒割りした破片の側面に鎬を作るために斜め方向に研磨を開始していることが観察される。本遺跡検出の剣形品の特徴は、中央に明瞭な鎬を有する点である。他の遺跡における円板や臼玉の製作工程では、板状に薄く研磨したものを鑿状の工具で刻んで形を成形するが、このことは、有孔円板と剣形模造品の作製工程が明らかに異なり、剣形模造品の欠損品からは円板や臼玉の製作転換は行われなかったものと判断される。

・4段階 (31～45)

研磨を全体に施した後に、片面側より金属と思われるドリルにより穿孔が行われる。完成品である剣形品は35・37・38・40では片面のみの鎬となり裏面は平坦に研磨されているが、他の31～34・36では両面に鎬が作られている。

本遺跡における滑石製模造品は、剣形品の形状を見ても又、伴った土器から判断しても初期的段階、古墳中期後半の模造品と判断される。同様のことは有孔円板にも言えるもので、通常孔は対峙した位置に2孔穿たれるものが古墳後期の資料としては一般的であるが、本遺跡の円板には中心部分に1孔のみ穿たれており、やはり古墳後期初頭段階の形状とは異なるものとなっている。地域的な特色であるのか、周辺の資料が不足している為に明瞭ではないが、ここでは時間差による型式の変化としてとらえたい。

第2節　墨書・刻書土器（図版39・40）

本遺跡出土の文字資料は3分類される。

①「院」「寺」「□(家カ)」という場所を示す墨書である。「院」は平成17年度調査では15点出土し、SI01出土のものを除いてすべて外面へ記される。墨痕が明瞭に観察できる資料について字体を分類すると図5のようになる。A類はウ冠を比較的丁寧に記し、全体的にも崩れがあまりない。B類はウ冠がやや崩れ、ウ冠の右下に墨点を記す。C類は「阝」扁も雑な印象となり、旁部分をすべて崩す状態である。しかし、SD01-70ではA・C類が一つの土器に記されていることから三者に時間差があるとは考えにくい。古代の字体を載せる『五體字類』にはこのような字体は見られないが、他遺跡の墨書土器に見出せる（図5）。「院」には建物・施設の意があるため、単独で用いられる例は少なく、方角や建物名と組み合わせることが多く、「南院」（群馬県・戸神諏訪遺跡）・「講院」（栃木県・下野国分寺）などの例が挙げられる。本遺跡で「院」「寺」「□(家カ)」に施設を特定する修飾語を冠していない理由は不明である。墨書の目的については、物品管理のためと推測されるが詳細は不明である。

②10号住土師器坏(114)の墨書「万財」は「万富」「万加」などと同様の吉祥句的用法と見られる。「財」の字体は扁の「ハ」部分が省略されるが、このような例は『五體字類』に見られる（図6）。

③ヘラ記号「×」や4号溝の須恵器坏(212)の墨書「米」などは記号と見られるが詳細は不明である。

「院」は官衙の施設名にも用いられるが、「院」銘墨書土器が出土した13号住では「佛御□」の墨書がされた土師器坏が共伴し、15号住からは「寺」銘墨書土器が出土している。また、仏教関連遺物と評価される仏

鉢・火舎・宮都の編年における逆Gとされる須恵器が出土しており［考古学から古代を考える会 2000］、「院」銘墨書土器が寺院に関わる資料であることを示唆している。しかし、県内の国分寺や郡寺とされる遺跡からは、基壇や礎石、瓦などが検出されているのに対し、本遺跡では3号溝から平瓦片が1点出土したのみである。これらの点から本遺跡の場合、村落内寺院のような小規模なものと考えられる。

第5図 「院」の字体の分類（○で囲んだ数字は平成17年度調査遺物の報告No.）

第6図 「貝」扁の変化
（『五體字類』より引用）

第3節 各時期の遺跡の性格について

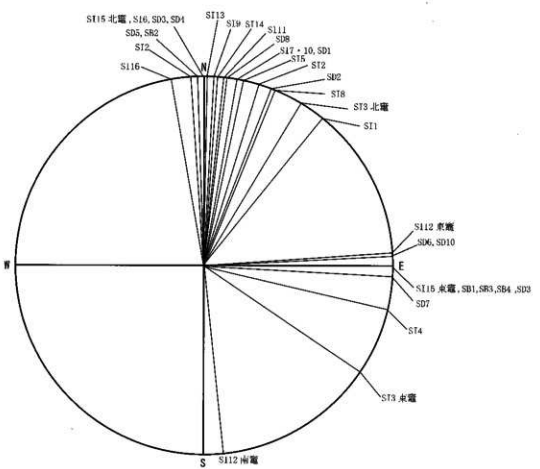
古代の遺構は、主軸方向からⅠ～Ⅲ期に区分できる（図7）。

掘立柱建物は東区にのみ検出された。4棟のうち2号掘立柱建物のみが東西棟である。4棟はすべて方位を緩ね座標北に合わせており、棟を揃えた配置が行われているが、南の1・2号建物の方は柱間が短い。2号建物の南に位置する平成17年度調査のSB05は主軸方向がN0°Eと同じ南北棟であり、柱穴規模なども類似し、本調査区の2号建物と棟を揃えている。おそらくは同時期の建物群と考えられる。また、掘立柱建物群の東にもSB06が主軸方向N90°Eで検出されており、方向を同じくする。ただSB06の西脇に南北方向に柵列が検出されているため、西の建物群との区画塀などの可能性も考えられる。一方、約24m南では平成17年度調査区で区画溝に囲まれたSB01～04が検出されているが、北方の建物群よりも主軸方向が15～20°東に振れる。また、柱穴の規模や形態についてもSB05・06とは異なることが報告されており、北方の建物群との時期差あるいは性格の相違などが考えられる。区画溝の廃絶時期について9世紀中葉との報告がされ、「院」「寺」などの墨書土器が区画溝やSI01から出土しているとされる。本調査区では「院」墨書土器は3点すべてが13号竪穴住居跡から出土しているが、字体や墨書位置・土器の年代などの共通性から同時期の遺構の可能性が高い。4号掘立柱建物は重複する13号住居との新旧関係が不明であるが、1～3号掘立柱建物と方位を揃えているため、それと前後する時期で関連のある施設と推測される。また4・5号溝はこれら建物群を区画する溝の可能性が考えられる。

竪穴住居跡については、7・10号住が8号住に切られ、遺物も他と比較しやや早い段階、9世紀前～中期と判断されたため、Ⅰ期とした。平成17年度調査の成果に基づき13号住を9世紀中葉とすると、主軸方向を同じくする2・5・8・9・11・13～15号住も同時期と想定される。但し、15号住については北竈と東竈があり、茨城県内の竈の設置方位が10世紀に入る前後で北から東に変わる傾向が指摘されているので［茨城県立歴史館 1995］、北竈をⅡ期、東竈をⅢ期と考えたい。出土遺物についてはⅡ期の遺物も人るものの、住居廃絶前の東竈段階の遺物が主体と考え、9世紀後半の遺物と判断した。同様に12号住も東竈になるため同時期

と推定したが、南西隅にも竈を持つため、竈の新旧関係は不明である。1・3・4号住は主軸方位が他とは異なり、位置も調査区の西端と離れているが、時期差があまり見られないため、西方に別の集落が展開すると推測される。古代の集落のピークはⅡ期(9世紀中～後期)であり、掘立柱建物も2号b・4号建物以外はこの時期に属し、南方の掘立柱建物群もこの時期である。仏教関連遺物の存在から村落内寺院の可能性について言及したが、平成17年度調査でも南方建物群について仏教関連施設の可能性を指摘している。また、寺院遺跡周辺での鍛冶関連遺物の出土例は報告されているが、本遺跡でも鞴羽口や椀形滓など鍛冶関連の遺物が出土した。しかし茨城県教育財団鍛冶工房などの遺構や痕跡を伴わないため、現段階では村落内の小鍛冶的な規模を想定している。

中世の遺構については、他の調査区で主に溝を検出している。特に平成17年度に本調査区の北方で茨城県教育財団による調査が行われた際には、同時期の遺構がまとまって検出されている。方形あるいは隅丸方形に廻る溝により区画された内側に、掘立柱建物が建ち並ぶ屋敷地跡は、15世紀後半～17世紀前半に及び、Ⅰ～Ⅳ期の変遷が指摘されている。本調査区では3号溝が16世紀を主体としており、県調査のⅡ・Ⅲ期に当たる。溝の方位や掘削方向も矛盾がなく、同一集落であったことが窺える。海老ヶ島城の機能した時期ではあるが、今回検出された遺構が溝1条のみであり、遺物も少量であったため城との関係は不明である。近世になると本遺跡は畑地となったことが絵図(図2)より看取され、遺構・遺物とも希薄となる。



第7図　遺構の主軸方位

≪引用・参考文献≫

赤井博之　1997「律令制変質期の須恵器の系譜」古代生産史研究会『'97 シンポジウム　東国の須恵器』

市川市教育委員会　1996『平成7年度市川市埋蔵文化財調査・研究報告　市川市出土遺物の分析―古代の鉄・土器について―』

茨城県教育財団　2008『蓮冠北遺跡・炭焼戸東遺跡』第295集

茨城県考古学協会　2005『古代地方官衙周辺における集落の様相 - 常陸国河内郡を中心として―』茨城県考古学協会シンポジウム資料

尾崎喜左雄・今井新治・松島榮治　1968『石田川　―石田川遺跡調査報告―』

川津法仲　1996「廻の脇に棚を持つ住居について」『研究ノート』6号　(財)茨城県教育財団

山武考古学研究所　1992『免の内台遺跡』芳賀町文化財報告第15集

茨城県立歴史館　1995『茨城県史料―考古資料編　奈良・平安時代』

考古学から古代を考える会　2000『古代仏教系遺物集成・関東』

筑西市教育委員会　2006『筑西市埋蔵文化財調査報告書第2集炭焼戸東遺跡―県営ほ場整備事業(経営体)松原地区関連遺跡発掘調査報告書1―』

同　2006『筑西市埋蔵文化財調査報告書第3集海老ヶ島城跡―県営ほ場整備事業(経営体)松原地区関連遺跡発掘調査報告書2―』

同　2007『筑西市埋蔵文化財調査報告書第4集炭焼戸東遺跡―つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書1―』

同　2008『筑西市埋蔵文化財調査報告書第5集炭焼戸東遺跡―つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書2―』

中野晴久　1994「知多半島(常滑)窯の編年」第2回中部都市研究会シンポジウム発表資料

奈良文化財研究所　2003『古代の官衙遺跡　Ⅰ遺構編』

同　2004『古代の官衙遺跡　Ⅱ遺物・遺構編』

明治大学　木村礎研究室　1986『明野町の村絵図』明野町史資料第十二集

表2 土坑計測表

No.	グリッド	平面形	断面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	底面高(m)	切合関係	備考
1	B9	円形	弧状	0.94	0.90	0.15	26.33		レンズ堆積
2	B9	(円形)	(弧状)	0.88	(0.50)	0.15	26.36	<1住	レンズ堆積
3	C9	長方形	弧状	1.68	1.22	0.14	26.38		レンズ堆積
4	C9	円形	弧状	64.00	56.00	0.22	26.38		レンズ堆積
6	C9	円形	半円状	0.72	0.68	0.24	26.30		レンズ堆積
7	C9	円形	弧状	0.88	0.86	0.20	26.60		レンズ堆積
8	C9	円形	弧状の中端にピット状の下端を持つ	0.80	0.80	0.42	26.13		
9	C9	円形	半円状	0.64	0.60	0.21	26.37		レンズ堆積
10	D9	—	—	1.04	(3.32)	(0.18)	26.62	<1溝	
11	D9	円形	弧状	0.88	0.72	0.07	26.54		レンズ堆積
12	D10	円形	—	1.56	1.38	0.07	26.56	>P35	
13	E9・10	円形	半円状	0.84	0.80	0.26	26.36	>2溝	水平堆積・柱痕あり
14	F9	(円形)	箱状	1.62	1.44	0.30	26.22		レンズ堆積、一部調査区外
15	E9、F9・10	(円形)	弧状	1.56	1.44	0.25	26.26	<16土坑	レンズ堆積
16	E9・10、F9・10	円形	弧状	0.88	0.72	0.16	26.44	>15土坑	層
17	E10	円形	箱状	0.78	0.70	0.32	26.30		
18	G10	円形	箱状	1.08	0.92	0.17	26.40		水平堆積
19	H10	円形	弧状	1.06	1.02	0.22	26.34		レンズ堆積
20	I10	不整楕円形	台形状で一部中端あり	2.56	1.64	0.92	25.63		レンズ堆積
21	D10	—	—	0.60	(0.32)	0.09	26.46		大半が調査区外
22	D10	—	—	0.92	(0.50)	0.12	26.45		大半が調査区外
23	H10	楕円形	—	0.84	0.46	0.08	26.45		
24	E9	(円形)	—	0.64	(0.32)	0.20	26.35		大半が調査区外
25	S11	円形	不整形	1.00	0.80	0.47	26.41	>S18	
26	Q11	楕円形	—	0.72	0.56	0.20	26.75		
27	N10	—	弧状	(0.76)	0.80	0.22	26.71		大半が調査区外
28	O10	(円形)	台形状	0.68	(0.40)	0.18	26.79		1/2以上が調査区外
29	M10	(楕円形)	(弧状)	(1.16)	0.66	0.14	26.53		1/2以上が調査区外
31	P・Q11	円形	弧状	1.20	1.16	0.14	26.81		
32	Q11	円形	弧状	1.04	1.00	0.15	26.80		
33	Q11	円形	弧状	1.24	1.20	0.17	26.79		
34	S11	円形	—	1.52	1.32	0.43	26.48		
35	S11	円形	台形状	1.20	1.20	0.43	26.50		
36	U11	楕円形	弧状	0.96	0.80	0.14	26.81		
37	U11	楕円形	弧状	1.50	1.16	0.21	26.74		
38	U11	円形	弧状	1.28	1.20	0.26	26.69		
41	Z6	不整楕円形	—	1.48	0.88	0.23	26.82		
42	Z6	(楕円形)	—	1.44	(0.88)	0.42	26.63	SD3との切合不明	

表3 ピット計測表

No.	区画	平面形	隅部形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	底面標高(m)	備考
1	D9	楕円	—	0.70	0.61	0.40	26.13	
2	D9	楕円	—	0.55	0.24	0.56	26.18	
3	D9	不整	1隅丸	0.60	0.38	0.38	26.46	柱痕あり
4	D9	方形	—	0.36	0.16	0.17	26.30	
5	D10	円形		0.26	0.25	0.39	26.15	
6	D10	円形		0.31	0.21	0.39	26.08	
7	C9	円形	隅丸状	0.31	0.29	0.41	26.08	
8	D10	円形	—	0.22	0.24	0.39	26.17	
9	C10	円形		0.21	0.18	0.24	26.27	
10	C10	円形	2隅丸	0.30	0.16	0.36	26.16	柱痕あり
11	C10	円形	—	0.16	0.16	0.25	26.27	
12	C10	楕円	—	0.18	0.13	0.30	26.62	
13	C9	円形	—	0.30	0.29	0.28	26.16	
14	C9	円形	—	0.24	0.24	0.40	26.18	
15	C9	円形	—	0.28	0.26	0.41	26.13	
16	C9	楕円形	第2の穴隅丸状	0.60	0.32	0.40	26.18	柱痕あり
17	C9	長方形		0.40	0.28	0.35	26.23	
18	C9	不定	—	0.18	0.16	0.30	26.28	
19	C9	円形	隅丸状	0.30	0.30	0.12	26.49	電線あり
20	C9	円形	V字状	0.34	0.24	0.29	26.60	トレンチ延長
21	E10	楕円形	U字状	0.54	0.36	0.34	26.28	SD2
22	E10	円形	—	0.40	0.40	0.42	26.10	
23	E10	長方形	U字状	0.38	0.36	0.37	26.24	SD2との断面図は第4図
24	E10	不整形	1隅	0.62	0.48	0.40	26.18	
25	E10	円形	—	0.42	0.40	0.36	26.68	
26	E10	楕円	—	0.41	0.28	0.37	26.93	
27	D10	不整形		0.45	0.38	0.36	26.27	
28	D10	不整	—	0.50	0.46	0.34	26.28	
29	E10	円形	—	0.28	0.28	0.21	26.53	
30	E10	—	—	0.10	0.20	0.20	26.44	円周全区画
31	D9	円形		0.48	0.46	0.07	26.52	
32	D9	円形		0.34	0.26	0.15	26.47	
33	D9	円形	—	0.44	0.40	0.15	26.40	
34	D9	円形	—	0.47	0.38	0.17	26.44	
35	D9	方形	—	0.29	0.22	0.13	26.49	SK10
36	D9	楕円	—	0.42	0.40	0.14	26.44	
37	D9	不整	—	0.38	0.32	0.22	26.42	
38	E9	不整	—	0.38	0.28	0.24	26.19	SD2との断面図はベ図
39	D9	円形		0.26	0.24	0.26	26.39	
40	E10	円形	—	0.38	0.36	0.16	26.47	
41	F10	円形	—	0.28	0.28		—	
42	F10	楕円形		0.32	0.23	0.29	26.32	
43	G10	円形形	—	0.50	0.38	0.41	26.17	
44	G10	円形	—	0.30	0.32	0.12	26.46	
45	G10	不整		0.26	0.24	0.25	26.32	
46	H10	不整	—	0.42	0.32	0.18	26.16	
47	H10	不整	—	0.34	0.30	0.52	26.31	
48	H10	円形		0.26	0.21	0.32	26.21	
49	H10	円形		0.22	0.20	0.25	26.36	
50	H10	円形	—	0.20	0.18	0.21	26.34	
51	K10	方形	—	0.24	0.24	0.22	26.49	
52	M10	方形	—	0.28	0.28	0.31	26.79	
53	M11	方形	—	0.18	0.18	0.16	26.22	
54	M11	方形	—	0.20	0.20	0.16	26.37	
55	M10	楕円形		0.40	0.22	0.23	26.58	
56	M10	不整方形	—	0.34	0.27	0.17	26.60	
57	M10	不整方形	—	0.28	0.22	0.19	26.60	
58	M11	円形	—	0.44	0.36	0.28	26.52	
59	N10	円形	—	0.30	0.28	0.16	26.62	
60	N10	円形	—	0.32	0.28	0.11	26.79	
61	N11	不整方形	—	0.38	0.32	0.31	26.61	
62	N11	円形		0.20	0.18	0.20	26.72	
63	O10	円形	—	0.34	0.30	0.35	26.42	
64	P9	不整	—	0.24	0.14	0.09	26.20	
65	C10	円形		0.16	0.14	0.22	26.71	
66	D10	円形	—	0.28	0.26	0.35	26.23	
67	E10	円形		0.34	0.30	0.30	26.38	
68	D10	楕円	—	0.34	0.32	0.10	26.49	
69	G10	円形形	—	0.42	0.34	0.16	26.86	
70	M10	楕円形		0.24	0.18	0.05	26.72	
71a	M10	不整方形	—	0.20	0.16	—	—	
71b	M10	小型方形	—	0.16	0.16		—	
72	M10	円形		0.40	0.36	0.11	26.68	
73	M11	円形	—	0.32	0.30	0.20	26.71	
74	M11	円形	—	0.20	0.20	0.21	26.86	

No.	区画	平面形	隅部形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	底面標高(m)	備考
77	O11	楕円形	—	0.44	0.32	0.50	26.57	
78	O11	楕円形	—	0.60	0.30	0.26	26.77	
80	O11	楕円形	—	0.24	0.20	0.14	26.83	
82	P11	小型方形	—	0.30	0.20	0.13	26.84	
83	P11	楕円形		0.66	0.56	0.07	26.95	
84	Q11	円形	—	0.16	0.16	0.19	26.81	
85	Q11	円形		0.24	0.24	0.40	26.55	
86	Q11	円形	—	0.40	0.32	0.40	26.49	
88	Q11	円形		0.30	0.30	0.09	26.67	
89	Q11	不整楕円形	—	0.44	0.40	0.14	26.81	
90	Q11	円形形	—	0.40	0.40	0.27	26.67	
91	Q11	円形形	—	0.24	0.20	0.26	26.67	
92	Q11	円形	—	0.40	0.40	0.20	26.64	
93	Q11	円形	—	0.32	0.28	0.20	26.74	
94	Q11	円形	—	0.40	0.32	0.33	26.63	
95	R11	円形	—	0.24	0.24	0.19	26.66	
96	R11	円形	—	0.32	0.20	0.11	26.82	
97	R11	円形	—	0.30	0.26	0.07	26.87	
98	R11	円形	—	0.32	0.26	0.30	26.81	
99	R11	小型形	—	0.44	0.32	0.12	26.79	
100	S11	円形	—	0.40	0.32	0.37	26.95	
101	R11	不定		0.28	0.26	0.16	26.89	
102	R11	楕円形		0.48	0.44	0.14	26.72	
103	R11	円形		0.28	0.24	0.13	26.72	
104	Q11	円形		0.24	0.24	0.22	26.70	
105	R11	円形		0.20	0.16	0.14	26.72	
106	S11	方形		0.20	0.20	0.16	26.58	
107	S11	円形		0.40	0.36	0.46	26.43	
108	S11	円形	—	0.36	0.36	0.31	26.52	
109	S11	方形	—	0.34	0.20	0.18	26.69	
110	S11	円形	—	0.44	0.36	0.43	26.44	
111	S11	不整形	—	0.30	0.24	0.16	26.69	
112	S11	不形	—	0.30	0.26	0.23	26.65	
113	S11	小型	—	0.40	0.32	0.39	26.70	
114	S11	円形	—	0.38	0.28	0.33	26.63	
115	S11	円形	—	0.34	0.28	0.35	26.63	
116	S11	不整形	—	0.72	0.28	0.32	26.65	
117	S11	不整形	—	0.38	0.24	0.22	26.66	
118	S11	楕円形	—	0.28	0.20	0.25	26.64	
119	S11	楕円形	—	0.36	0.30	0.30	26.61	
120	S11	円形	—	0.24	0.24	0.29	26.78	
121	S11	円形	—	0.38	0.36	0.29	26.58	
123	T11	円形	—	0.28	0.28	0.27	26.66	
125	T11	不形	—	0.28	0.26	0.30	26.65	
126	S11	方形	—	0.38	0.38	0.38	26.76	
128	S11	小型方	—	0.32	0.44	0.18	26.78	
129	S11	円形	—	0.38	0.40	0.02	26.66	
130	T11	円形	—	0.30	0.30	0.08	26.67	
131	E9	楕円形	—	(0.70)	0.60	0.18	26.41	隣トレンチにより欠
132	M11	円形	—	0.24	0.24	0.14	26.82	
133	P11	円形	—	0.20	0.20	0.11	26.84	
134	P11	円形	—	0.24	0.20	0.08	26.89	
135	Q11	方形		0.36	0.30	0.19	26.78	
136	L11	不形		0.26	0.40	0.14	26.80	
137	V11	不形		0.20	0.18	0.23	26.47	
138	W11	円形		0.28	0.28	0.14	26.39	
139	W11	楕円形	—	0.64	0.56	0.38	26.24	
141	V11	(円形)	—	0.62	(0.24)	0.42	26.40	1/1以上が調査区外
142	W12	円形	—	0.32	0.32	0.24	26.53	
143	X12	円形	—	0.28	0.24	0.19	26.56	
144	Y12	円形	—	0.28	0.24	0.30	26.43	
147	Z10	円形	—	0.22	0.22	0.44	26.43	
148	Z10	円形		0.48	0.42	0.43	26.48	
149	Y10	不形		0.80	0.64	0.76	26.58	
150	Y11	不形		0.40	0.36	0.37	26.36	SB2
151	Z10	小型不形	小型形	1.00	1.20	0.46	26.47	
155	Z10	方形不形	—	0.37	0.30	0.18	26.63	SB2
156	Z10	小型不形	—	0.61	0.48	0.28	26.37	
157	Z7	方形	—	0.38	0.24	0.38	26.38	SD2との切り合い不明
159	Z7	円形	—	0.38	0.26	0.26	26.32	>SE14
161	Y11	円形	—	0.60	0.60	0.78	26.65	
162	Y11	円形	—	0.20	0.16	0.22	26.88	
163	X11	不形	—	0.28	0.28	0.39	26.29	
164	Z9	円形	—	0.24	0.24	0.21	26.66	
168	Z7	(不形	不定形	(1.16)	(0.60)			>P170, <P169
169	Z7	円形	不不形	1.20	(0.60)	—	—	>P168~170
170	Z7	(円形	—	1.20	(0.60)	—	—	<P168~169

表4 遺物観察表(1)

法量の単位はcm・gを用いる。胎土は砂粒多い～無砂微量の8段階で粗から密を表現する。その他の含有成分は特徴的なものを掲げた。

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
1	6号住	土師器	甕	17.2	31.6	7.5	2,880.0	底部狭い平底。胴部球形で最大径を中央に持ちロ縁で「く」の字に外反する。口縁は中央に幅広の明りゴ面口縁を備位。胴部中央に貼付け、下半に貼付け及び補強帯が観察される。	口縁部は横ナデ。胴部外面は二次焼成の為剥落しているが上位に刷毛目が観察される。内面はナデ。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英・小礫多い。雲母少量。	10YR6/3にぶい黄橙	一部欠損	石川川II式
2		土師器	甕	(14.1)	30.5	6.8	2,269.4	底部狭い平底。胴部球形で最大径を中央に持ちロ縁で「く」の字に屈曲する。胴部下半に貼付けが観察される。	口縁部横ナデ後ミガキ。胴部外面はヘラケズリ後ミガキ。内面はナデ後部分的にミガキが見られる。	良好	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。	5YR6/6橙	口縁 一部残存、胴部～底部一部欠損	
3		土師器	甕	(19.3)	—	7.5	2,256.3	やや大形の甕である。底部平底で中央部が比較的低くなる。胴部球形で最大径を上位に持つ。口縁は「C」の字に外反し施す立つ。内面貼付けと複数の輪積底が観察される。	口縁部横ナデ。胴部外面はヘラケズリ。内面はナデ。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英・小礫多い。雲母少量。	内面10YR8/4淡黄橙 外面7.5YR7/4にぶい橙	口縁部1/3.胴部2/3、底部完形	
4		土師器	甕	15.6	<5.1>	—	224.2	口縁部のみの資料。縦やかに外反し口唇部に至る。	口縁部は横ナデ後ミガキが観察される。	良好	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多。	7.5YR7/4にぶい橙	口縁部2/3	
5		土師器	甕	(19.7)	<3.5>	—	106.3	口縁部のみの資料。中央部にやや窄ぶみを持ち直線的に延び開く。	口縁部は横ナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。黒色粒子・スコリア少量。	内面5YR7/4にぶい橙 外面7.5YR8/3浅黄橙	口縁部1/4	
6		土師器	甕	—	<4.2>	8.1	229.8	底部は輪台技法を用いる。体部下端は内傾気味に開く。	底部及び胴部内外面ナデ。	良好	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。	5YR7/4にぶい橙	胴部下端～底部3/4	
7		土師器	坩		<6.9>	3.2	182.5	底部は小形の平底で、上底状を呈する。胴部に優れた球形でソロバン状に大きく張る。	胴部外面はヘラケズリ、内面及び底部はナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・黒色粒子やや多い。スコリア・雲母少量。	内面7.5YR7/4にぶい橙 外面10YR7/4にぶい黄橙	胴部3/4,底部完形	
8		土師器	高坏	16.9	14.7	14.4	675.4	脚柱部は脚に向いラッパ状に大きく開く。上端は僅かに内傾しながら開く。上端下端に脚柱との接合部を持ち、指による粗い整形による稜を成している様にも観察される。	口縁及び脚部は内外面共に横ナデ。上端部及び脚柱部はナデ。上端部内面は刷毛、脚柱部内面には輪積痕が複数有りヘラナデが観察される。	良好 二次焼成	砂粒多い。白色粒子・雲母多い。小礫目立つ。	2.5YR6/6橙	一部欠損	
9		土師器	高坏	18.3	14.3	14.2	739.4	脚柱部は中位に強かな膨らみを持ち、脚に向いラッパ状に大きく開く。上端部は直線的に開く。上端下端に脚柱との接合部を持ち、指による粗い整形による稜を成している様にも観察される。	口縁及び脚部は内外面共に横ナデ。上端部及び脚柱部はナデ。上端部内面はヘラナデ、脚柱部内面には輪積痕が複数有りヘラナデが観察される。	良好	細砂少量。白色粒子・雲母目立つ。スコリア微量。	2.5YR7/4淡赤橙	ほぼ完形	
10		土師器	高坏	16.2	14.4	14.6	683.2	脚柱部は中位に強かな膨らみを持ち、脚に向いラッパ状に大きく開く。上端部はやや直線的に開く。上端下端に脚柱との接合部を持ち、指による粗い整形による稜を成している様にも観察される。	口縁及び脚部は内外面共に横ナデ。上端部及び脚柱部はナデ。上端部内面はヘラナデ、脚柱部内面には輪積痕が複数有りヘラナデが観察される。	良好	砂粒多い。白色粒子・雲母多い。小礫目立つ。	内面7.5YR8/3浅黄橙 外面7.5YR8/4浅黄橙	一部欠損	
11		土師器	高坏	16.5	13.7	12.2	638.7	脚柱部は脚に向いラッパ状に開く。上端部は直線的に開く。上端下端に脚柱との接合部を持ち、指による粗い整形による稜を成している様にも観察される。	口縁及び脚部は内外面共に横ナデ。上端部及び脚柱部は内外面共にナデ。脚柱部内面には輪積痕が複数観察される。	良好	砂粒多い。白色粒子・雲母多い。細礫目立つ。	内面2.5YR7/6橙 外面5YR7/4にぶい橙	脚部一部欠損	

表5 遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	脚高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	焼成の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
12	6号竪穴	土師器	高坏	17.0	14.9	14.4	719.0	口縁部は下半で緩やかに内彎し、口縁で僅かに外反気味に開く。深さがある。脚柱部は細く、裾部に向かい大きく外反しながら薄く。	口縁及び脚部は内外面共に横ナデ。上端部及び脚柱部に内外面共に粗いヘラナデ。	良好	砂粒多い。白色粒子・雲母多い。	内面2.5YR7/6橙 外面5YR7/6橙	脚欠損	
13		土師器	高坏	—	<9.6>	—	214.2	やや歪みみをもする脚柱部である。上端部及び裾部は欠損している。	脚柱部は内外面共にナデ。脚柱部内面には輪積痕が複数観察される。			7.5YR8/4浅黄橙	脚柱部のみ	
14		不製品	砥石	—	-	—	1,388.3	上下両面を砥石として用いている。部分的に被熱が観察される。火災時の被熱か。						砂岩
15		滑石製模造品	原石	12.1	8.7	5.4	520.6	塊状の原石。表面には部分的に付着が観察される。部分的ではあるが、上下両面に鑿状の工具による打ち割の痕跡がみられる。						滑石
16		滑石製模造品	原石	11.6	9.7	2.6	372.5	板状の原石。側面は鑿状の工具による打ち割が観察される。						加工痕あり(鑿)、滑石
17		滑石製模造品	原石	10.4	7.0	3.85	290.4	塊状の原石。上面は表皮を残し、裏面は打ち割られている。						加工痕あり(鑿)、滑石
18		滑石製模造品	原石	5.6	2.9	1.3	25.0	やや厚めの板状を呈する。上下両面に僅に上るうちわりの痕跡が認められるもの、形状が明瞭でないことより原石と判断した。						加工痕あり(鑿)、滑石
19		滑石製模造品	荒割	6.3	2.9	1.3	29.5	中央に稜線を有する剥片で、剣形を意識して製られた荒割の段階と判断した。						滑石
20		滑石製模造品	荒割	5.3	2.9	0.63	10.7	薄い板状に打ち割られたもので、剣形を意識するものであろう。荒割段階と判断したが、先端部がやや厚く製品には適さないとして破棄されたものと判断される。						滑石
21		滑石製模造品	荒割	3.6	3.1	0.9	7.5	荒割りにより板状に打ちかかれている。剣形の模造品のための荒割りとしてはやや小さく不適格である。円板の荒割り段階の可能性がある。						滑石
22		滑石製模造品	荒割	3.2	2.55	0.5	4.4	荒割りにより板状に打ちかかれている。剣形の模造品のための荒割りとしてはやや小さく不適格である。円板の荒割り段階の可能性がある。						滑石
23		滑石製模造品	剣片	3.1	2.0	0.3	2.1	荒割りにより板状に打ちかかれている。剣形及び円板の模造品のための荒割りとしてはやや小さく不適格である。口立へと転換している可能性がある。上面に鑿による打ち割の痕が残っている。						滑石
24		滑石製模造品	剣片	3.1	1.55	0.5	2.4	剣形品として荒割を行ったものの、やや小さく不適格として破棄されたものと判断される。						
25		滑石製模造品	剣片	3.25	1.7	0.5	3.1	剣形品として荒割を行ったものの、やや小さく不適格として破棄されたものと判断される。						
26		滑石製模造品	剣片	0.9	1.15	0.2	0.3	剣片状で研磨も見られない。荒割段階で生じた屑であろう。						
27		滑石製模造品	形割	5.1	1.9	0.7	6.4	剣形として荒割された後、側縁の研磨を鑢を意識して一部行っているが、不適格として形状を中断したものと判断される。						
28		滑石製模造品	形割	3.15	2.15	0.5	3.8	剣形として荒割されたものの作業途中段階で上部側が折損したために中断したものと判断される。						
29		滑石製模造品	形割	2.7	1.65	0.8	4.2	剣型円片鑢を意識とするもので、形状的には剣形を製作しようとしているものと判断される。						
30		滑石製模造品	形割	1.65	1.7	0.4	1.4	方形の板状を呈する。上面に僅かながら研磨が観察される。円板を製作しようとしていたものであろうか。						
31		滑石製模造品	剣	3.0	1.75	0.65	8.2	剣形のほぼ完成品である。上面の端は刃潰であるが仮面にも削り出しを行い、上下両面に鑢を掛けるものであろう。穿孔は上面より行われている。						孔径0.2

表6 遺物観察表(3)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
32	6号住	滑石製模造品	剣	4.7	1.85	0.65	5.9	剣形のほぼ完成品である。鎬は上面のみで下端側はやや丸みを帯びる。研磨は斜落により粗雑である。			穿孔は上面より行われている。			孔径0.1
33		滑石製模造品	剣	4.4	1.55	0.6	6.0	剣形のほぼ完成品である。33同様で上面のみ鎬が明瞭で反面は丸みを帯びる。穿孔は上面一方向から行われている。						孔径0.15
34		滑石製模造品	剣	4.53	1.85	0.7	6.5	剣形の完成品である。内面に鎬が通る。基部側が欠損の為に修正を加えているもののやや形が歪になっている。穿孔は上面より行われる。						孔径0.15
35		滑石製模造品	剣	4.1	1.4	0.5	3.4	剣形の完成品である。片面(上面)のみに鎬を有し、下面は平坦に研磨されている。						孔径0.15
36		滑石製模造品	剣	3.4	1.6	0.4	4.4	剣形の完成品である。上面に鎬を有し、下面は丸みを帯びる。先端部は僅かに欠損している。穿孔は片面より行われている。						孔径0.15
37		滑石製模造品	剣	3.6	1.2	0.2	2.1	剣形の完成品である。片面(上面)のみに鎬を有し、下面は平坦に研磨されている。						孔径0.15
38		滑不製模造品	剣	3.6	1.4	0.35	2.0	剣形の完成品である。上面のみに鎬を有し、下面は平坦に削られている。素材の段階からであろうか全体に反りがある。穿孔は上面から行われ、下端側は大きく破損している。						孔径0.15
39		滑不製模造品	剣	3.0	1.3	0.35	1.6	剣形の完成品である。上面のみに鎬を有し、下面は平坦に削られている。穿孔は上面から行われ、下端側は大きく破損している。						孔径0.15
40		滑石製模造品	有孔円盤	2.8	2.9	0.45	5.8	円盤の完成品である。やや多角形に近く、側面の研磨は粗雑。穿孔は中心部に1孔上面から行われている。						孔径0.15
41		滑石製模造品	有孔円盤	2.6	2.6	0.4	5.4	円盤の完成品である。ほぼ円形であるが側面の研磨は粗雑。穿孔は中心部に1孔上面から行われている。						孔径0.15
42		滑石製模造品	有孔円盤	2.2	2.3	0.35	2.7	円盤の完成品である。ほぼ正円。側面の研磨は丁寧に行われている。穿孔は中心部に1孔上面から行われている。						孔径0.15
43		滑石製模造品	有孔円盤	2.2	1.9	0.35	2.3	円盤の完成品である。ほぼ正円。側面の研磨は丁寧に行われている。穿孔は中心部に1孔上面から行われている。						孔径0.15
44		滑石製模造品	有孔円盤	1.75	1.8	0.35	1.9	円盤の完成品である。ほぼ正円。側面の研磨は丁寧に行われている。穿孔は中心部に1孔上面から行われている。						孔径0.15
45		鉄製品	不明	3.5	3.5	0.4	9.9	円板状を呈する。表面に細かな亀裂が観察されることより、鉄滓系と判断される						
46	1号住	土師器	坏	(17.2)	<2.0>	—	6.6	口縁大きく外反する。	ロクロ整形。内面ミガキ。	良好	砂粒少量。黒色粒子・白色粒子やや目立つ。雲母少量。	内面7.5YR2/1黒 外面7.5YR6/6橙	口縁部片	内面黒色処理
47		土師器	甕	(18.4)	<3.1>	—	34.5	口唇部を摘み上げる。	口縁部横ナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。	5YR7/6橙	口縁部1/4	小形の常総甕か
48		土師器	甕	(20.3)	<5.9>		14.7	肩部に若干の張りを持つ。口縁は「く」の字に外反し、口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラケズリ。	良好 二次焼成	砂粒少量。白色粒子・雲母少量。	7.5YR5/3にぶい褐	口縁部片	
49	2号住	土師器	甕	(22.0)	<7.2>		44.5	口縁は「C」の字に外反し、口唇部に摘み上げられる。	口縁は内外面横ナデ。体部内外面ナデ。	良好	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子やや目立つ。雲母・スコリア少量。	内面10YR6/2灰黄褐 外面5YR7/6橙	口縁～胴部上半1/8	
50		土師器	高台付坏	—	<2.2>	7.6	82.4	高台は「八」の字に付される。内端接地。	高台は一旦切り離され、内面ナデ。内面底にミガキ。高台部にロクロ整形。	良好 二次焼成	細砂少量。金雲母やや目立つ。白色粒子・スコリア少量。	内面7.5YR7/2明褐灰 外面10YR6/3浅黄橙	高台部2/3	内面黒色処理か
51		土師器	高台付坏	—	<2.6>	10.1	46.3	高台は「八」の字に付され、端部は面取りされる。	ロクロ整形。外面ロクロナデ。内面ミガキ。	良好	砂粒やや多い。スコリア多い。白色粒子・雲母やや多い。	内面10YR4/1褐灰 外面7.5YR7/4にぶい橙	高台部1/3	内面黒色処理か

表7 遺物観察表(4)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
52	2号住	灰釉陶器	皿	(15.5)	<1.5>	—	6.3	口縁部内湾気味に開く。器壁薄い。	ロクロ整形。底転。	良好	精良。	5YR/1 灰白	口縁破片	
53		土師器	甕	20.0	<24.4>	(9.8)	486.5	底部上げ底気味の平底か。胴部上位に最大径。口縁部C の寸に外反。口縁部ナデ。胴部ヨコケズリ。指ナデ上げ。	コ縁部内外面横ナデ。胴部内外面ナデ。胴部下半ヘラケズリ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。長石・石英もやや多い。雲母少量。	内面7.5YR7/6橙 外面7.5YR7/4にぶい橙	口縁～胴部上半1/3 胴部下半～底部1/4	全総形復。カマド掛け用
54		土師器	甕	(34.0)		(20.8)	190.1	口縁部と底部のみの資料。口縁くの字に外反する。口縁部は僅かに指ナデ上げられる。多孔式の甕。	口縁は内外面横ナデ。胴部内面ナデ、外面ヘラケズリ。胴部は面取りされている。	良好	細砂少量。黒色粒子・雲母少量。スコリア微量。	内面2.5Y6/3にぶい黄 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁1/8、底部1/6	
55		土師器	坏	(13.4)	4.2	7.1	81.7	底部は平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りの後、外周ナデ。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。金雲母多い。黒色粒子やや多い。スコリア・白色粒子少量。	内面10Y4/1灰 外面7.5YR7/3にぶい橙	口縁～体部1/4、底部2/3	内面黒色処理
56		土師器	坏	(12.8)	4.1	7.4	74.5	底部は平底。体部に直線的に開く。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。底部外周～体部下端手持ちヘラケズリ。内面ミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。雲母多い。スコリア・白色粒子やや多。黒色粒子微量。	内面7.5YR5/4にぶい黄橙 外面7.5YR6/4にぶい橙	口縁～底部5/12	
57	3号住	土師器	坏	(13.6)	3.95	6.8	41.1	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後直線的に開く。器壁薄い。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りの後外周ナデ。内面ミガキ。	良好 二次焼成	細砂微量。金雲母やや目立つ。スコリア・白色針状物質・白色粒子微量。	内面5Y3/1黒 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁～底部1/3	内面黒色処理
58		土師器	坏	(13.6)	<3.7>	—	38.6	底部は欠損している。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・スコリア多い。雲母・黒色粒子やや多い。	10YR5/4にぶい黄褐	口縁～体部下端1/3	
59		土師器	坏	(13.4)	4.0	6.7	96.3	底部平底。体部直線的に開く。	ロクロ整形。底部ヘラ切り。内外面ミガキ。	良好 二次焼成	細砂やや多い。黒色粒子・雲母多い。白色粒子やや多い。スコリア少量。	内面10YR5/3にぶい黄褐 外面10YR7/4にぶい黄橙	口縁2/3欠損	内面黒色処理
60		土師器	坏	(12.8)	3.9	8.0	89.5	底部平底。体部内湾気味に開く。器壁薄い。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。摩滅により調整不明。	良好 二次焼成	細砂少量。雲母やや目立つ。白色粒子少量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁1/3、底部3/4	
61		土師器	坏	(13.0)	4.1	6.8	46.5	底部平底。体部内湾し口縁で僅かに外反する。器壁薄い。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキ。	良好	細砂微量。雲母少量。	内面10YR5/3にぶい黄褐 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁～底部1/3	
62		土師器	坏	(13.2)	4.3	(7.7)	93.9	底部平底。体部やや内湾気味に開く。	ロクロ整形。底部及び体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。スコリアやや目立つ。白色粒子・雲母少量。	10YR7/3にぶい黄橙	口縁～底部2/3	内面黒色処理か
63		土師器	坏	(13.6)	5.3	8.4	77.0	底部はやや上げ底気味の平底。体部は内湾気味に立つ。器高高い。	ロクロ整形。底部ナデ。内面ミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。金雲母・黒色粒子やや多い。白色粒子少量。スコリア微量。	内面7.5YR5/3黒 外面7.5YR6/6橙	口縁～体部1/4	内面黒色処理
64		土師器	坏	(14.4)	<4.1>	—	47.1	底部欠損。体部内湾。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子ややを多い。雲母・黒色粒子少量。	内面5YR6/6橙 外面10YR6/3にぶい黄褐	口縁～体部1/4	

表8 遺物観察表(5)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
65	3号住	土師器	高台付坏		<2.8>	8.6	101.7	底部は「ハ」の字に付され、内端接地。器壁厚い。	ロクロ整形。内面ミガキ。底部回転ヘラ切りの後高台が付される。	良好 二次焼成	細砂少量。雲母やや目立つ。スコリア・黒色粒子少量。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面7.5YR5/4にぶい褐	底部3/4	内面黒色処理
66		須恵器	甕		—	—	562.9		外面平行叩き。内面当て具痕あり。	良好	白色粒子・小礫やや目立つ。堅緻である。	内面5Y4/1灰 外面5Y3/1オリーブ黒	胴部片	不明。外面自然釉付着。内面横位、転用硯か。
67		須恵器	甕	—		—	315.0		外面縦位平行叩き。内面当て具痕、ナデ調整。	良好	精良。白色粒子微量。堅緻である。	内面5Y7/1灰白 外面5Y6/1灰	底部片か	湖西産。転用硯。内面赤色顔料付着。
68		須恵器	甕	—	—		42.8	やや内彎気味である。	外面は平行叩き。	良好 二次焼成	長石・石英・雲母多い。	5Y6/1灰	胴部片	胎土A
69		須恵器	壺	-	—	—	48.3	やや内彎気味である。	外面青海波、内面当て具痕あり	良好	長石・石英やや目立つ。軟分の噴出し少量。雲母微量。	N6/灰	胴部片	胎土D。
70		須恵器	壺	—	<4.7>	—	18.9	上に向かいやや開く。	ロクロ整形。	良好	細砂微量。白色粒子微量。軟分の噴出しやや目立つ。	内面10Y6/1灰 外面2.5GY6/1オリーブ灰	胴部片	胎土Dだが軟分の噴き出しがあり、断面赤褐色化している。外面黒化なら焼成か。雲母。
71		灰釉陶器	皿	(14.2)	<1.9>	—	10.8	体部は直線的に開き、口唇部下線状をなす。	ロクロ整形。	良好	精良	内面7.5YR/2灰白 外面7.5YR/1灰白	口縁部片	黒俣90号窯
72		須恵器	紡錘車	直径6.9	厚さ0.8	孔径0.8	24.3	孔は中央に穿たれている。	研磨により、整形する。	良好	長石・石英多い。黒色粒子やや多い	7.5Y6/1灰	1/2	胎土D。須恵器底部転用。鳥居「×」(焼成前)
73		土製品	平玉	縦1.2	横1.6	孔径0.5	2.6	断面形は扁平な長方形を呈する。孔は中央に穿たれている。	指による整形。	良好	精良	10YR7/3にぶい黄橙	完形	
74		土製品	平玉	縦1.0	横1.6	孔径0.5	4.1	断面形は扁平な長方形を呈する。孔は中央に穿たれている。	指による整形。	良好	精良	10YR6/4浅黄橙	完形	
75	4号住	土師器	甕	(20.0)	<7.0>	—	78.3	胴部はやや張る。口縁くの字に外反。口唇部は摘み上げる。	内外面口縁部は横ナデ。胴部はナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。金雲母微量。	内面7.5YR5/6明褐 外面7.5YR6/6橙	口縁～胴部上半1/4	常総型甕
76		土師器	坏	(13.6)	<4.0>	(7.0)	38.6	底部は平底か。体部は緩やかに内彎し、口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。内面はミガキ。体部外面下半手持ちヘラケズリ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。スコリア目立つ。黒色微量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面7.5YR6/6橙	口縁～底部1/4	
77		土師器	坏	(16.0)	<4.8>	(6.0)	35.2	底部は平底か。体部は緩やかに内彎し、口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。内面はミガキ。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	砂粒少量。スコリア・金雲母目立つ。	内面10YR1.7/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁部1/9、体部下端1/4	内面黒色処理
78		土師器	坏	(14.2)	<5.0>	—	20.5	底部欠損。体部は僅かに内彎気味立上がり直線的に開く。	ロクロ整形。内面はミガキ、外面下端は回転ヘラケズリ。	良好	砂粒少量。黒色細粒子・雲母目立つ。	内面2.5Y2/1黒 外面10YR7/4にぶい黄橙	口縁～体部1/8	内面黒色処理

表9 遺物観察表(6)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
79	4号住	上師器	高台付坩	-	<2.3>	—	75.9	高台は系2欠損。体部下端に縁を持つ。	ロクロ整形。内面ミガキ。底部は回転ヘラ切りの後高台が付きされる。体部外面下端ヘラケズリ。	良好	砂粒微量。黒色細粒子・雲母微量。	内面7.5YR6/6橙 外面7.5YR7/6橙	口縁・高台部欠損	内面黒斑(炭化前)
80		須恵器	甕	(27.4)	19.8	13.1	1,056.0	バケツ形の甕。底部は平底で胴部は直線的に開き、口縁で短く外反する。口巻部は面取りされている。	内外面共に口縁部付近は横ナデの後ミガキが観察される。外面胴部下半及び底部はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子・雲母少量。スコリア微量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面7.5YR6/6橙	口縁・胴部1/3、底部完形	粉十A、胴部外面中位刻書「×」(焼成前)
81		須恵器	甕	(32.0)	<18.8>	—	287.1	バケツ形の甕。底部は欠損している。胴部は直線的に開き口縁で屈く外反する。	口縁部外面に横ナデ、胴部上半は平行叩き、下半はヘラケズリが観察される。内面はミガキ。	良好	砂粒やや多い。黒色細粒子・雲母目立つ。白色粒子少量。スコリア微量。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面7.5YR7/4にぶい橙	口縁部1/4、胴部片	粉土A。
82		須恵器	甕	—	<21.0>	(17.0)	829.2	底部平底。胴部直線的に立上がり、やや内彎気味に開く。バケツ形の甕である。	胴部外面は平行叩き。下端ヘラケズリ。底部には板目が見られる。内面は当具痕あり。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面10YR6/4にぶい黄橙	胴部～底部1/3	粉土A。胴部外面煤付着。
83		須恵器	甕		—	—	124.4	補修孔と思われる穴が焼成後に穿たれる。	外面平行叩き。内面ミガキ。	良好	砂粒微量。黒色細粒子・雲母・白色粒子微量。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面10YR7/4にぶい橙	胴部片	粉土A。
84	5号住	土師器	甕	(18.2)	<5.8>	—	52.6	胴部やや膨らみ、口縁で口の字に外反し、口唇部は摘み上げられる。	口縁部横ナデ。胴部内外面ナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子やや多い。雲母少量。	内面10YR4/2灰黄褐 外面10YR3/2灰黄褐	口縁～胴部上(C1/4	
85		土師器	甕	—	<13.2>	(10.4)	423.2	底部欠損。胴部下半部分に内彎気味に開く。	胴部外面ヘラケズり。内面ナデ。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英・小礫多い。雲母少量。	内面10YR7/4にぶい黄橙 外面7.5YR5/4にぶい褐	胴部下半1/3	
86		土師器	坏	(17.4)	<5.1>	—	30.7	底部欠損。体部は緩やかに内彎し、口縁で僅かに外反する。大振りの坏。	ロクロ整形。内面ミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。スコリア・雲母目立つ。白色粒子微量。	内面2.5Y5/2暗灰黄 外面10Y6/3にぶい黄橙	口縁～体部1/6	内面黒色処理
87		土師器	高台付坏	14.0	5.8	8.0	161.3	高台は「ハ」の字に付きされ、端部は面取りされる。体部内彎。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。内面丁寧なミガキ。	良好	細砂微量。雲母やや目立つ。白色針状物質微量	内面2.5Y3/1黒褐 外面2.5Y6/3にぶい黄	体部2/3欠損	内面黒色処理。
88		土師器	高台付坏	(14.4)	<3.9>	—	61.8	高台部欠損。底部平底。体部内彎気味に大きく開く。	ロクロ整形。内面ミガキ。体部外面下端～底部はナデ。	良好 二次焼成	細砂微量。雲母少量、白色粒子・黒色粒子微量。	内面10YR5/2灰黄褐 外面10YR7/2にぶい黄橙	口縁～底部2/6	内面黒色処理
89		石製品	砥石	縦(4.8)	横4.1	厚3.6	31.5	小形の砥石であろうが脆部欠損している。方形を呈し、使用面は上下両面で曲面になっている。縦砥石と判断される。砂質は砥石用。						被熱
90	7号住	上師器	坏	(12.7)	<3.0>	—	10.7	体部は強かに外反気味に開く。	ロクロ整形。内面にはミガキが観察される。	良好	砂粒微量。白色粒子・雲母微量。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁部片	
91		須恵器	高台付坏	-	<2.1>	—	237.0	高台部欠損。体部下端に明瞭な稜を持つ。体部上下はやや外反気味に開くものと思われる。	ロクロ整形。底部はヘラ切りの後周縁をナデ。	良好	長石・石英多い、小礫多い。雲母微微量。	内面7.5Y5/1灰 外面N5/灰	口縁～体部上半・高台部欠損	粉土B。

表10 遺物観察表(7)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
92	8号住	土師器	甕	(18.8)	<20.2>		647.8	胴部はやや長胴気味である。口縁は短くく の字に外反し、口唇部は摘み上げられている。	口縁部は内外面共に横ナデ、胴部外面ヘラナデ、内面当て具痕	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。スコリア・小礫少量。	内面10YR5/4黄褐 外面10YR5/4にぶい黄橙	口縁～胴部1/3	
93		土師器	甕	-	<8.8>	12.0	329.4	底部は平底で体部下端は僅かに内彎気味に立つ。器厚である。	底部は砂目、外面胴部はヘラナデ、下端ヘラケズリ、内面はナデ、内面に複数の輪積痕あり。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・雲母やや多い。スコリア・小礫少量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面10YR5/3にぶい黄褐	胴部下半～底部3/8	
94		土師器	小形甕	12.6	<6.9>		146.8	胴部は球形か。口縁は短くく の字に外反し、口唇部は摘み上げられている。小形の甕である。	口縁部は内外面共に横ナデ。胴部外面はナデ、内面はヘラナデ。	良好 二次焼成	細砂微量。白色粒子・雲母・スコリア微量。	内面10YR4/2灰黄褐 外面10YR4/3にぶい黄褐	口縁～胴部2/3	
95		土師器	坏	14.0	4.1	7.6	76.7	底部は平底でやや上底気味。体部は緩やかに内彎し口縁で僅かに外反する。口唇部は薄くなる。器厚薄い。	ロクロ整形。底部はヘラ切りの後回転ヘラケズリ。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母目立つ。白色粒子・スコリア微量。	内面2.5Y3/1黒褐 外面2.5Y4/4オリーブ褐	口縁～底部1/3	内面黒色処理
96		土師器	坏	(13.4)	3.6	7.5	40.7	底部は平底で体部下端は緩やかに内彎し口縁に向かい僅かに外反する。	ロクロ整形。底部はヘラ切りの後ナデ。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面はナデ。	良好	細砂小量。黒色粒子・雲母・スコリア少量。白色粒子微少。	内面10YR7/4にぶい黄橙 外面7.5YR6/6橙	口縁～底部1/3	
97		土師器	坏	(14.6)	<3.4>	—	56.7	底部欠損。体部下端は緩やかに内彎し口縁に向かい直線的に開く。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母目立つ。白色粒子・スコリア微量。	内面10YR6/1褐灰 外面10YR6/3にぶい黄橙	口縁～体部上半1/3	内面黒色処理
98		土師器	坏	(17.8)	6.4	(9.0)	96.8	底部は平底。体部下端は緩やかに内彎し口縁に向かい直線的に開く。大型の坏である。	ロクロ整形。底部及び外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	細砂小量。黒色粒子・白色粒子・雲母・スコリア少量。	内面N3/暗灰 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～底部1/3	内面黒色処理
99		土師器	坏	-	<2.8>	(9.0)	37.1	底部は平底。体部下端は緩やかに内彎する。	ロクロ整形。体部下端～底部は手持ちヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母目立つ。スコリア小粒。	内面N7.5Y2/1黒 外面7.5YR5/3にぶい	体部下半～底部1/4	内面黒色処理
100		土師器	坏	-	—	—	33.9	体部は緩やかに内彎し口縁で僅かに外反する。口唇部は薄くなる。器厚薄い。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	細砂微量。雲母少量。スコリア微少。	内面N3/暗灰 外面10YR6/4にぶい黄橙	体部下半～底部1/4	内面黒色処理。体部外面墨書「□」
101		土師器	高台付坏	15.1	5.9	7.6	260.0	高台はハの字に付され、胴部は丸味を帯びている。体部は緩やかに内彎し口縁に向かいしなやかに外反する。	ロクロ整形。外面底部及び体部下半は回転ヘラケズリ。高台は貼付け後ロクロナデされる。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂微量。金雲母目立つ。スコリア小粒。	内面N2/黒 外面10YR6/3にぶい黄橙	口縁3/4,底部完形	内面黒色処理。体部・底部外面ヘラ記号「×」
102		須恵器	甕	(31.4)	<21.6>		367.2	底部欠損。胴部は逆歪の開き、口縁で短くく の字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面は平行叩き、下端はヘラケズり。内面はナデの後当て具痕が観察される。輪積痕。	遺元不良	細砂小量。雲母多粒。黒色粒子・白色粒子少量。スコリア微量。	10YR5/3にぶい黄褐	口縁～胴部1/12	頸部穿孔あり。胎土A。
103		須恵器	甕	—	—	—	78.8	肩部の破片でやや内彎する。	肩部は平行叩き。内面はナデの後当て具痕が観察される。	良好	細砂小量。白色粒子少量。	内面N5/灰 外面N6/灰	胴部片	胎土D。
104	9号住	土師器	甕	(18.0)	<8.6>	—	121.4	胴部は球形か。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部内外面はナデ。外面にはヘラのあたり有り。	良好	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。雲母少量。	内面7.5YR6/6橙 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁～胴部上半1/4	常総型甕か。
105		土師器	甕	—	<24.0>	(9.2)	562.3	底部は上底気味の平底。胴部はやや内彎気味に立ち、最大径を上位に持つ。	胴部外面はナデの後下端に模位のヘラケズり、部分的にミガキも観察される。内面はナデ。底部砂目。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英多い。金雲母・スコリア少量。	内面10YR7/3にぶい橙 外面7.5YR6/4にぶい橙	胴部～底部2/3	常総型甕か。

表11 遺物観察表(8)

(cm・g)

No.	遺構	器類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
106	9号住	土師器	甕	(14.4)	<7.9>	－	119.9	胴部は球形。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部内外面はナデ。	良好	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。	内面5YR5/4にぶい赤褐 外面5YR6/4にぶい橙	口縁～胴部上半2/5	常総型甕か。
107		土師器	小形甕	(12.2)	<3.5>	—	18.3	口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。小形の甕である。	口縁部内外面は横ナデ。胴部内外面はナデ。	良好	細砂微量。白色粒子・雲母微量。	内面7.5YR6/4にぶい橙 外面2.5YR6/8橙	口縁～胴部片	
108		土師器	坏	14.9	5.0	8.6	251.9	底部は平底。体部は緩やかに内彎し、口縁で僅かに外反する。大振りの坏である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズり、外面体部下端は手持ちヘラケズり。内面はミガキ。	良好	砂粒多い。長石・石英・金雲母多い。	内面2.5Y3/1黒褐 外面7.5YR6/4にぶい橙	口縁一部欠損	内面黒色処理
109		土師器	坏	(12.6)	3.0	(7.6)	53.0	底部は平底。体部は緩やかに内彎するもの。浅い。	ロクロ整形。底部及び体部下端は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好	細砂少量。スコリア少量。白色粒子・雲母微量。	内面5B2/1青黒 外面7.5YR6/6橙	口縁～底部1/4	内面黒色処理
110		土師器	坏		<3.0>	7.0	70.1	底部は平底。体部下端は僅かに内彎している。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り、砂目。内面はミガキ。	良好		内面N3/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	体部下半～底部3/4	内面黒色処理
111		土師器	坏		<2.2>	(7.0)	72.1	底部は平底。体部下端は僅かに内彎している。	ロクロ整形。底部及び体部下端は回転ヘラケズり。内面はナデ。	良好 二次焼成	細砂少量。金雲母目立つ。スコリアやや多い。白色粒子微量。	内面10YR2/3にぶい黄褐 外面7.5YR7/6橙	体部下半～底部3/4	内面黒色処理
112		土師器	高台付皿	12.3	2.4	5.4	148.8	高台は欠損している。底部は平底。体部は外反気味に大きく開く。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズり。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英・雲母多い。	内面7.5Y3/1オリーブ黒　外面5Y5/2灰オリーブ	口縁部一部欠損	内面黒色処理
113	10号住	土師器	甕	20.2	<21.0>	—	699.7	底部は欠損している。胴部はやや長胴気味で最大径を上位に持つ。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられている。	口縁部内外面は横ナデ。胴部外面はナデの後下半はヘラケズり、内面はナデ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。長石・石英・雲母多い。	内面5YR7/6橙 外面5YR3/6明赤褐	口縁～胴部3/4	
114		土師器	坏	13.4	4.3	8.2	156.2	底部は平底。体部下端は僅かに内彎し口縁にかけて直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りの後周縁をナデ。内面はミガキ。	良好	細砂少量。金雲母・白色粒子目立つ。スコリア少量。小礫微量。	内面N1.5/黒 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁～底部3/4	内面黒色処理。体部外面後位墨書「万財」
115		土師器	坏	(14.2)	4.3	9.5	114.7	底部は平底。体部下端は僅かに内彎し口縁にかけて直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り、内面はミガキ。	良好	ほぼ精良。白色粒子・雲母微量。	内面10YR1.7/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～底部3/4	内面黒色処理
116		須恵器	甕	—	<11.7>	—	300.0	胴部張りを持つ。	外面は平行叩き、内面はナデの後当て具痕が顕著にある。	還元不良	細砂微量。雲母多量。スコリア微量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面2.5Y6/3にぶい黄	口縁～胴部上半1/3	粘土A。
117	11号住	土師器	甕	—	<7.2>	(16.0)	173.8	底部は平底か。胴部下端は直線的に開く。	底部は砂目、外面胴部はヘラケズり。内面はナデの後ミガキ。内面輪積み痕。	良好	砂粒やや多い。黒色粒子やや多い。白色粒子微量。	10YR7/4にぶい黄橙	胴部下半～底部1/3	
118		土師器	小型甕	—	<3.3>	—	9.0	胴部は球形か。胴部は直立する。口縁部欠損。	胴部しか残っている為不明。	良好	細砂少量。黒色粒子少量。白色粒子・雲母微量。	5YR7/8橙		
119	12号住	土師器	坏	(17.2)	6.2	(8.0)	42.9	底部欠損。体部は緩やかに内彎した後口縁で僅かに外反する。大振りの坏である。	ロクロ整形。体部外面下端に回転ヘラケズりが見られる。内面はミガキ。	良好	細砂少量。黒色粒子・白色粒子少量。白色針状物質・雲母微量。	内面N2/黒 外面2.5Y5/2暗灰黄	口縁～底部1/12	内面黒色処理

表12 遺物観察表(9)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	器形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
120	12号住	土師器	坏	(20.0)	<4.1>	—	61.2	底部欠損。体部は緩やかに内湾した後口縁で僅かに外反する。入念ヨコナデあり。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	1/4は精良。白色粒子・雲母微量。	内面N1.5/黒 外面10YR6/3にぶい黄橙	口縁～体部1/4	内面黒色処理
121		灰釉陶器	椀	(17.6)	<5.0>	—	36.6	底部欠損。体部は緩やかに内湾した後口縁部で短く外反する。大振りの椀である。器壁やや厚い。	ロクロ整形。体部外面下端に回転ヘラケズリが見られる。	良好	精良。	内面2.5Y7/3浅黄 外面2.5Y8/3浅黄	口縁～体部下1/5	黒笹90号黒
122		土師器	坏	12.9	3.8	7.0	118.4	底部はやや上げ底気味の平底。体部は緩やかに内湾し口縁部で直線的に開く。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。体部下端～底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	細砂少量。白色粒子・白色針状物質・雲母やや多い。	内面2.5Y2/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁部1/2,底部完形	内面黒色処理
123		土師器	坏	12.4	4.2	5.4	95.2	底部は平底。体部は緩やかに内彎し口縁部で直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。白色粒子・白色針状物質・雲母やや多い。	内面N1.5/黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	2/3	内面黒色処理。外面煤付着。体部外面煤付着。「中」墨書
124		土師器	坏	—	<1.4>	(7.2)	42.6	底部は平底。体部下端は緩やかに内彎する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	細砂少量。雲母・スコリア少量。	内面N1.5/黒 外面10YR5/4にぶい黄橙	体部下端～底部1/4	内面黒色処理、底部外面墨痕
125		土師器	坏	—	<1.75>	6.2	65.7	底部は平底で僅かに上底気味である。体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は手持ちヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	砂粒やや多い。雲母・スコリアやや多い。	内面N3/暗灰 外面5YR6/6橙	底部のみ	内面黒色処理
126		土師器	仏鉢	(20.0)	<9.3>	—	149.8	体部は内彎して開き口縁で強く内傾する。	ロクロ整形。体部外面には部分的に手持ちヘラケズリが観察される。内面は粗いミガキ。	良好	細砂少量。金雲母多量。長石・スコリア少量。	内面2.5Y4/2暗灰黄 外面10YR5/3にぶい黄褐	口縁～体部1/4	内面黒色処理
127		土師器	高台付皿	13.4	3.2	6.8	175.2	高台は「ハ」の字に付き出し、体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。内面はミガキ	良好	細砂少量。雲母・黒色粒子やや目立つ。	内面N1.5/黒 外面7.5YR6/6橙	完形	内面黒色処理、墨書底部外面「除」
128		土師器	皿	(13.2)	<1.9>		29.5	底部欠損。体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	細砂少量。雲母・黒色粒子やや目立つ。	内面N1.5/黒 外面10YR5/3にぶい黄橙	口縁～体部下端1/6	内面黒色処理、墨書体部外面「牌力」
129		土師器	皿	(14.0)	<1.9>	—	27.2	底部欠損。体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	細砂少量。雲母・白色粒子少量。	内面2.5GY2/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～体部1/5	内面黒色処理
130		須恵器	甕	(24.0)	<10.8>		111.2	胴部は低かに内彎気味に立ち、口縁で「く」の字に屈曲する。口縁は編み上げた痕跡が観察されている。	口縁内外面に横ナデ、胴部外面は縦方向の刷毛、内面には当て具痕が観察される。	還元不良	砂粒やや多い。長石・石英・雲母多い。	内面5Y2/1黒 外面2.5Y6/3にぶい黄	口縁～胴部上半1/6	陸上A、墨書体部外面「院」
131		石製品	紡石	6.45	6.1	3.35	110.8	線状石の提紐か。分銅形を呈する。断面は緩やかな曲面となり、上下両面に使用が認められる。基部側は欠損している。材質は蛇灰石。						被熱。部分的にタール状物質付着。
132	14号住	土師器	甕	(28.9)	<19.7>	—	824.2	底部欠損。胴部は最大径を上位に持つと思われる。口縁で「く」の字に外反し口唇部で摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部内外面はナデ。	良好 二次焼成	砂粒・小礫多い。長石・石英多い	10YR1/3にぶい黄褐	口縁～胴部上半1/4	
133		土師器	小形甕	(13.0)	<3.8>	—	15.8	小形の甕である。胴部は球形か。口縁は「く」の字に外反し口唇部は摘み上げられる。器厚である。	口縁内外面は横ナデ、胴部内外面はナデ。	良好	砂粒少量。白色粒子・雲母・黒色粒子少量	7.5YR4/3褐	口縁～肩部1/3	

表13 遺物観察表(10)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
134	14号住	土師器	甕	－	<8.2>	(8.7)	123.1	底部は平底で胴部下端はやや内彎気味に立つ。	底部には木葉痕がある。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好 二次焼成	長石・石英・雲母多い	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面7.5YR6/4にぶい橙	胴部下半～底部1/4	底部木葉痕
135		土師器	甕	－	<3.0>	(12.0)	39.6	多孔式の甕の底部である。胴部下端は直線的に開く。	底部には木葉痕がある。胴部外面下端はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	砂粒やや多い。黒色粒子・白色粒子やや多い。雲母多い	10YR7/4にぶい黄橙	底部1/5	底部木葉痕
136		土師器	坏	(9.8)	3.0	4.8	53.6	小形の坏である。底部は平底で体部は直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。スコリア・雲母やや多い。黒色粒子・白色粒子少量。	内面10YR3/1オリーブ黒 外面7.5YR7/4にぶい橙	体部1/7欠損	内面黒色処理
137		土師器	坏	(14.4)	<3.8>	－	17.0	底部欠損。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	極砂少量。雲母・黒色粒子多い。白色粒子少量。	内面10YR6/4にぶい黄橙 外面10YR7/3にぶい黄橙	口縁～体部1/8	
138		土師器	坏	－	<2.05>	<9.1>	16.1	底部は平底で体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	細砂少量。白色粒子・雲母少量。	内面5GY2/1オリーブ黒 外面10YR7/4にぶい黄橙	体部下端～底部1/5	内面黒色処理
139		土師器	高台付坏	(19.0)	<5.6>	－	79.9	高台部欠損。体部は内彎気味に開き口縁端下で若干屈曲となり外方する。口唇部はやや窪みを持つ。大振りである。	高台部欠損。ロクロ整形。底部～体部下端には回転ヘラケズリ、内面ミガキ。	良好 二次焼成	金雲母多い。白色粒子・スコリアやや多い。	内面10YR4/1褐灰 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～底部1/4	内面黒色処理
140		土師器	高台付坏	-	<2.1>	(7.4)	21.6	高台は低い「ハ」の字に付される。	ロクロ整形。外面底部及び体部下半は回転ヘラケズリ。糸切は転付け後ロクロナデされる。内面はミガキ。	良好	砂粒やや多い。スコリア・雲母やや多い。白色針状物質・白色粒子少量。	内面7.5YR5/3にぶい褐 外面5YR7/6橙	体部下端～高台1/3	内面黒色処理
141		土師器	鉢	(18.6)	<9.2>	－	88.4	体部は直線的に立つ。口唇部は面取りされている。	体部外面はヘラケズり。口縁部外面はロナデ。内面はミガキ。	良好	雲母多い。白色粒子・黒色粒子・スコリアやや多い。小礫微量。	内面2.5GY3/1暗オリーブ灰 外面10YR5/4にぶい黄褐	口縁～体部1/7	内面黒色処理
142		土師器	仏鉢	(16.8)	<4.6>	－	40.1	体部は直線的に開き、口縁は屈曲し内傾する。口唇部は面取りされている。	ロクロ整形。内面及び口縁部はミガキ。	良好	細砂精良。雲母少量。	内面7.5Y3/1オリーブ黒 外面10YR7/3にぶい黄橙	口縁～体部1/3	内面黒色処理
143		須恵器	高台付坏	－	<3.55>	(7.8)	87.7	高台は「ハ」の字に開く。体部は緩やかに内彎して立つ。	ロクロ整形。体部下端回転ヘラケズり。回転ヘラ切りの後高台が付されロクロナデされる。	良好	細砂微量。白色粒子やや目立つ。鉄分の噴出少量。白色針状物質極微量。	内面10YR4/1褐灰 外面10Y5/1灰	体部下半～高台2/3	粘土に、底部内面赤色顔料付着。転用硯か。
144		灰釉陶器	耳皿	(12.5)	<2.4>	5.0	99.7	体部は水平に大きく開き、口縁端は対峙する部分を耳状に内側に折り曲げている。	ロクロ整形。底部は回転糸切りの後高台が付される。灰釉は高台内、耳折曲げ内面を除いて刷毛塗りされる。	良好	微少の噴出し多い。小礫やや目立つ。	7.5Y6/3オリーブ灰	口縁部欠損	二川窯
145		石製品	金床石	11.7	9.6	9.2	1,278.8	自然礫の岩塊。被熱により一部破損している。被熱しており金床石と判断される。材質は石英斑岩。						
146		石製品	金床石	12.9	11.4	5.0	853.0	自然礫の岩塊。被熱しており金床石と判断される。材質は粗灰岩。						

表14 遺物観察表(11)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
147	14号住	石製品	金床石	7.1	6.6	3.2	172.7	自然礫の剥離。熱により一部破損している。被熱しており金床石と判断される。			材質は花崗閃緑岩。			
148	15号住	土師器	甕	(19.6)	<7.1>	—	93.8	胴部は球形か。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部外面はナデ。内面には刷毛状工具によるナデが観察される。	良好	砂粒少量。黒色粒子やや多い。白色粒子・雲母少量。スコリア微量。	7.5YR6/6橙	口縁～胴部上位1/4	
149		土師器	甕	(22.8)	<5.7>	—	72.4	胴部は球形か。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部内外面はナデ。	良好	砂粒やや多い。黒色粒子・雲母やや多い。スコリア・白色粒子少量。	内面7.5YR8/4表黄橙 外面7.5YR6/6橙	口縁～胴部上位1/4	所部内面黒色処理
150		土師器	小形甕	(14.0)	<4.0>	—	18.4	小形の甕である。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部内外面はナデ。	良好	細砂少量。雲母・白色粒子やや多い。	内面10YR4/3にぶい黄褐 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁～頸部1/8	
151		土師器	甕	—	<4.8>	7.9	191.2	底部は平底で胴部下端はやや直線的に立つ。	底部には木葉痕有り。胴部外面はヘラケズり、内面はナデ。	良好	砂粒やや多い。長石・石英多い。スコリア少量。	内面7.5YR7/6橙 外面7.5YR7/4にぶい橙	底部完形	
152		土師器	甕	—	<2.7>	6.0	33.5	底部は平底で胴部下端はやや直線的に立つ。	底部には木葉痕有り。胴部外面はヘラケズり、内面はナデ。	良好	砂粒少量。白色粒子・雲母少量。	内面10YR3/2黒褐 外面7.5YR5/4にぶい褐	胴部下端1/4、底部3/4	
153		土師器	坏	(13.2)	4.3	8.3	123.6	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後傾斜に外反して開く。	ロクロ整形。底部～体部下端は回転ヘラケズり、内面はミガキ。	良好	細砂微量。白色粒子・雲母微量。	内面N1.5/黒 外面10YR7/4にぶい黄橙	口縁1/4～底部完形	内面黒色処理。底部外面墨書「厂(脚か)」
154		土師器	坏	—	<2.9>	9.2	66.6	底部は平底で、体部下端は内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転糸切り後回転ヘラケズり。外面体部下端は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好	細砂微量。黄母・スコリアやや多い。白色粒子・黒色粒子微量。	7.5YR6/4にぶい橙	体部～底部1/2	
155		土師器	坏	(13.0)	4.5	7.5	81.4	底部は平底で、体部は内湾した後直線的に開き口縁部で僅かに外反する。	ロクロ整形。底部は切り離し後手持ちヘラケズり。外面体部下端は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。雲母・白色粒子やや多い。黒色粒子・スコリア少量。	内面10YR3/1黒褐 外面7.5YR6/8橙	口縁1/8～底部3/4	内面黒色処理
156		土師器	坏	(12.8)	4.4	(6.5)	47.2	底部は平底で、体部は内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂やや多い。白色粒子・雲母やや多い。スコリア少量。白色針状物質微量。	内面10YR3/1黒褐 外面7.5YR7/6橙	口縁1/8～底部1/4	内面黒色処理
157		土師器	坏		<2.7>	7.4	32.0	底部は平底で体部下下は内湾している。	ロクロ整形。底部は切り離しの後ヘラで整えている。体部下端にはミガキによる整形が観察される。内面はミガキ。	良好	細砂少量。白色粒子・雲母少量。	内面N1.5/黒 外面7.5YR6/6明橙	体部～底部1/6	内面黒色処理。体部外面墨位墨書「今」
158		土師器	坏	(14.0)	<3.8>	—	32.1	底部欠損。体部はやや内湾気味に開く。	ロクロ整形。	良好	細砂少量。白色粒子・スコリア・雲母少量。	内面10YR2/1黒 外面7.5YR6/6橙	口縁～底部1/2	内面黒色処理
159		土師器	坏	(13.5)	4.05	(8.2)	101.7	底部は平底で、体部はやや内湾して開く。器厚である。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。黒色粒子・スコリア・雲母やや多い。白色粒子少量。	内面10YR3/1オリーブ黒 外面7.5YR6/4にぶい橙	口縁～底部1/2	内面黒色処理
160		土師器	坏	13.03	4.85	8.0	176.8	底部は平底で、体部は内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。白色粒子・雲母・黒色粒子やや多い。スコリア少量。	内面10YR3/1黒褐 外面7.5YR6/4にぶい橙	口径完形	内面黒色処理

表15 遺物観察表(12)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
161		土師器	坏	—	<3.1>	(8.2)	94.8	底部は平底で、体部下端は内弯している。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。黒色粒子・雲母やや多い。スコリア・白色粒子少量。	7.5YR6/6橙	底部1/2	
162		土師器	坏	(11.8)	<3.7>	—	23.2	底部欠損。体部は内彎した後直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下半は下神ちへラケズリ。	良好	白色粒子やや多い。雲母少量。小礫微量。	内面10YR4/1褐灰 外面7.5YR4/2灰褐	口縁～体部1/4	
163		土師器	灯明皿	10.6	3.2	5.1	115.3	底部は平底。体部はやや外反気味に開く。	ボロクロ整形。内面体部は横ナデ。底部は指による整形であるが乱雑な為かが器薄な部分が出来、焼成時に亀裂が発生している。外面体部は横ナデ、下半～底部は下神ちへラケズリ。	良好	砂粒多い。白色粒子多い。スコリア少量。小礫・中礫多い。	内面5YR6/4にぶい橙 外面7.5YR6/6橙	完形	口縁部煤付着。
164		土師器	坏	(14.0)	3.15	10.6	94.2	浅い皿状の坏。底部は平底で体部は僅かに内彎気味に開く。	ロクロ整形。底部は切り離し後手神ちへラケズリ。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好 二次焼成	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。スコリア微量。	内面10YR3/1黒褐 外面7.5YR7/6橙	完形	
165		土師器	高台付坏	—	<4.7>	(8.0)	95.8	高台は八の字に付され端部は面取られている。体部は内彎気味に開く。	ロクロ整形。外面底部及び体部下半は回転ヘラケズリ。貼付け高台。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子・雲母・スコリア少量。	内面5Y3/1オリーブ黒 外面5YR5/6明赤褐	体部1/8,底部完形,高台1/3	内面黒色処理
166		土師器	高台付坏	—	<2.45>	—	21.7	高台は八の字に付され、体部下端は内彎気味に開く。	ロクロ整形。外面底部及び体部下端は回転ヘラケズリ。高台は貼付け後ロクロナデされる。内面はミガキ。	良好 二次焼成	細砂少量。黒色粒子・雲母・スコリア・白色粒子少量。	10Y3/1オリーブ黒	1/3	
167	15号住	土師器	高台付皿	(14.0)	<1.8>	—	32.0	高台は欠損している。体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子・雲母・スコリア少量。	内面10YR4/1褐 外面10YR6/8橙	1/4	内面黒色処理
168		土師器	高台付皿	(14.0)	<1.9>	—	35.6	高台は欠損している。体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。外面体部下半は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	細砂やや多い。雲母多い。白色粒子やや多い。黒色粒子少量。スコリア微量。	内面10YR5/3にぶい黄褐 外面 7.5YR6/6橙	口縁～体部1/7	内面黒色処理
169		土師器	高台付皿	13.4	4.0	7.0	186.8	高台は八の字に付される。やや外反気味で端部は面取られている。体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。雲母・スコリアやや目立つ。白色粒子少量。	内面N1.5/黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁部 一部欠損	内面黒色処理。体部外面横位墨書「寺」
170		土師器	高台付皿	(13.4)	2.55	6.4	98.8	高台は八の字に付され端部は面取られている。体部は直線的に大きく開く。外端拭痕。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。高台は貼付け後ロクロナデされる。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。黒色粒子・スコリア・雲母やや多い。雲母・白色粒子少量。	内面10Y3/1オリーブ黒 外面 7.5YR6/6橙	口縁～体部1/4,高台完形	内面黒色処理
171		土師器	高台付皿	—	<2.3>	6.8	61.3	高台は八の字に付される。やや外反気味で端部は面取られている。内端段堤。	底部ナデ。高台部はロクロ整形。	良好	細砂少量。黒色粒子・スコリア・雲母やや多い。白色粒子少量。	内面N1.5/黒 外面5YR7/6橙	底部のみ	内面黒色処理。底部外面刷毛目「下」(焼成前)
172		土師器	火舎	5.1	—	<7.65>	85.7	脚部下半の破片。内面は円形の曲面を有すが、外面には脚が付されていたもので、やや方形を呈する可能性がある。脚は付け根部分より欠損している。	ロクロ整形の後脚は付される。脚の断面形は一角形を呈し、貼付けの後指によるナデ整形が行われている。	良好 二次焼成	長石・石英多い。雲母少量。	内面5YR6/6橙 外面7.5YR7/4にぶい橙	脚接合部	
173		土師器	高坏	—	<3.6>	—	62.0	接合部の資料。僅かに残る上端部は僅かに内彎して開く。脚柱部は細いものと思われる。	ロクロ整形。上端面内面及び脚柱接合部にミガキが縦横される。	良好	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子・スコリア・雲母少量。	10YR6/3にぶい黄橙	上端部1/5	

表16 遺物観察表(13)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
174	15号生	土師器	仏鉢	(18.1)	<5.9>	−	43.6	体部はやや内彎して開き口縁で強く内傾する。口唇は面取りされている。	ロクロ整形。体部内外面ミガキ。	良好 二次焼成	砂粒少量。白色粒子・黒色粒子・雲母少量。スコリア微量。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～体部上位1/9	
175		土師器	仏鉢	(19.0)	<5.8>	−	26.9	体部は内彎して開き口縁で強く内傾する。口唇は面取りされている。	ロクロ整形。体部内外面ミガキ。	良好	ほぼ精良。雲母・黒色粒子少量。	内面7.5YR6/4にぶい橙 外面10YR5/4にぶい黄橙	口縁～体部上位1/9	体部外面ヘラ記号×j(焼成前)
176		土師器	仏鉢	−	<6.0>		38.5	体部は内彎して開き口縁で強く内傾する。	ロクロ整形。体部内外面ミガキ。	良好	砂粒少量。雲母やや多い。白色粒子・スコリア少量。	内面10Y4/1灰 外面10YR6/6明黄褐	体部片	内面黒色処理
177		須恵器	甕	(33.0)	<5.9>	−	93.4	口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は平行叩き、内面には当て具痕が顕著にされる。	酸元不良	雲母多量。黒色粒子・白色粒子微量。	内面2.5Y7/3浅黄 外面2.5Y6/2灰黄	口縁部1/8	胎土A
178		須恵器	甕	(34.0)	<8.5>	−	183.6	口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面は平行叩き、内面当て具痕有り。	良好	砂粒やや多い。雲母・暗灰色粒子多い。長石・石英少量。	内面5Y6/1灰 外面5Y5/1灰	口縁～体部上位1/6	胎土A
179		須恵器	甕	(25.6)	<3.1>	−	57.5	口縁は大きく外反して開き、口唇部を上下に摘み出す。	ロクロ整形。	良好	白色粒子・砂分の噴き出し・小礫やや目立つ。	内面7.5YR6/1灰 外面10Y6/1灰	口縁部1/8	胎土D。
180		須恵器	甕	−	−	−	193.1	内彎する甕の胴部片である。	外面は平行叩き、内面には当て具痕あり。	良好	砂粒少量。白色粒子。	内面5Y5/1灰 外面5Y8/1灰	胴部片	胎土D。内面層状・墨痕あり。転用硯
181		須恵器	甕	−	<28.1>	−	418.5	口縁及び底部欠損。最大径を上位に持つやや尖胴気味の甕である。	胴部外面は縦格子状叩き、内面には当て具痕と板状の輪積痕が観察される。	酸化不良	砂粒やや多い。長石・石英・雲母・スコリアやや多い。	内面10YR7/2にぶい黄橙 外面10YR5/4にぶい赤褐	胴部上半1/4、胴部下半1/8	胎土A
182		須恵器	坏	(12.4)	4.75	5.4	79.1	底部は平底で中央部分がやや上底気味。体部は内彎した後直線的に開き口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。外面体部下端は手持ちヘラケズリ、底部は一方向の下持ちヘラケズリ。	良好	白色粒子・砂分の噴き出し微量。小礫やや目立つ。	N6/灰	口縁～底部1/2	海之内窯
183		須恵器	坏転用 硯か	(14.3)	(4.4)	8.0	181.5	底部は平底で体部は内彎した後直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は手持ちヘラケズリ。	二次焼成	雲母・小礫多い。	内面5YR5/1褐灰 外面2.5Y8/1黄灰	口縁部3/4欠損	胎土A。用途として使用されたものか、器面には漆状が付着し、一部土器自体もガラス化している。
184		須恵器	坏転用 硯か	(13.3)	(4.7)	(7.4)	110.4	底部は平底で体部は内彎気味に開く。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。体部下端～底部は回転ヘラケズり。	二次焼成	白色粒子・スコリア・鉄分の噴き出しやや多い。	内面7.5Y5/1灰 外面5Y5/1灰	口縁～底部1/2	胎土A。用途として使用されたものか、器面には漆状が付着し、一部土器自体もガラス化している。
185		須恵器	仏鉢	(18.1)	<4.1>	−	25.3	体部は内彎し口縁に向かい内傾する。口唇は面取りされている。	ロクロ整形。	良好	ほぼ精良。雲母多い。黒色粒子微量。	内面2.5Y5/2暗灰黄 外面10YR5/2灰黄褐	口縁～体部1/7	胎土A

表17 遺物観察表(14)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
186	15号住	灰釉陶器	瓶	－	<12.2>	－	67.4	胴部より肩部にかけて緩やかに開き、口縁部は内傾する。	ロクロ整形。外面胴部上半～肩部にかけて灰釉が掛る。	良好	黒色粒子やや目立つ。長石の噴き出し・白色粒子少量。	内面7.5YR8/1灰白 外面5Y7/1灰白	胴部1/3	猿投窯
187		砂質製品	鋳型か	7.7	5.4	2.3	77.5	砂質の製品である。上面は両面して鋼材の付着が観察される。底部は直接熱を受けていないが全体に被熱により砂岩状に石化している。						
188		砂質製品	鋳型か	4.2	4.55	1.9	33.2	砂質の製品である。上面は両面する。底部は熱を受けていないが全体に被熱により砂岩状に石化している。						
189		砂質製品	鋳型か	3.7	3.6	1.7	18.7	砂質の製品である。上面は両面して鋼材の付着が観察される。底部は直接熱を受けていないが全体に被熱により砂岩状に石化している。						
190		土製品	土錘	(3.5)	(1.35)	孔径0.3	2.7	紡錘形を呈するものと判断されるが、端部は欠損する。長軸方向に孔が貫通する。ナデによる整形が行われている。		良好	白色粒子・黒色粒子・雲母微量。	7.5YR6/6橙	1/2	
191		石製品	金床石	19.2	14.8	10.9	4,960.0	塊状の自然石を用いたもので、表面に被熱痕と擦痕が観察される						
192	1号溝	不明	環か	5.9	3.3	1.95	8.2	樹脂状の塊。表面に付着状の繊維が付着した状態で固着している。						
193	3号溝	土師質土器	内耳鍋か	(39.6)	<5.4>	－	85.4	体部～口縁部が直線的に開く。口唇内面に段を有する。	ロクロ整形	良好	金雲母多量。白色粒子・黒色粒子少量。	内面7.5YR5/4にぶい橙 外面7.5YR4/3褐	口縁1/12	外面煤付着。内面刺掌「×」(焼成前)。
194		土師質土器	内耳鍋か	(30.0)	<8.5>	－	118.8	体部～口縁部が直線的に開く。口唇内面に段を有する。	ロクロ整形	良好 二次焼成	長石・石英・雲母・黒色粒子多量。	内面5YR7/6黄橙 外面7.5YR6/6橙	口縁～体部上半1/8	
195		土師質土器	内耳鍋	－	－	－	74.2	口縁直下に耳を貼付する。耳貼付部分は器壁が薄く、外へ膨らむ。	ロクロ整形	良好	金雲母多量。スコリア・黒色粒子・長石・白英やや多い。	内面7.5YR7/6橙 外面7.5YR5/4にぶい褐	口縁部片	外面煤付着
196		土師質土器	内耳鍋	－	－	－	83.4	口縁直下に耳を貼付する。耳貼付部分は器壁が薄く、外へ膨らむ。	ロクロ整形	良好	金雲母多量。スコリア・黒色粒子・長石・白英やや多い。	内面5YR6/6橙 外面5YR5/6明赤褐	口縁部片	外面煤付着
197		土師質土器	小皿	(7.6)	<2.1>	(2.9)	5.8	底径小さく、体部直線的に開く。	ロクロ整形。	良好 二次焼成	黒色粒子やや多い。雲母少量。	内面10YR8/1灰白 外面10YR8/2灰白	口縁～体部1/8	
198		土師質土器	小皿	(6.1)	1.95	3.7	21.2	底部平底。体部は低かに内彎し、口縁で外反気味に開く。	ロクロ整形。底部回転糸切り。	良好	金雲母・黒色粒子やや多い。	7.5YR6/6橙	体部2/3欠損	口縁部煤付着。
199		土師質土器	小皿	－	<1.5>	(5.4)	5.9	底部は平底。体部はやや外反気味に開く。	ロクロ整形。底部回転糸切り。	良好	雲母精良。金雲母多い。	7.5YR6/4にぶい橙	体部下端～底部1/2	
200		陶器	甕	(38.0)	<5.5>		192.5	口縁やや外傾気味に直立する。	ロクロ成形。口縁端部を小手状に折り返す。折り返し部は完全に接着せず、口縁接着部が垂下して頸部に密着する。	良好	白色粒子少量。	2.5YR5/3にぶい赤褐	口縁1/12	常滑焼。中野編年9～10形式。
201		陶器	擂鉢	－		－	37.9		ロクロ整形。鉄釉施釉。	良好	精良	内面5YR4/4にぶい赤褐 外面5YR5/4にぶい赤褐	体部片	近世以降。瀬戸・美濃系
202		土師器	甕		<4.1>	(13.9)	46.6	底部は平底で体部下端は直線的に開く。	底部はヘラケズリ。体部は内外面共にナデ。	良好 二次焼成	金雲母が多い。黒色粒子・白色粒子やや多い。	内面2.5Y5/3黄褐 外面10YR6/4にぶい黄橙	底部1/8	

表18 遺物観察表(15)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	整形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
203	3号溝	瓦	平瓦	—	—	—	245.5		凹面は布目痕、凸面は縄目状叩き。	良好	長石・石英粗粒で多量。	内面5Y7/2灰白 外面5Y6/2灰オリー	小片	
204		上製品	羽口	外径(7.4)	長<3.4>	—	34.3	羽口端部は被熱によりガラス化。鉄滓付着する。孔径(4.0)					小片	
205		上製品	羽口	外径(6.0)	長<5.0>	—	136.3	羽口端部は被熱によりガラス化。鉄滓付着する。孔径(3.0)					小片	
206		鉄滓	椀状滓	11.5	5.5	5.4	251.7							
207		石製品	金床石	12.6	9.9	7.0	1,427.6				石英斑岩			
208		石製品	瓦輪塔	17.5	20.2	12.3	4,500.0				花崗岩。風化激しい。			火輪
209	4号溝	土師器	坏	(13.3)	4.1	9.0	74.0	底部にやや上底気味の平底。体部は内彎気味に開く。口縁部はやや窄みを持つ。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラケズり。外面体部下端は回転ヘラ削り。内面はミガキ。	良好	砂粒微量。スコリアやや目立つ。白色粒子・雲母微量。	内面5Y2/1黒 外面10YR7/3にぶい黄橙	口縁～底部1/2	内面黒色処理
210		土師器	坏	(14.2)	3.9	(8.2)	47.3	底部に平底で体部に緩かに内彎した後直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好	細砂微量。白雲母・黒色細粒子やや多い。白色粒子・スコリア微小。	内面5Y2/1黒 外面7.5YR7/4にぶい橙	口縁～底部1/4	内面黒色処理
211		須恵器	甕	—	—	—	154.8		自然釉が被る為に外面の整形痕は不明だが、内面に当て具痕が観察される。全分か。叩きによる整形が行われているものと思われる。	良好	鉄分の噴出し・白色粒子・小礫少量。	内面10Y6/1灰 外面5Y5/3灰オリーブ	胴部片	胎土D。外面自然釉。内面に層状あり。転用硯か。
212		須恵器	坏	13.8	4.6	5.4	81.4	底部は平底。底部が小さく、体部は直線的に開く。器壁薄い。	ロクロ整形。体部下端～底部に手持ちヘラケズり。	還元不良	砂粒微量。雲母多量。白色粒子やや目立つ。	N5/灰	底部完形、口縁～体部1/3	胎土A。体部外面縦位「太」。底部外面「キ」。出谷。
213		土製品	火舎脚部か	6.8	4.4	3.3	153.5	断面楕円形の柱状を呈し、上部に面部の接合痕残存。接合部付近は広がりを持つ。脚部か。	ヘラによる整形。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。白色粒子・小礫やや多い。雲母微量。	10YR5/3にぶい黄橙	脚部	被熱か
214	1号井戸	土師器	坏	(13.0)	4.0	7.6	109.6	底部は平底で体部は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズり。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒微量。金雲母やや多い。白色粒子微量。	内面7.5Y2/1黒 外面10YR4/1褐灰	口縁～底部3/4	内面黒色処理
215		土師器	坏	· ·	—	—	7.5	底部は平底。	ロクロ整形。底部へラケズり。	良好	砂粒微小。白色粒子・雲母少々。	10YR4/1褐灰	体部下端～底部片	体部外面褐釉「口」
216		須恵器	壺	(30.0)	<8.0>	—	132.7	胴部は直線的にやち、口縁はくの字に外反しロ縁部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面は平行叩き、内面は当て具痕有り。	還元不良	砂粒微量。金雲母多量。白色粒子微量。	内面10YR5/3にぶい黄橙　外面2.5Y4/1黄灰	口縁～胴部上半1/6	胎土A
217		須恵器	甕	—	—	—	164.1	やや内彎気味である。	胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	良好	砂粒少量。白色粒子・小礫少量。白色針状物質微量。	内面7.5Y6/1灰 外面N3/灰	胴部片	胎土D。
218		須恵器	坏	(14.0)	3.5	(6.0)	29.2	底部は平底で体部は直線的に大きく開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は手持ちヘラケズり。	良好	砂粒やや多い。白色粒子・細礫やや多い。鉄分の噴出し微量。	内面N4/灰 外面7.5Y5/1灰	口縁～底部1/8	胎土D。
219	2号井戸	土師器	坏	(18.0)	5.2	(7.2)	66.2	大振りな坏である。底部は平底で体部は内彎した後口縁で緩やかに外反する。	ロクロ整形であるが、外面の制作が著しく調整は不明。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。雲母・スコリア目立つ。白色粒子少量。	内面N2/黒 外面5YR6/6橙	口縁～底部1/4	内面黒色処理
220		須恵器	甕	—	—	—	139.3	胴部はやや内彎気味に立つ。	胴部外面は平行叩き、内面は当て具痕有り。	良好 二次焼成	砂粒少量。雲母多い。黒色細粒子少量。	内面2.5Y7/2灰黄 外面2.5Y6/2灰黄	胴部片	胎土A

表19 遺物観察表(16)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	製形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
221	3号横穴 杜 施物	土師器	坏	－	<1.7>	－	18.2	底部は平底で体部下端は内彎している。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	砂粒少量。雲母・スコリアやや目立つ。白色粒子少量。	内面N2/黒 外面10YR6/3にぶい黄橙	底部片	内面黒色処理、底部外面煤
222	1号土坑	須恵器	甕	(30.0)	<9.1>	－	94.7	胴部は直線的に開き口縁で緩やかに外反する。口唇部は僅かに横ナデ上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面は平行叩き、内面はナデ。	還元不良	砂粒やや多い。金雲母多い。白色粒子・小礫やや多い。	内面2.5Y5/1黄灰 外面2.5Y4/1黄灰	口縁～胴部上半1/4	新土人
223	3号土坑	土師器	鉢	(22.0)	<5.9>	－	54.6	胴部は球形か。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部内外面はナデ。	良好	砂粒少量。雲母・スコリアやや目立つ。白色粒子少量。	10YR6/3にぶい黄橙	口縁～肩部1/8	
224		土師器	甕	(22.0)	<6.6>	－	40.1	底部は直線的に立ち、口縁で短く外反する。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	細砂微量。雲母・黒色細粒子少量。白色粒子微量。	内面N1.5/黒 外面10YR7/3にぶい黄橙	口縁～胴部上1/9	内面黒色処理
225	8号土坑	土師器	高台付坏	－	<2.5>	7.0	41.5	高台は短くハの字に付される。体部下端は内彎している。	ロクロ整形。高台は底部切離しの後に付され、ロクロナデされる。内面ミガキ。	良好	細砂微量。金雲母・黒色細粒子やや多い。白色粒子微少。	内面7.5YR6/6橙 外面7.5YR8/4淡黄橙	体部下半～底部1/4	
226	13号土坑	須恵器	甕	－	－	－	20.3	大形の甕の頸部片か。	凸線を界として櫛描波状文が二条巡る。	良好	白色粒子微少。	N3/灰	口縁部片	断面がセピア色を呈し他成温度がやや低い。胴部編か
227	14号土坑	上師器	高台付皿	(13.0)	<2.3>	－	23.1	高台は欠損している。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。	良好 二次焼成	細砂微量。雲母・黒色細粒子・白色粒子微量。	5Y6/2灰オリーブ	口縁～体部1/4	
228	15号土坑	土師器	坏	13.0	4.5	7.2	92.8	底部は平底で体部は内彎した後直線的に開き口縁で緩彎になる。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキ。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。長石・石英・雲母やや多い。	内面N1.5/黒 外面10YR6/3にぶい黄橙	1/2	内面黒色処理
229	20号土坑	土師器	壺	(21.4)	<15.3>		245.6	胴部はやや内彎気味に立ち、口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部内外面はナデ。	良好	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。雲母少量。	内面10YR5/4にぶい黄褐 外面7.5YR5/6明褐	口縁～胴部上半1/4	
230		土師器	壺	(18.6)	<9.0>		153.2	胴部は球形か。口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面に横ナデ、胴部外面はナデ、内面は刷毛状工具による整形の後ナデ。	良好 二次焼成	砂粒多い。長石・石英・雲母多い。	10YR6/3にぶい黄橙	口縁～胴部上半3/5	高槻型壺か。
231		土師器	小形壺	(10.0)	<2.4>	－	11.3	口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。小形の壺である。	口縁内外面は横ナデ。	良好	砂粒やや多い。長石・石英・雲母やや多い。	内面7.5YR7/6橙 外面7.5YR8/6橙	口縁～肩部1/4	
232		土師器	小形壺	(9.2)	<3.3>		25.9	胴部は球形か。口縁はやや内傾気味に立ち口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	砂粒やや多い。黒色粒子・長石・石英やや多い。雲母少量。	10YR7/4にぶい黄橙	口縁～肩部1/4	
233		土師器	坏	(13.6)	3.6	(7.0)	55.2	底部は平底で体部は内彎した後直線的に開き口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は手持ちヘラケズり。	良好 二次焼成	砂粒少量。スコリア・雲母やや目立つ。白色粒子。少量。	内面5Y3/1オリーブ黒 外面10YR8/4にぶい黄橙	口縁～底部5/12	内面黒色処理
234		土師器	坏	(12.8)	4.2	(6.6)	33.4	底部は平底で体部は内彎した後直線的に開き口縁に至る。	ロクロ整形。底部は切り離しの後手持ちヘラケズり。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母多い。スコリア・白色粒子微量。	内面10YR4/1褐灰 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～体部1/12、底部1/4	内面黒色処理

表20 遺物観察表(17)

(cm・g)

No.	遺構	種類	器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	重量(g)	器形の特徴	成形の特徴	焼成	胎土	色調	残存	備考
235	20号土坑	土師器	坏		<2.6>	(8.5)	43.2	底部は平底で体部は内彎している。	ロクロ整形。底部は切り離しの後下付もへラケズリ。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母多量。スコリアやや目立つ。白色粒子微量。	内面7.5YR5/6明橙 外面7.5YR6/6橙	体部下半～底部1/3	
236		土師器	坏	(15.6)	<4.2>	—	41.0	底部欠損。体部は内彎した後口縁直下で開くより強く外反しよ際に至る。	ロクロ成形。	良好	砂粒少量。金雲母多量。スコリアやや目立つ。白色粒子少量。	内面5Y2/1黒 外面10YR5/4にぶい黄橙	口縁～体部下半1/4	内面黒色処理
237		土師器	坏	—		—	2.0	内彎する坏の体部片である。	ロクロ整形。内面はミガキ。	良好	細砂微量。雲母やや目立つ。スコリア・白色砂子・黒色粒子微量。	2.5Y6/3にぶい黄	体部片	体部外面刻書(×カ)(焼成前)
238		土師器	高台付皿	(13.6)	<2.1>		33.2	底部欠損。体部はやや内彎気味に開いた後、内面口縁直下に沈線を一条者し外反した後口唇に至る。	ロクロ成形。内面はミガキ。	良好	細砂微量。金雲母やや目立つ。スコリア・白色粒子・黒色粒子微量。	内面10YR5/4にぶい黄橙 外面10YR6/4にぶい黄橙	口縁～体部1/2	体部外面刻書(焼成後)
239		土師器	高台付皿	—	<2.1>	8.3	57.6	高台部のみの資料。高台は「ハ」の字に付される。	底部は回転ヘラ切り。高台は貼付けられた後ロクロナデされている。	良好 二次焼成	砂粒やや多い。雲母・スコリアやや目立つ。白色粒子少量。	内面5Y3/1オリーブ黒 外面10YR7/6明黄橙	高台部完形	
240		須恵器	甕	(18.9)	<7.6>	—	98.1	胴部は球形か。口縁はくの字に外反する。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面は斜格子状の叩きか。内面はナデ。	遺元不良	砂粒やや多い。長石・石英・雲母やや多い。	内面10YR6/3にぶい黄橙 外面2.5Y6/3黄橙	口縁～胴部1/8	胎土A。
241		須恵器	甕	—	<4.9>	—	35.3	口縁部外反。口唇部上下に摘み出す。	口縁内外面共に横ナデ。	良好	砂粒やや多い。長石・石英やや多い。	10Y4/1灰	口縁部片	胎土B。
242		石製品	紡錘車	4.2	—	1.0	23.7				滑石。	5Y3/1オリーブ黒	ほぼ完形	孔径0.7
243	40号土坑	鉄製品	鎌か	<7.2>	<2.3>	0.4	11.9							
244	P26	土師器	坏	—	<2.1>	7.0	56.3	底部は平底で体部下端は内彎している。	ロクロ整形。底部は切り離し後回転ヘラ削り。外面体部下端は回転ヘラ削り。	良好	細砂微量。雲母多い。スコリアやや目立つ。白色粒子微量。	内面N1.5/黒 外面10YR7/4にぶい黄橙	底部1/2	内面黒色処理
245	P44	陶器	擂鉢	(28.0)	<4.0>	—	33.0			良好		内面10YR4/2灰黄褐 外面10YR2/2黒褐	口縁部片	近世以降,産地不明
246	P150	土師器	坏か	—	—	—	7.1	直線的に開く坏の体部片か。	ロクロ整形の後内外面共にガキ。	良好	精良。	内面N1.5/黒 外面10YR4/1褐灰	体部片	外面無有(焼成前)。内面黒色処理
247		土師器	高台付坏	—	<1.9>	5.8	50.8	高台は短くハの字に付される。体部下端は内彎している。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。高台は貼付けられた後ロクロ整形している。	良好	細砂少量。白色針状物質やや目立つ。白色粒子・黒色粒子・スコリア少量。	内面7.5Y2/1黒 外面10YR6/4にぶい黄橙	底部完形	内面黒色処理
248		須恵器	甕	(27.6)	<9.0>	—	156.2	胴部はやや内彎気味に立ち、口縁はくの字に外反し口唇部は摘み上げられる。	口縁内外面は横ナデ、胴部外面は平行叩き、内面当て具痕有り。	良好	砂粒少量。雲母・黒色粒子やや目立つ。白色粒子少量。	内面5Y6/1灰 外面5Y5/1灰	口縁～胴部上半1/5	胎土A
249		灰釉陶器	瓶		<3.2>	(7.6)	27.8	高台はやや内彎気味にハの字に付され、端部で強かに幅広くなり面取りが行われている。胴部下端は内彎する。	ロクロ整形。	良好	細砂少量。砂分の噛出し・極状色粒子少量。	内面2.5Y7/1灰 外面5Y7/1灰白	底部～高台1/8	底投形
250		土師質土器	小皿		<1.8>	(5.0)	11.6	底部は平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	良好	細砂微量。金雲母・黒色細粒子やや多い。スコリア微量。	10YR6/3にぶい黄橙	体部下半～底部1/5	16世紀後半。
251		陶器	甕	—		—	60.1	口縁は外反して開き、口唇部を下へ摘み出す。	ロクロ整形。胴部付近に沈線文あり。外面欧州産釉。	良好	精良。白色粒子少量。	内面7.5Y4/1灰 外面10YR3/2黒褐	口縁部片	常滑・瀬戸系

表21　遺物観察表(縄文・弥生土器)

遺構名	グリッド	報告番号	残存高(cm)	重量(g)
包含層	U-11	252	5.8	42.9
	N-10	253	3.1	16.2
	R-11	254	3.6	28.3
	R-11	255	6.2	48.3
	R-11	256	6.7	43.5
	O-11	257	3.9	11.4
37号土坑		258	4.8	22.8
包含層	R-11	259	5.8	41.4
	Z-9	260	5.3	22.8
30号土坑		261	5.4	41.7
13号住		262	5.7	32.3
包含層	K-11	263	4.5	21.2
	U-11	264	4.5	34.3
	D-11	265	2.0	4.6

表22　遺物観察表(石器)

遺構名	グリッド	報告番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
14号住		266	剥片	メノウ	4.6	3.5	0.7	9.9
3号溝		267	使用痕有り剥片	珪質頁岩	5.15	5.25	0.9	29.0
3号溝		268	石核	チャート	4.1	3.3	1.5	21.9
8号溝	Z-12	269	剥片	黒曜石	3.5	2.2	0.75	4.3

表23 未掲載遺物重量表

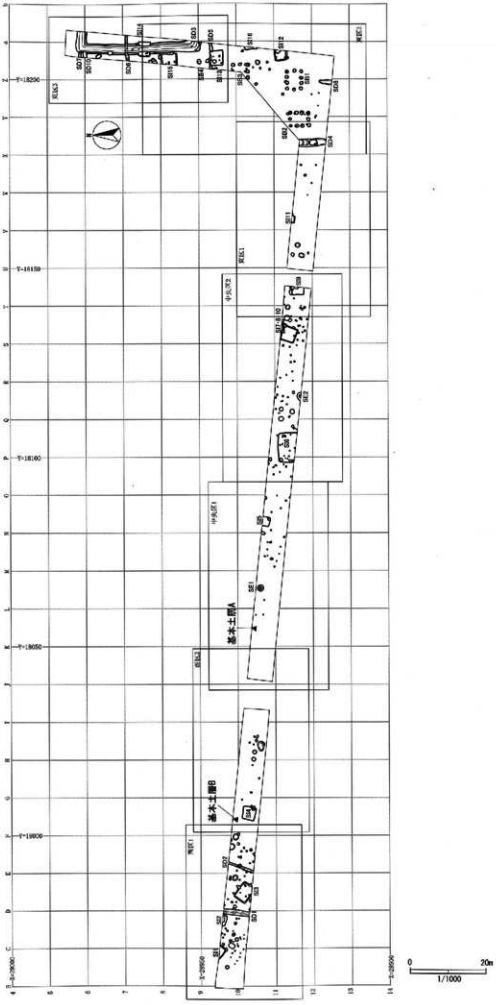
(g)

遺構	種類	重量	備考
6号住		3.3	滑石
		2.5	滑石
		1.2	滑石
		6.0	滑石
	須恵器	21.0	
	鉄金器	1.0	
	弥生土器	5.1	撚糸文
6号住P3	土師器	3.4	
6号住床下	土師器	88.1	
6号住	礫	5.4	凝灰岩
	礫	4.2	頁岩
	礫	189.4	花崗岩
	土師器	2,285.1	
1号住	土師器	62.9	
	須恵器	23.7	
	礫	44.6	
	礫	0.8	チャート
2号住	土師器	462.4	
	須恵器	31.9	
3号住	土師器	3,608.7	
	須恵器	298.5	
	礫	3,600.0	
	灰釉陶器	26.7	
4号住	土師器	1,690.0	
	編文土器	10.1	
5号住	土師器	715.2	
7号住	土師器	439.5	
	須恵器	61.0	
	礫	89.1	
8号住	土師器	1,607.0	
	須恵器	255.3	
	礫	5.4	
9号住	土師器	1,250.9	
	須恵器	6.1	
10号住	土師器	294.7	
	須恵器	4.8	
11号住	土師器	40.4	
12号住	土師器	136.2	
	須恵器	49.8	
	中近世陶器	12.7	
	礫	190.2	花崗岩
13号住	土師器	258.3	
	須恵器		
	陶磁器	11.2	
	縄文土器	17.2	
14号住	土師器	913.5	
	須恵器	103.5	
15号住	土師器	4,086.1	
	須恵器	578.0	
15号住	礫	228.6	
	鉄滓	13.9	
3号溝	土師器	1,350.1	
	須恵器	521.9	
	内耳鍋	960.0	
	陶磁器	41.2	
	鉄滓	11.8	
4号溝	土師器	226.3	
	須恵器	81.4	
	土師質	10.6	
	近現代	23.4	
	礫	74.4	加工痕あり
	礫		金床石、被熱
1号土坑	土師器	6.0	
2号土坑	土師器	11.4	
	礫	24.9	凝灰岩他
3号土坑	土師器	4.9	
6号土坑	土師器	54.2	
	鐘	1,213.0	
7号土坑	土師器	85.8	
	礫	5.5	
	粘土塊	8.6	
	須恵器	9.6	
8号土坑	土師器	67.2	
9号土坑	土師器	18.8	
12号土坑	土師器	47.2	
13号土坑	土師器	53.6	
	須恵器	84.4	
14号土坑	土師器	37.1	
	須恵器	94.2	
15号土坑	土師器	9.3	
18号土坑	土師器	4.9	
19号土坑	土師器	78.8	
	須恵器	23.8	
20号土坑	土師器	1,527.5	
	須恵器	378.9	
	礫	795.2	
23号土坑	土師器	7.4	
	須恵器	27.0	
29号土坑	土師器	5.8	
31号土坑	土師器	2.4	
	須恵器	27.3	
32号土坑	土師器	17.5	
33号土坑	土師器	54.5	
	須恵器	100.7	
34号土坑	土師器	4.1	
	須恵器	5.5	
36号土坑	土師器	5.2	
	須恵器	3.8	
37号土坑	土師器	50.2	
38号土坑	土師器	19.1	
40号土坑	土師器	34.8	
42号土坑	土師器	13.6	
1号掘立柱建物P6	土師器	6.1	
1号掘立柱建物P8	土師器	6.8	
1号掘立柱建物P9	土師器	11.2	
2号掘立柱建物	土師器	2.3	
3号掘立柱建物	土師器	20.8	
3号掘立柱建物P3	土師器	9.4	
包含層	土師器	615.8	
	須恵器	96.7	
	内耳鍋	487.0	
	土師質	8.5	
	鐘	66.8	
	中近世陶器	43.0	
P3	土師器	8.5	
P2	土師器	36.9	
P24	土師器	3.7	
P25	土師器	71.1	
P13	礫	2.1	滑石
P27	土師器	85.6	
P10	須恵器	4.6	
P20	土師器	5.5	
P27	土師器	51.7	
P69	土師器	7.0	
P79	土師器	4.2	
P82	鐘	32.7	
P83	土師器	6.9	
	須恵器	14.9	
P105	土師器	2.7	
P88	土師器	9.3	
P113	内耳鍋	8.5	
P129	土師器	11.0	
P91	土師器	26.0	
P151	縄文土器	15.5	
P32	土師器	7.0	
P119	土師器	81.9	
P100	土師器	14.3	
P166	土師器	8.7	
P155	縄文土器	21.2	
P159	土師器	3.7	
P158	土師器	12.2	
P141	土師器	11.5	
P169	土師器	21.6	
1号井戸	土師器	234.5	
	須恵器	54.3	
	鐘	63.2	
2号井戸	鐘	938.6	被熱
	土師器	133.3	
	須恵器	164.8	

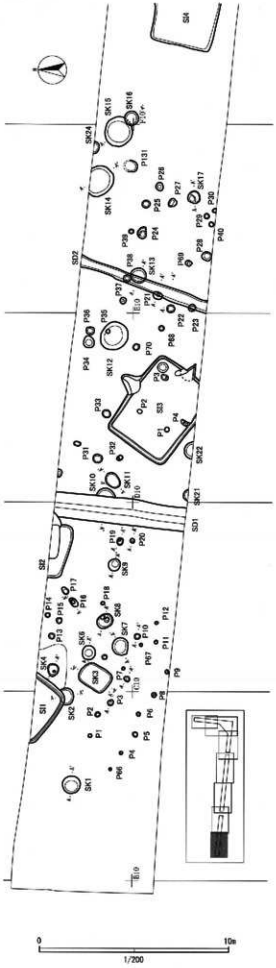
図　　版

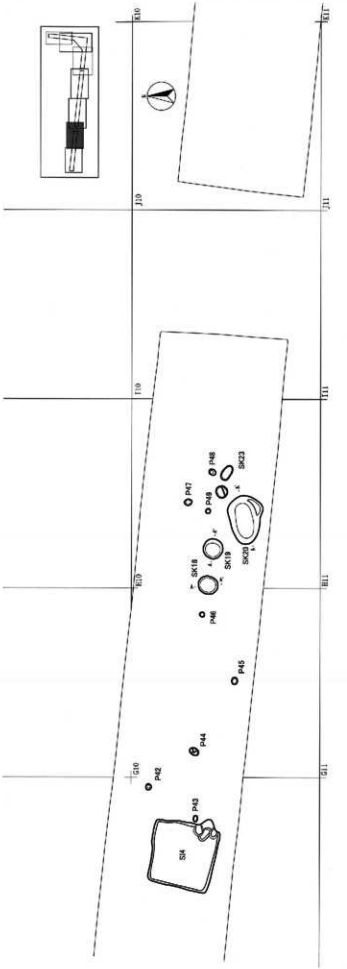
遺跡全体図　S=1/1000

図版 1



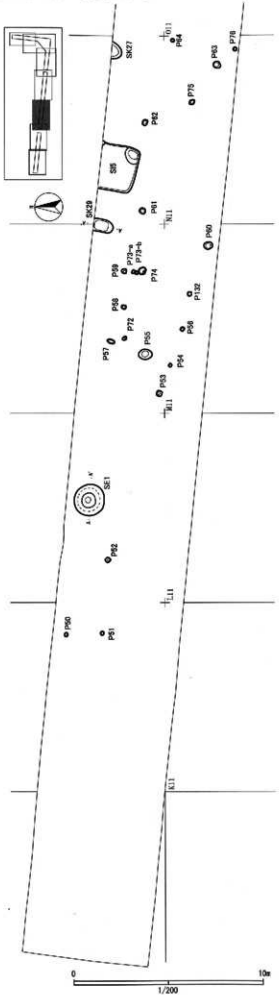
遺構分割図 (1)　西区 1・2

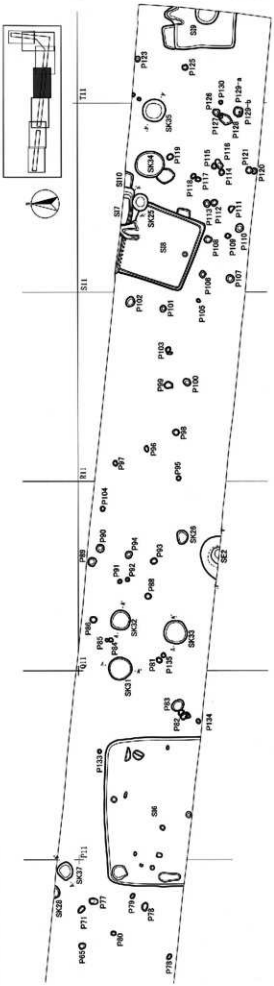




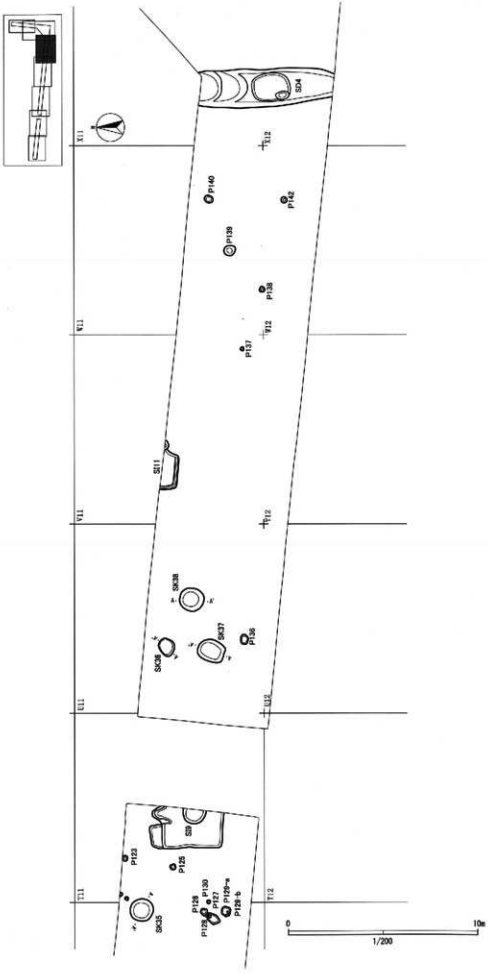
遺構分割図 (2)　中央区１・２

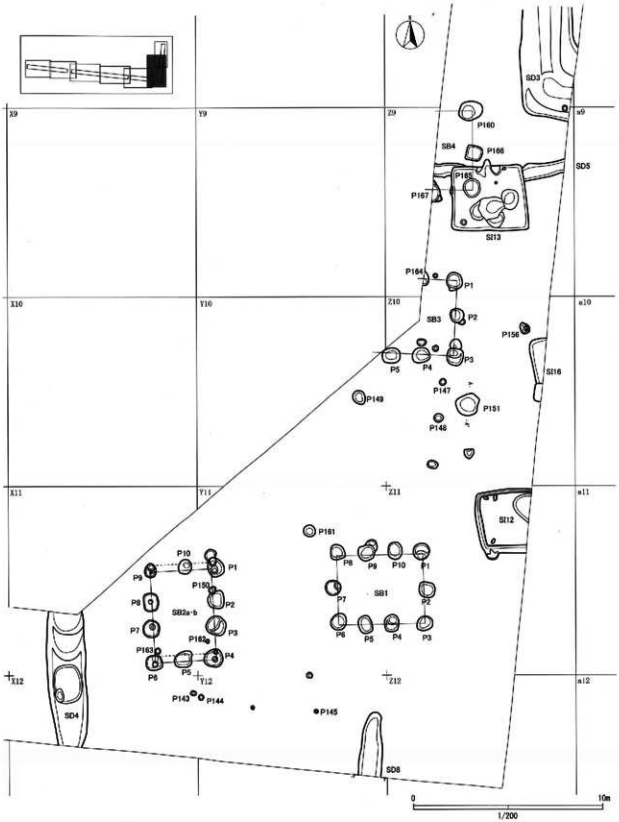
図版 3

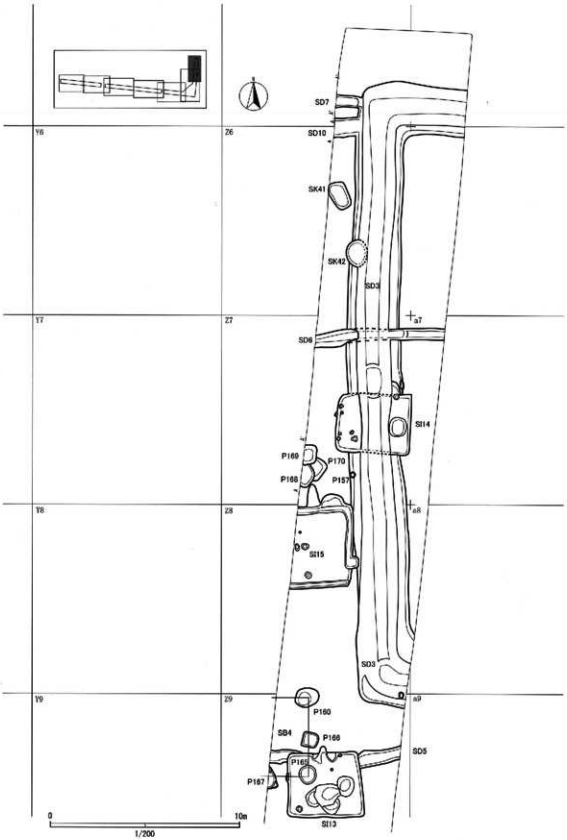




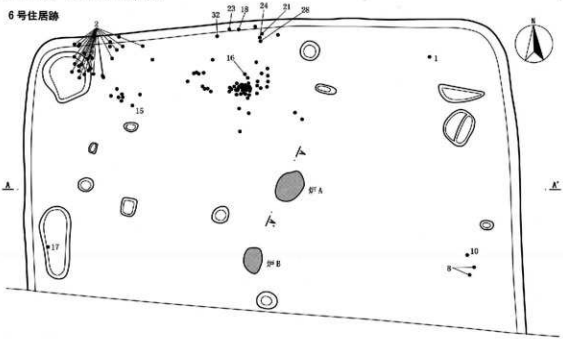
遺構分割図 (3)　東区 1


SD24
P140
P142
P139
P138
P137
SD11
SK38
SK37
SK36
P136
SD9
P123
P125
P130
P128
P127
P129-a
P129-b
SK35
0
10m
1/200


X9
Y9
Z9
a9
X10
Y10
Z10
a10
X11
Y11
Z11
a11
X12
Y12
Z12
a12
SD3
SD5
SD4
SD6
SI13
SI16
SI12
SB4
SB3
SB1
SB2a·b
P160
P166
P165
P167
P164
P1
P2
P3
P4
P5
P156
P147
P149
P151
P148
P161
P6
P7
P8
P9
P10
P150
P162a
P163
P143
P144
P145
0
10m
1/200


SD7
SD10
SK41
SK42
SD2
SD6
SI14
P160
P170
P168
P157
SI15
SD3
P160
SB4
P166
SD5
P165
P167
SI13
Y6
Z6
Y7
Z7
Y8
Z8
Y9
Z9
0
10m
1/200

6号住居跡



6号住居跡セクション

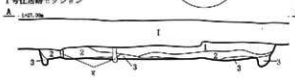
6号住居跡がAセクション

6号住居跡セクション
1.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒ごく微量。しまりあり、粘性弱。
2.10YR2/3 黒褐色土　焼土細粒・炭化材少量。しまりあり、粘性弱。
3.10YR2/3 黒褐色土　焼土塊少量。炭化粒ごく少量。
4.10YR4/4 褐色土　焼土粒ごく少量。ローム粒・ロームブロックφ0.1～3.0cm 全体に少量。
5.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。地山崩落土。

6号住居跡がAセクション
1.10YR3/3 暗褐色土　焼土塊全体に含む。しまりあり、粘性弱。

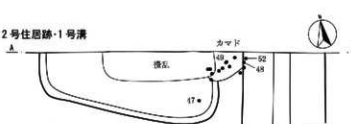
1号住居跡

1号住居跡セクション

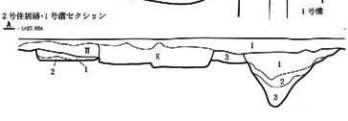


1号住居跡セクション
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく微量。ローム粒φ0.3～1.0cm 微量。小礫少量。
2.10YR3/1 黒褐色土　炭化粒微量。ロームブロックφ0.3～2.0cm 微量。小礫少量。
3.10YR2/2 黒褐色土　炭化粒少量。ロームブロックφ0.3～2.0cm 微量。小礫少量。

2号住居跡・1号溝



2号住居跡セクション

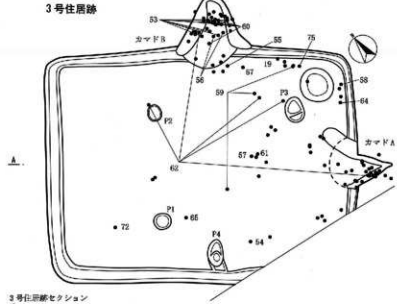


2号住居跡セクション
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒φ0.3～1.0cm少量。
2.10YR3/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく微量。ローム粒φ0.5cm少量。上部にロームブロック。
3.10YR2/2 黒褐色土　焼土塊・炭化粒材。ローム粒（φ0.3～0.5cm）ごく少量。

1号溝セクション
1.10YR4/1 褐灰色土　炭化物・小礫ごく少量。粘性弱
2.10YR3/2 黒褐色土　炭化物・小礫ごく少量。ローム粒φ0.1～0.3cm 微量。
3.10YR2/3 黒褐色土　炭化物微量。ローム粒φ0.3～1.0cm ごく少量。

0　2m
S=1/60

3号住居跡



3号住居跡セクション

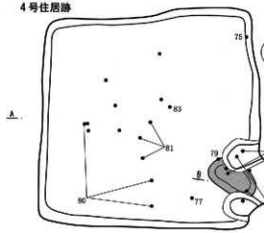
1a.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒少量。粘性弱
1b.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒少量。ローム粒微量。
カマドB周辺部は
焼土粒塊・ローム粒の混入が顕著。
2.5YR3/4 暗赤褐色土　焼土粒焼土全体に含む。
3.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒塊・粘土粒を全体に含む。
4.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒ごく少量。炭・炭・粘土粒を含む層の互層。
5.10YR2/1 黒色土　焼土粒、ローム粒皆無。
6.10YR2/2 黒褐色土　ローム粒ごく少量。粘性弱

3号住居跡カマドAセクション

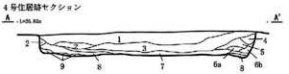
①.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒少量。粘性弱
②.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒塊を全体に少量。炭化粒微量。漸混入。粘性弱
③.10YR2/1 黒褐色土　焼土粒塊・炭化粒・灰を全体に多く含む。ローム粒微量。
④.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。
⑤.10YR3/3 黒褐色土　焼土粒ごく少量。炭化粒微量。
⑥.5YR3/6 暗赤褐色土　焼土塊。
⑦.5YR3/3 暗赤褐色土　焼土粒塊を全体に含む。炭・ローム粒ごく微量。
⑧.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒ごく少量。炭・炭・粘土粒を含む層の互層。

3号住居跡セクション

4号住居跡



4号住居跡セクション



4号住居跡カマドセクション

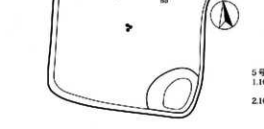
4号住居跡セクション

1.10YR2/3 黒褐色土　ロームブロック少量。酸化鉄分微量。粘性弱。
2.10YR3/3 黒褐色土　ローム粒少量。灰色粘質土ブロック微量。
3.10YR3/4 黒褐色土　黒色土中にロームブロック多量。酸化鉄分微量。
4.10YR1.7/1 黒色土　上部にローム粒ごく少量。焼土粒ごく微量。粘性弱。
5.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・ローム粒ごく微量。粘性弱。
6a.10YR3/3 暗褐色土　土器化焼分ごく微量。粘性弱。
6b.10YR3/4 暗褐色土　6a 層に似るが、上部にローム粒を含み、色調やや明るい。粘性もやや強い。
7.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒微量。ローム粒ごく少量。粘性弱。
8.10YR3/1 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 2.0cm ごく少量。
黄白色粘質土ブロックごく少量。
9.10YR5/4 にぶい黄褐色土　ローム主体。粘りあり。しまりあり。粘性やや強。

4号住居跡カマドセクション

1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒 φ 0.2 ～ 1.0cm、ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 少量。酸化鉄分を含む。粘性弱。
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく微量。黄白色粘質土ブロック多量。酸化鉄分を含む。
3.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。黄白色粘質土ブロック φ 0.3 ～ 0.5cm ごく少量。酸化鉄分を含む。粘性弱。
4.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 1.0cm 少量。酸化鉄分を含む。粘性弱。
5.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒 φ 0.2 ～ 1.0cm 少量。ロームブロック φ 1.0 ～ 3.0cm やや目立つ。酸化鉄分を含む。
6.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒 φ 0.2 ～ 1.0cm 少量。ロームブロックがすかに少なく、色調明るい。酸化鉄分を含む。
7.10YR4/4 褐色粘質土　焼土粒ごく微量。粘性やや強。
8.10YR2/3 黒褐色土　6 層と比べ、ローム粒 φ 0.3 ～ 1.0cm 微量。
9.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物微量。ローム粒 φ 0.5cm 前後少量。
10.10YR4/4 褐色土　ローム主体。しまりややなし。粘性やや弱。
11.10YR7/3 にぶい黄橙色粘質土　黄灰白色粘質土主体。1 層ブロック φ 0.5 ～ 5.0cm 少量。焼土粒・ローム粒少量。

5号住居跡

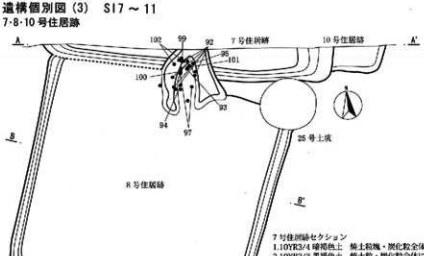


5号住居跡セクション

5号住居跡セクション

1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 少量。
2.10YR3/2　黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 2.0cm 少量。

0　2m
S=1/60



7 号住居跡セクション
1.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒・炭化粒全体に少量。ローム粒こく少量。
2.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒全体に少量。ローム粒 φ 0.5cm 少量。
3.10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック全体に少量。
4.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒全体に少量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 2.0cm 全体に混入。
5.10YR3/2 黒褐色土　ローム粒全体に少量。
6.10YR5/6 にぶい黄褐色土　ロームブロック。
7.10YR4/3 にぶい黄褐色土　粘性強　ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 5.0cm 全体に含む。堅い。
8.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒・炭化粒こく微量、ローム粒・ロームブロック φ ～ 3.0cm 少量。

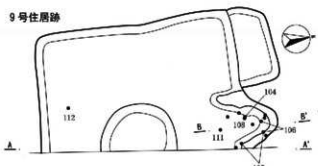
7·10 号住居跡セクション

8 号住居跡セクション

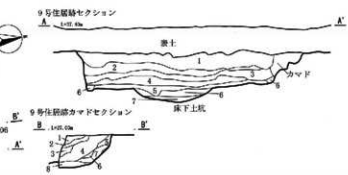
8 号住居跡セクション
1.10YR2/2　黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒 φ 0.3 ～ 0.5cm、ロームブロック φ 1.0cm 下部にごく微量。
2.10YR2/3　黒褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒全体に少量。黄色粘土質ブロック φ 2.0cm 少量。
3.10YR2/3　黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒 φ 0.2 ～ 1.0cm 少量。ロームブロック φ 0.2 ～ 1.0cm 主に下部に少量。2 層に似るが、色調かすかに明るい。
4.10YR3/2　黒褐色土　ローム粒 φ 0.2 ～ 1.0cm 全体に少量。炭化粒こく微量。
5.10YR3/3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。

10 号住居跡セクション
1.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒・炭化粒全体に少量。ローム粒こく少量。7 号住居跡カマド層力。
2.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒全体に少量。ローム粒 φ 0.3 ～ 0.5cm こく少量。
3.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒全体に微量。ローム粒こく少量。

9 号住居跡



9 号住居跡カマドセクション

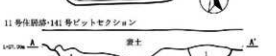


9 号住居跡セクション
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 1.0cm 少量。
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物・ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 全体に少量。
3.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物・ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 全体に少量。
4.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒こく少量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 1.0cm 少量。
5.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒こく少量。ロームブロック混入。やや堅い。
6.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック φ 0.2 ～ 2.0cm 全体に少量。
7.10YR3/4 暗褐色土　ローム主体。

9 号住居跡カマドセクション
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 1.0cm 少量。
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物・ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 全体に少量。
3.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物・ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 全体に少量。
4.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化焼こく少量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 1.0cm 少量。
5.10YR2/3 黒褐色土　焼土塊・ローム粒こく少量。炭化粒微量。
6.10YR2/3 黒褐色土　焼土塊こく少量。炭化物・ローム粒微量。
7.10YR3/4 暗褐色土　焼土焼全体に含む。炭化粒微量。ローム粒少量。
8.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化物全体多量。黄白色粘質土ブロック少量。

11 号住居跡・141 号ピット

11 号住居跡・141 号ピットセクション

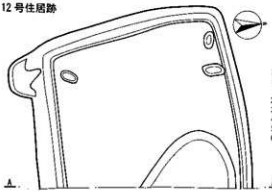


11 号住居跡セクション
1.10YR3/2　黒褐色土　焼土細粒・炭化細粒微量。
白色粒 φ 0.1 ～ 0.2cm、ローム粒 φ 0.1 ～ 0.3cm こく少量。
しまりあり粘性弱。
2.10YR3/4　暗褐色土　ローム主体。焼土細粒・炭化細粒こく微量。しまりあり粘性弱。

141 号ピットセクション
1.10YR2/3　黒褐色土　炭化細粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm 微量。しまりあり、粘性弱。
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 0.3cm 少量。しまりあり。

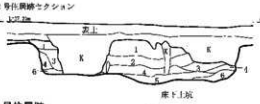
0　2m
S=1/60

12 号住居跡

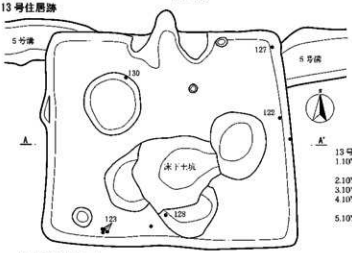


12 号住居跡セクション
1.10YR2/2 黒褐色土　しまりあり　焼土粒微φ 0.1 ～ 0.5cm 少量。炭化粒微量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 1.0cm ごく少量。
2.10YR2/2 黒褐色土　焼土細粒・炭化細粒微量。ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 5.0cm 全体に少量。
3.10YR2/1 黒色色土　炭化粒微量。ローム粒・ロームブロックφ 0.3 ～ 3.0cm ごく少量。
4.10YR2/3 黒褐色土　焼土細粒・炭化細粒微量。ロー ム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 少量。
5.10YR2/2 黒褐色土　炭化物φ 1.0cm 微量。ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 1.5cm 少量。粘性弱。
6.10YR3/2 黒褐色土　粘性弱　ローム粒φ 0.2 ～ 0.8cm 全体に少量。

12 号住居跡セクション



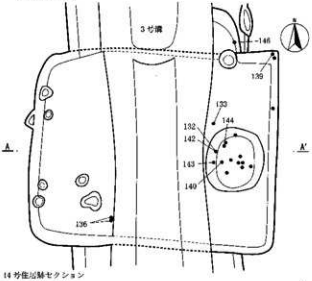
13 号住居跡



13 号住居跡セクション
1.10YR2/3　黒褐色土　焼土粒φ 0.2 ～ 0.6cm、炭化粒φ 0.3cm 微量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.2 ～ 2.0cm 全体に少量。
2.10YR2/3　黒褐色土　炭化細粒・ローム細粒ごく微量。
3.10YR4/4　褐色土　ローム土主体。黒褐色土少量。
4.10YR2/2　黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.2 ～ 2.0cm ごく少量。
5.10YR2/2　黒褐色土　焼土粒微・炭化粒ごく少量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.3 ～ 1.0cm 少量。

13 号住居跡セクション

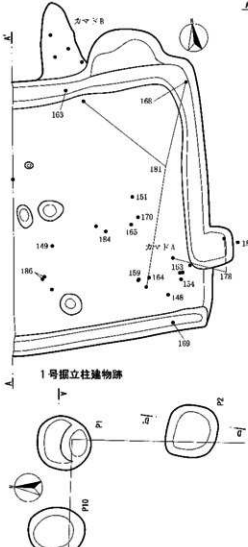
14 号住居跡



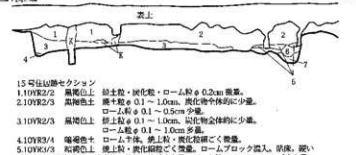
14 号住居跡セクション
1.10YR3/3　暗褐色土　焼土粒・炭化粒微量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 1.0cm 全体に少量。
2.10YR2/3　黒褐色土　焼土塊少量。炭化粒微量。
　　ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 1.0cm 少量含む。
　　しまりあり、粘性弱。
3.10YR2/3　黒褐色土　ローム粒φ 0.5cm 少量。しまりあり粘性弱

14 号住居跡セクション

0　　2m
S=1/60

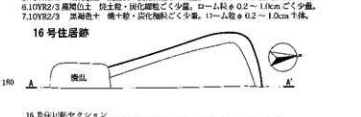


15号住居跡セクション

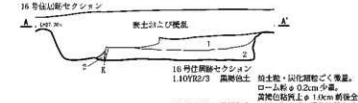


15号住居跡セクション
1.10YR2/2 黒褐色土 砂土粒・炭化粒・ローム粒 φ 0.2cm 微量。
2.10YR2/3 黒褐色土 焼土粒 φ 0.1 ～ 1.0cm、炭化物や体部に少量。
ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm 少量。
3.10YR2/3 黒褐色土 砂土粒 φ 0.1 ～ 1.0cm、炭化物全体的に少量。
ローム粒 φ 0.1 ～ 1.0cm 多量。
4.10YR3/4 暗褐色土 ローム土体。砂土粒・炭化粒微ごく微量。
5.10YR3/3 褐褐色土 砂土粒・炭化粒微ごく微量。ロームブロック混入。硬床。硬い
6.10YR2/3 黒褐色土 砂土粒・炭化粒微ごく少量。ローム粒 φ 0.2 ～ 1.0cm ごく少量。
7.10YR2/3 黒褐色土 焼土粒・炭化粒微ごく少量。ローム粒 φ 0.2 ～ 1.0cm 土体。

16号住居跡

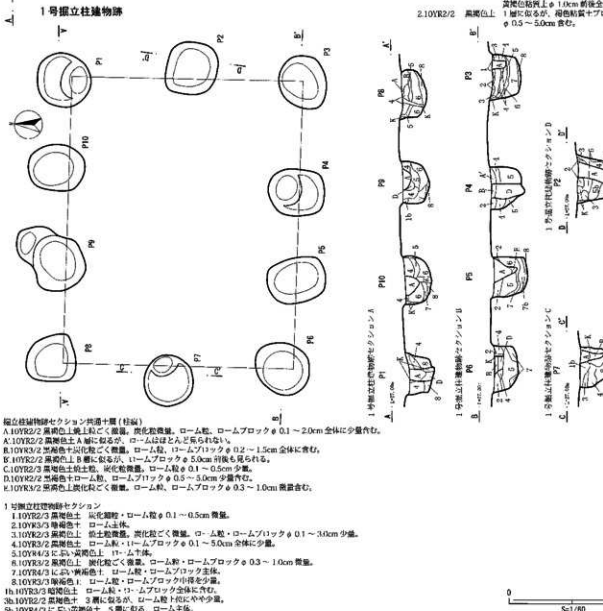


16号住居跡セクション



16号住居跡セクション
1.10YR2/3 黒褐色土 砂土粒・炭化粒微ごく微量。
ローム粒 φ 0.2cm 少量。
黒褐色粘質土 φ 1.0cm 前後全体に少量。
2.10YR2/2 黒褐色土 1 層に似るが、褐色粘質土ブロック
φ 0.5 ～ 5.0cm 含む。

1 号掘立柱建物跡

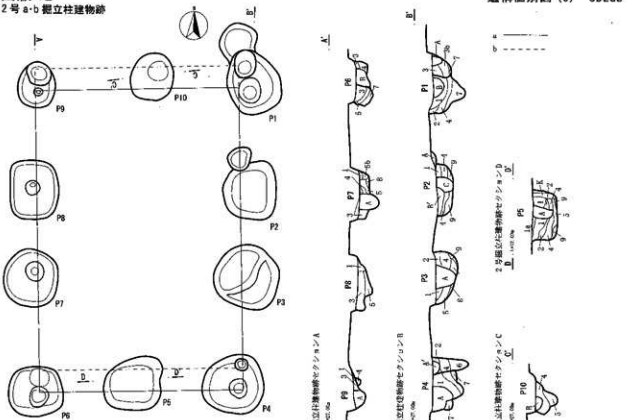


掘立柱建物跡セクション共通土層 (柱痕)
A.10YR2/2 黒褐色土 砂土粒ごく微量。炭化粒微量。ローム粒、ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 全体に少量含む。
A'.10YR2/2 黒褐色土 A 層に似るが、ロームはほとんど見られない。
B.10YR3/2 黒褐色土 炭化粒ごく微量。ローム粒、ロームブロック φ 0.2 ～ 1.5cm 全体に含む。
B'.10YR2/2 黒褐色土 B 層に似るが、ロームブロック φ 5.0cm 付近も見られる。
C.10YR2/3 黒褐色土 砂土粒、炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm 少量。
D.10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック φ 0.5 ～ 5.0cm 少量含む。
E.10YR3/2 黒褐色土 炭化粒ごく微量。ローム粒、ロームブロック φ 0.3 ～ 1.0cm 微量含む。

1 号掘立柱建物跡セクション
1.10YR2/3 黒褐色土 炭化粒粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm 微量。
2.10YR3/3 暗褐色土 ローム主体。
3.10YR2/3 黒褐色土 砂土粒微量。炭化粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 少量。
4.10YR3/2 黒褐色土 ローム粒・ローム ブロック φ 5.0cm 全体に少量。
5.10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム主体。
6.10YR3/2 黒褐色土 炭化粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 1.0cm 微量。
7.10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ロームブロック主体。
8.10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック中程を少量。
9b.10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ローム ブロック全体に含む。
3b.10YR2/2 黒褐色土 3 層に似るが、ローム粒 上層にやや少量。
5b.10YR4/3 にぶい黄褐色土 5 層に似る、ローム主体。
7b.10YR4/3 にぶい黄褐色土 7 層に似るが、ロームブロック多く含む。

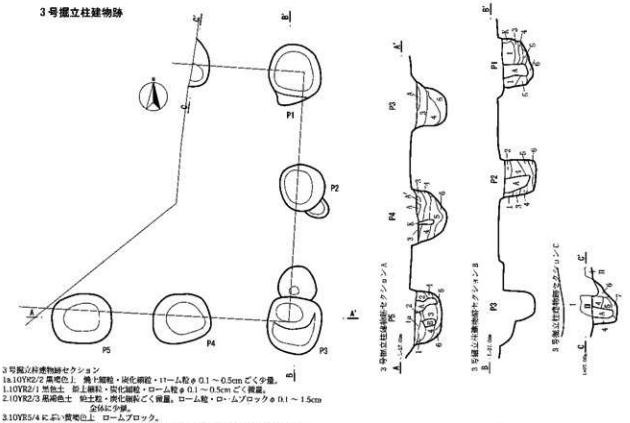
0 2m
S=1/60

2号 a·b 掘立柱建物跡

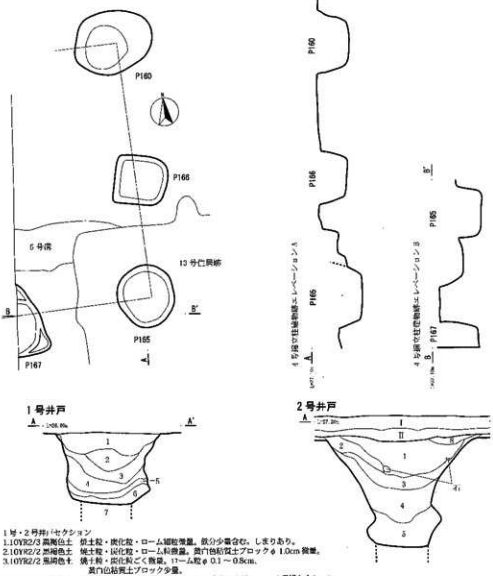


2号掘立柱建物跡セクション
1.10YR3/2 黒褐色土　炭上細粒・炭化細粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm。
2.10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック全体に含む。
3.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm ごく微量。
4.10YR2/2 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 5.0cm 少量。
5.10YR3/2 黒褐色土　炭化細粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 1.0cm 微量。
6.10YR2/2 黒褐色土　炭化細粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 微量。
7.10YR2/2 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 全体的に少量。
8.10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。
9.10YR2/1 黒色土　炭化細粒、ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm 微量。
3b.10YR2/2 黒褐色土　3 層に似るが、ローム粒わずかに下半に多い。

3号掘立柱建物跡



3号掘立柱建物跡セクション
1a.10YR2/2 黒褐色土　焼土細粒・炭化細粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm ごく少量。
1.10YR2/1 黒色土　炭上細粒・炭化細粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm ごく微量。
2.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化細粒ごく微量。ローム粒・ロ・ムブロックφ 0.1 ～ 1.5cm 全体に少量。
3.10YR5/4 にぶい黄褐色土　ロームブロック。
4.10YR3/2 黒褐色土　炭化粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.2 ～ 5.0cm 少量。
5.10YR3/3 暗褐色土　4 層に似るが、ローム粒・ロームブロックを全体に含み、色調やや明るい。
6.10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。黒褐色土微量。
7.10YR2/2 黒褐色土　4 層に似るが、ローム粒・ロームブロックなく、色調暗い。



1・2号井戸セクション
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム細粒微量。砂分少量含む。しまりあり。
2.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒微量。黄白色粘質土ブロック φ 1.0cm 微量。
3.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒こく微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 0.8cm、
黄白色粘質土ブロック少量。
4.10YR3/2 黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒 φ 0.1 ～ 2.0cm 中体に少量。
5.10YR2/3 黒褐色土　ローム粒少量。砂分含む。
6.10YR5/4 にぶい黄橙色上ローム土色。粘性強。
7.10YR2/3 黒褐色土黒褐色土・ロームの互層。砂分やや多く含む。
8.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm ごく微量。
しまりあり粘性弱。

4号溝セクション
1.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒ごく少量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 1.0cm 層下半に少量。
上半は鉄分を含む。しまりあり、粘性やや弱。
2.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒ごく少量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 5.0cm ごく少量。
砂分をわずかに含む。
3.10YR2/2 黒褐色土　2 層に似るが、大粒化。
4.10YR3/4 暗褐色土　ロームブロック全体に少量。硬い、粘性やや強。

6号溝セクション
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒 φ 0.3cm、ローム粒・ローム・ロームブロック φ 0.2 ～ 1.0cm ごく少量。
2.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.2 ～ 1.0cm ごく微量。
3.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。

10号溝セクション
1.10YR3/2 黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.3 ～ 5.0cm 層上半にごく少量。
しまりややなし、粘性弱。

3号溝セクション
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒微量。焼土粒こく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0cm ごく少量。しまりあり、粘性弱。
2.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒ごく微量。ローム粒・ロームブロック φ 0.2 ～ 1.0cm ごく少量。
3.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒 φ 0.1 ～ 0.8cm・ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 2.0 全体に少量。炭化粒微量。
4.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒 φ 0.2 ～ 0.5cm 中体に少量。炭化粒・ローム粒・ローム・ブロック φ 0.1 ～ 2.0cm、小礫 φ 0.5cm ごく微量。粘性弱。
5.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・ローム細粒こく微量。
6.10YR2/3 黒褐色土　2 層に似るが、色調やや明るい。
7.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒・ローム・ロームブロック φ 0.1 ～ 1.0cm 中体にごく少量。有平に焼土粒 φ 0.2 ～ 1.0cm ごく少量。小礫微量。粘性弱。
8.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ローム・ロームブロック（地山崩落土）少量。粘性弱。
9.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック φ 0.1 ～ 3.0cm 全体に少量。粘性弱。
10.10YR3/4 暗褐色土　炭化細粒・ローム細粒ごく少量。しまりなし、粘性やや強。
11.10YR3/4 褐色土　10 層に似るが、炭化粒は見られない。
12.10YR3/3 暗褐色土　炭化粒・ローム粒・ロームブロック φ 0.5 ～ 3.0cm ごく少量。しまりなし、粘性弱。
13.10YR5/4 にぶい黄褐色土　暗褐色上と黄白色粘質土の互層。
14.10YR5/3 にぶい黄褐色土　黒褐色土と黄白色粘質土の互層。鉄分やや多く含む。
15.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒 φ 0.1 ～ 0.5cm ごく微量。しまりあり、粘性弱。

図版 14

遺構個別図 (8)　SK1 ～ 11・13 ～ 20・25・27・28

1号土坑

1号十坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ロ・ム粒微量。鉄分含む。
　　しまりあり、粘性弱。
2.10YR2/2 黒褐色土　炭化粒ごく微量。
3.10YR2/1 黒色土　ローム粒微量。

2号土坑

2号上坑
1.10YR2/2 黒褐色土　ヤヒ下平でローム粒小斑点を含む。焼十粒・炭化粒微量。

3号土坑

3号十坑
1.10YR2/2 黒褐色土　ヤヒ下平でローム粒小斑点を含む。焼上粒・炭化粒微量。

4号土坑

4号・5号十坑
1.10YR2/2 黒褐色十　焼土粒・炭化粒・ローム粒微量。鉄含む。しまりあり、粘性弱。
2.10YR2/2 黒褐色土　炭化粒ごく微量。粘性弱。

5号土坑

6号土坑

6号十坑
1.10YR2/3 黒褐色十　焼十粒φ 0.2 ～ 1.0cm 少量。炭化粒微量。ロ・ム粒φ 0.1 ～ 0.3cm ごく少量。しまりなし粘性弱
2.10YR3/2 黒褐色上　焼上粒・炭化粒微量。褐色粘質土ブロックが全体に入る。
3.10YR3/2 黒褐色土　2層に似るが、焼十粒ごく少量。炭化粒微量。1ローム粒φ 0.2 ～ 0.5cm 少量。褐色粘質土ブロックφ 0.5 ～ 2.0cm 粘性弱
4.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒ごく少量。炭化粒微量。ローム粒φ 0.2 ～ 0.5cm、褐色粘質土ブロックφ 1.0cm 少量。粘性弱
5.10YR2/2 黒褐色上　焼上粒微量。ローム粒ごく少量。しまりなし粘性やや強

7号土坑

7号上坑
1.10YR2/3 黒褐色上　焼上粒・炭化粒少量、ロ・ム粒・ロームブロックごく少量。
　　鉄分含む。粘性弱。
2.10YR2/2 黒褐色十　焼土粒少量、炭化粒微量。ヤヒ下平でローム粒含む。
　　鉄分含む。粘性強。

8号土坑

8号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼十粒・炭化粒少量。鉄分含む。しまりやや粘性弱。
2.10YR2/4 黒褐色上　1層に似るが、焼十粒・炭化粒やや少量。1ローム粒少量。
　　鉄分含む。

9号土坑

9号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒少量。しまりあり粘性弱。
2.10YR4/6 褐色上　地山ブロックφ 2.0cm 少量。

10号土坑

10号十坑
1.10YR2/2 黒褐色十　炭化粒微量。ロ・ム粒φ 0.3 ～ 0.5cm 少量。小礫含む。
2.10YR2/3 黒褐色上　ローム粒微量。粘性弱。

11号土坑

11号土坑
1.10YR2/3 黒褐色上　焼上粒・炭化粒ごく微量。鉄分ブロック含む。粘性弱。

13号土坑

13号土坑
1.10YR2/3 黒褐色上　焼十粒・炭化粒・ローム粒少量。鉄分含む。しまりあり、粘性なし。
2.10YR2/3 黒褐色土　1層に似るが、ローム粒φ 2.0cm を含む。しまりあり、粘性弱。
3.10YR3/2 黒褐色十　ローム粒・ロームブロック含む。

14号土坑

14号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 3.0cm
　　全体に少量。鉄分含む。粘性弱。
2.10YR2/3 黒褐色上　焼上粒ごく微量。ローム粒ごく少量。微白色粘質土ブロック微量。
　　粘性弱。
3.10YR3/2 黒褐色十　ローム粒をブロック状に含む。

15・16号土坑

15号十坑
1.10YR2/3 黒褐色上　焼上粒・炭化粒ごく微量。1ローム粒φ 0.1 ～ 3.0cm ごく少量。
　　しまりあり。
2.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒φ 0.2 ～ 2.0cm ブロック状
　　に少量含む。しまりあり、粘性弱。

16号十坑
1.10YR3/2 黒褐色土　炭化粒微量。暗褐色粘質上ブロック少量。鉄分含む。
　　しまりあり、粘性弱。

17号土坑

17号十坑
1.10YR3/2 黒褐色上　焼十粒・炭化粒ごく微量。全に下半でローム粒φ 0.2 ～ 0.5cm
　　少量含む。暗褐色粘質十ブロック・鉄分ブロック含む。
2.10YR2/3 黒褐色十　ローム粒微量。鉄分わずかに含む。しまりあり粘性弱。
3.10YR2/3 黒褐色土　2層に似るが、ローム粒φ 0.1 ～ 1.0cm、暗褐色粘質土
　　ブロック少量。

18号土坑

18号十坑
1.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒微量。黄白色粘質上ブロックφ 0.5 ～ 3.0cm ごく少量。
　　鉄分含む。粘性弱。
2.10YR2/3 黒褐色上　1層に似るが、黄白色粘質土ブロック大径φ 5.0cm ～含む。

19号土坑

19号上坑
1.10YR2/3 黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒φ 0.3 ～ 0.8cm ごく少量。粘性弱。
2.10YR2/2 黒褐色上　炭化粒ごく微量。ローム粒φ 0.3 ～ 0.8cm 微量。

25号土坑

25号十坑
1.10YR2/3 黒褐色上　焼上粒・炭化粒微量。ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 1.0cm
　　全体に少量。粘性弱。
2.10YR2/1 黒色十　焼土粒・炭化粒微量。1ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 少量。
　　しまりあり、粘性弱。
3.10YR2/2 黒褐色土　1ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 少量。鉄分わずかに含む。
　　粘性弱。

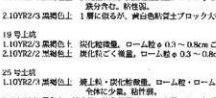
27号土坑

27号土坑
1.10YR2/3 黒褐色十　焼土粒φ 0.3 ～ 0.8cm 少量。炭化粒・ローム粒・
　　ロームブロックごく少量。しまりあり、粘性弱。
2.10YR4/3 にぶい黄褐色土　鉄上粒微量。ローム粒・ロームブロック
　　φ 0.3 ～ 3.0cm 全体に少量。粘性弱。
3.10YR2/2 黒褐色上　焼上粒・炭化粒少量。ローム粒・ロームブロックごく少量。

28号土坑

28号十坑
1.10YR2/2 黒褐色上　ローム粒φ 0.2cm 少量。
2.10YR2/2 黒褐色上　1層に似るが、地山崩落土含む。ローム 50%。

20号土坑

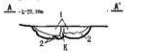


20号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土塊・炭化粒少量。微化鉄分含む。
2.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒・ロームブロックφ 0.1 ～ 5.0cm を全体に含む。
3.10YR2/2 黒褐色上　焼十粒φ 0.1 ～ 2.0cm、炭化粒・ローム粒φ 0.1 ～ 2.0cm 少量。微化鉄分微量。
4.10YR2/3 黒褐色土　焼上粒を中体に含む。ローム粒・黄白色粘質十ブロック微量。しまりなし。
5.10YR2/1 黒色十　炭化粒微量。焼土粒・ローム粒ごく少量。黄灰白粘質上ブロック微量。
6.10YR2/3 黒褐色十　焼十粒全体に含む。炭化粒少量。
7.10YR4/3 にぶい黄褐色上　ローム土塊。黄白色粘質十ブロック含む。しまりあり、粘性強。
8.10YR2/3 黒褐色土　焼色土と灰色土ローム土体の混淆。焼土粒・炭化粒微量。微化鉄分含む。
9.10YR3/2 黒褐色十　ローム粒・ロームブロックを全体に含む。
10.10YR4/3 にぶい黄褐色上　ローム土塊。
11.10YR2/2 黒褐色土　焼化粒・ローム粒微量。1ロームブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 少量。微化鉄分含む。しまりなし。
12.10YR2/3 黒褐色十　炭化粒・ローム粒ごく少量。酸化鉄分含む。しまりなし。
13.10YR3/2 黒褐色土　炭化粒・ローム粒・ロームブロックφ 0.2 ～ 2.0cm ごく少量。

29号土坑

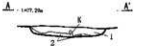
29 号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 全体に少量。

30号土坑



30 号土坑
1.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒、ローム粒φ 0.2cm ごく微量。しまりあり、粘性弱。
2.10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 1.0cm ごく少量。しまりあり、粘性弱。

31号土坑



31 号土坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒φ 0.3cm 微量。
2.10YR2/1 黒色土　ローム粒φ 0.2cm 微量。

32号土坑

32 号土坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒φ 0.3cm 微量。
2.10YR2/3 黒褐色土　ローム粒φ 0.5cm 微量。

33号土坑

33 号土坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒φ 0.3cm 微量。
2.10YR2/3 黒褐色土　ローム粒φ 0.5cm 微量。

36号土坑

36 号土坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒φ 0.1 ～ 0.5cm ごく少量。粘性弱。

35号土坑

35 号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒、ローム・ブロックφ 0.1 ～ 1.0cm ごく少量。粘性弱。
2.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒φ 0.1 ～ 0.8cm 微量。ローム・ブロックφ 1.0 ～ 5.0cm 主に中位に含む。粘性弱。
3.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒、ローム・ブロックφ 0.1 ～ 2.0cm 全体に含む。粘性弱。
4.10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム土体。しまりなし。
5.10YR2/1 黒色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒、ローム・ブロックφ 0.1 ～ 1.0cm 微量。粘性弱。
6.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。本根痕か。粘性弱。

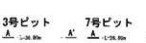
37号土坑

37 号土坑
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒φ 0.1 ～ 0.5cm ごく少量。粘性弱。
2.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒・ローム・ブロックφ 0.2 ～ 1.5cm 主に中位に少量含む。粘性弱。

38号土坑

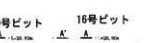
38 号土坑
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 1.5cm ごく少量。
2.10YR3/2 黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
3.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒微量。
4.10YR3/3 暗褐色土　ローム土体。
5.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒・ローム・ブロック微量。しまりなし、粘性弱。

3号ピット



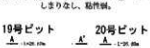
3 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒微量。鉄分含む。粘性弱。
2.10YR3/3 暗褐色土焼土粒・炭化粒微量。ローム粒少量。粘性弱。
3.10YR3/2 黒褐色土焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒少量。

7号ピット



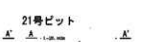
7 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒微量。炭分含む。粘性弱。
2.10YR3/4 暗褐色土　ローム土体。褐色粘質土ブロック入袋含む。
3.10YR2/2 黒褐色土

10号ピット



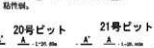
10 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色土　焼土粒・炭化粒少量。ローム粒微量。鉄分含む。粘性弱。
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒少量。
3.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒少量。粘性弱。
4.10YR2/3 黒褐色土　ローム粒少量。褐色粘質土ブロックφ 1.0cm 少量。しまりなし。

16号ピット



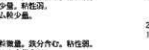
16 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色上
2.10YR3/2 黒褐色土　焼土粒・炭化粒ごく少量。ローム粒少量。
3.10YR3/3 暗褐色土　焼土粒・炭化粒微量。ローム粒少量。粘性弱
4.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・褐色粘質土ブロック微量。

19号ピット



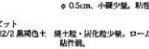
19 号ピット
1.10YR3/4 暗褐色土　焼土粒φ 0.2 ～ 0.5cm、褐色粘質土ブロックφ 0.5cm、小礫少量。粘性弱。

20号ピット



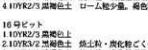
20 号ピット
1.10YR2/2 黒褐色土　焼土粒少量。ローム粒・小礫・炭片位粘質上微量。粘性弱。

21号ピット



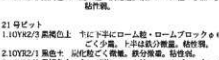
21 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色上　午に下半にローム粒・ローム・ブロックφ 0.3 ～ 2.0cm ごく少量。下部は鉄分微量。粘性弱。
2.10YR2/1 黒色土　炭化粒ごく微量。鉄分微量。粘性弱。
3.10YR2/2 黒褐色土　午に下半にローム粒・ローム・ブロックφ 0.3 ～ 2.0cm 少量。下部鉄分を含む。粘性弱。
4.10YR2/2 黒褐色土　3 層に似るが、ローム土体。粘性弱。
5.10YR2/2 黒褐色土　炭化粒・ローム粒φ 0.3 ～ 1.0cm 微量。しまりなし、粘性やや強。

151号ピット



151 号ピット
1.10YR2/3 黒褐色上　ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 5.0cm 少量。
2.10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ローム・ブロック主体。
3.10YR2/2 黒褐色土　炭化粒ごく微量。ローム粒・ローム・ブロック微量。

168・169号ピット

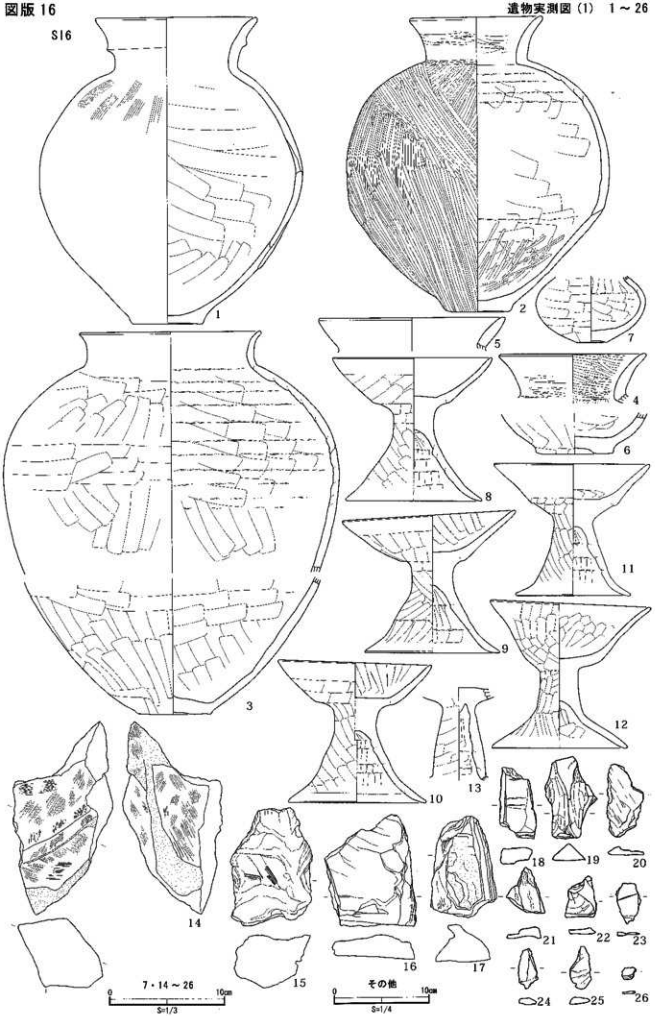


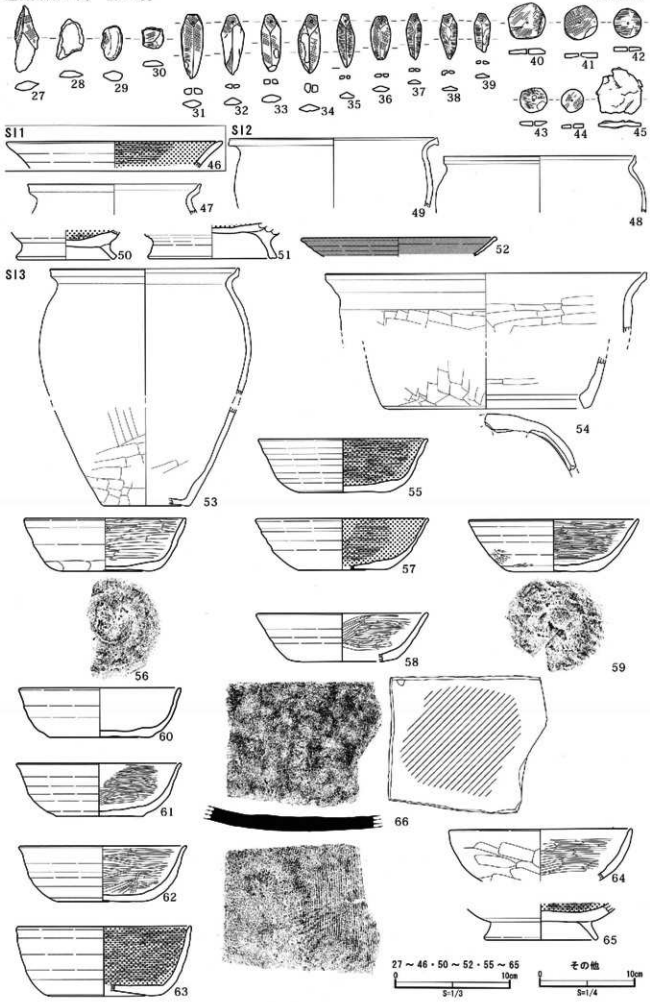
168 号ピット
1.黒褐色土　炭化粒ごく微量。ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 1.0cm 全体に含む。しまりやや粘性弱

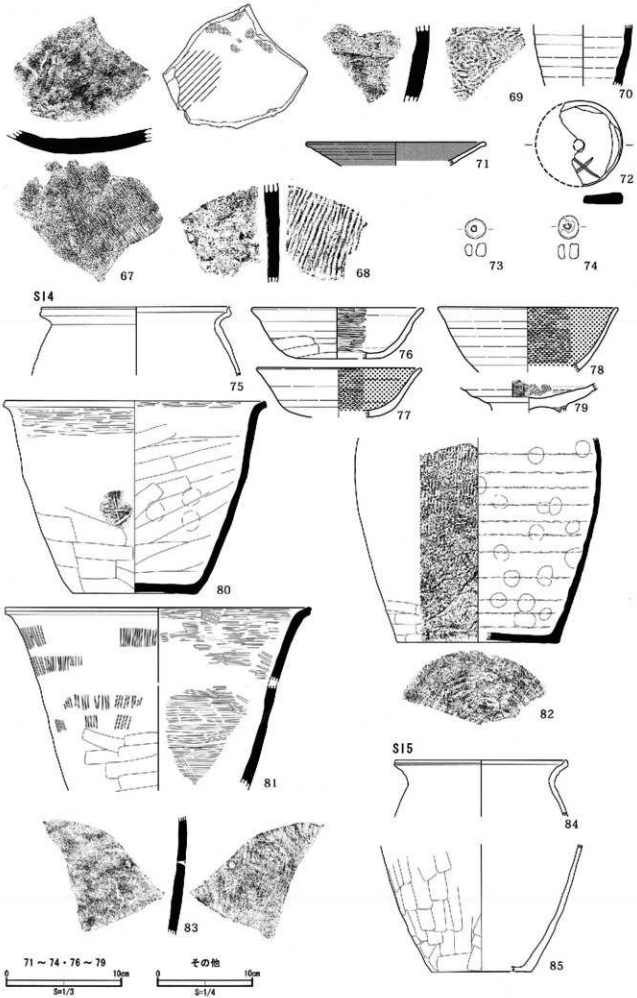
169 号ピット
1.黒褐色土　炭化粒微量。ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 8.0cm 全体に含む。しまりやや粘性弱
2.黒褐色上　ローム粒・ローム・ブロックφ 0.1 ～ 3.0cm 全体に少量含む。
3.暗褐色土　ローム粒・ローム・ブロックφ 0.2 ～ 1.5cm 全体にごく少量含む。

0　2m
S=1/60

遺物実測図 (1) 1～26

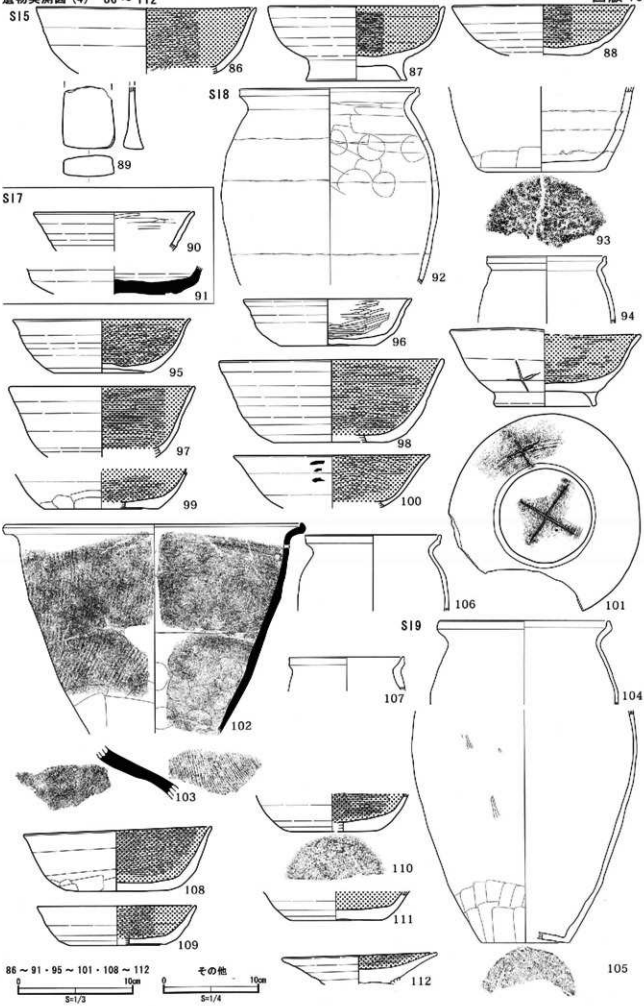

S16
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
7・14～26
0 10cm
S=1/3
その他
0 10cm
S=1/4


27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
S11
46
47
S12
48
49
50
51
52
S13
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
27 ～ 46・50 ～ 52・55 ～ 65
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

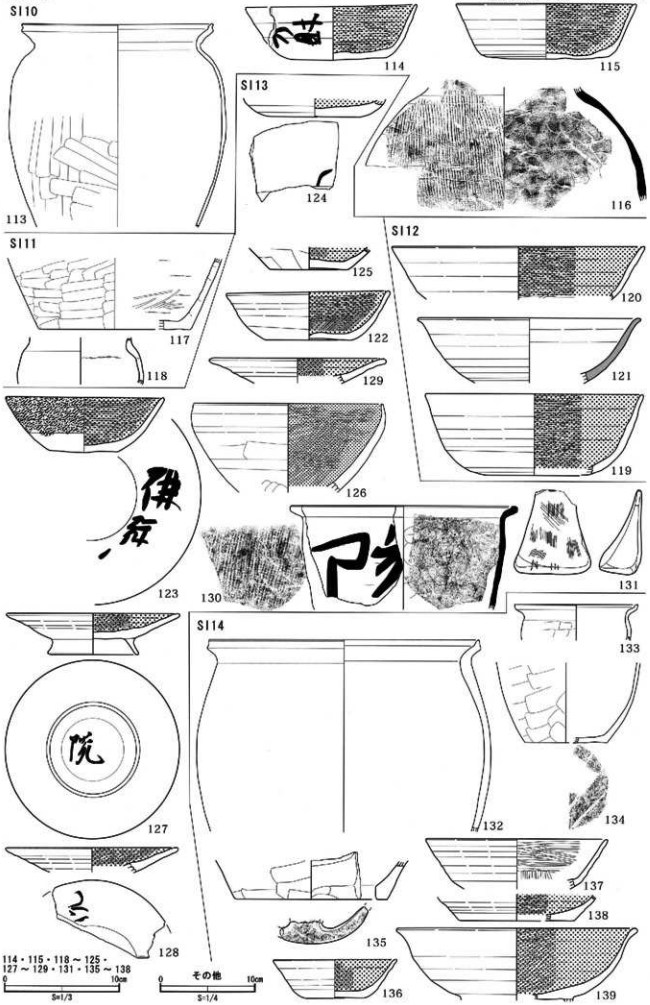

67
68
69
70
71
72
73
74
S14
75
76
77
78
79
80
81
82
S15
83
84
85
71 ～ 74・76 ～ 79
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

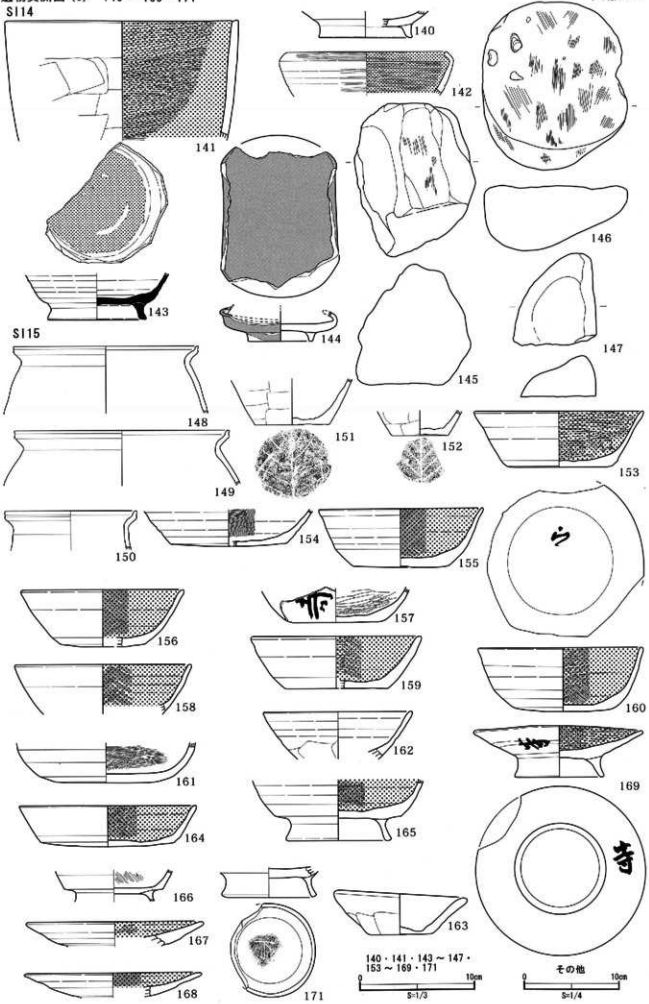
遺物実測図 (4)　86 ～ 112

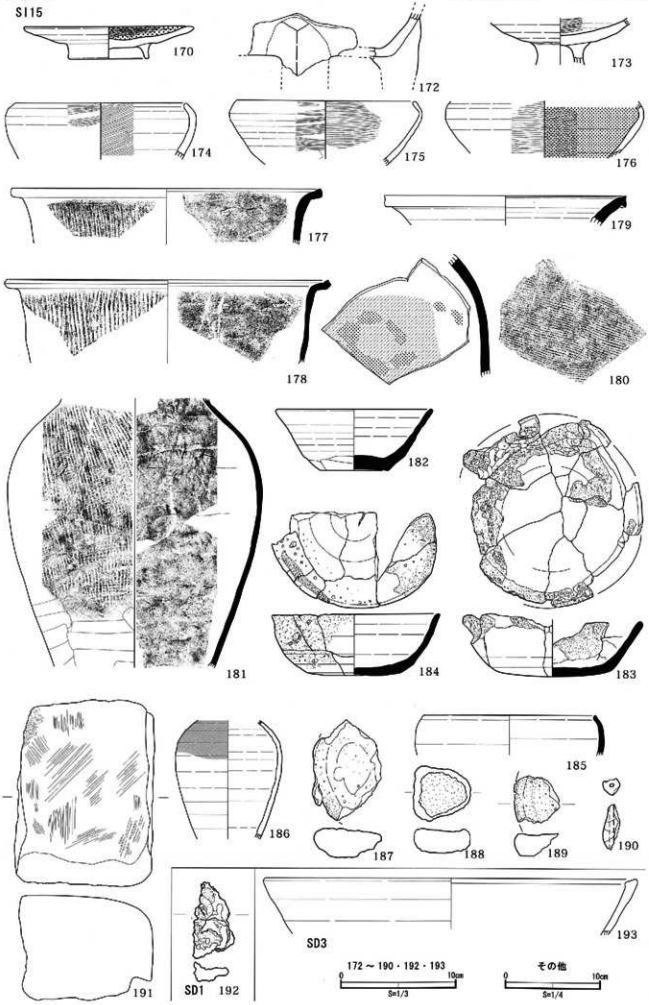
図版 19

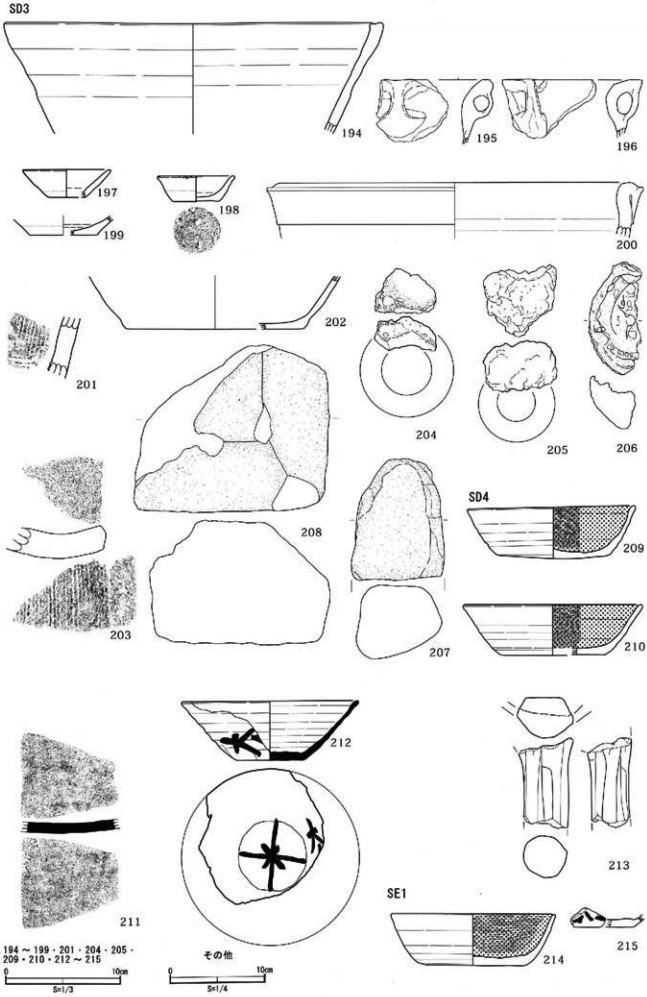


遺物実測図 (5)　113 ～ 139

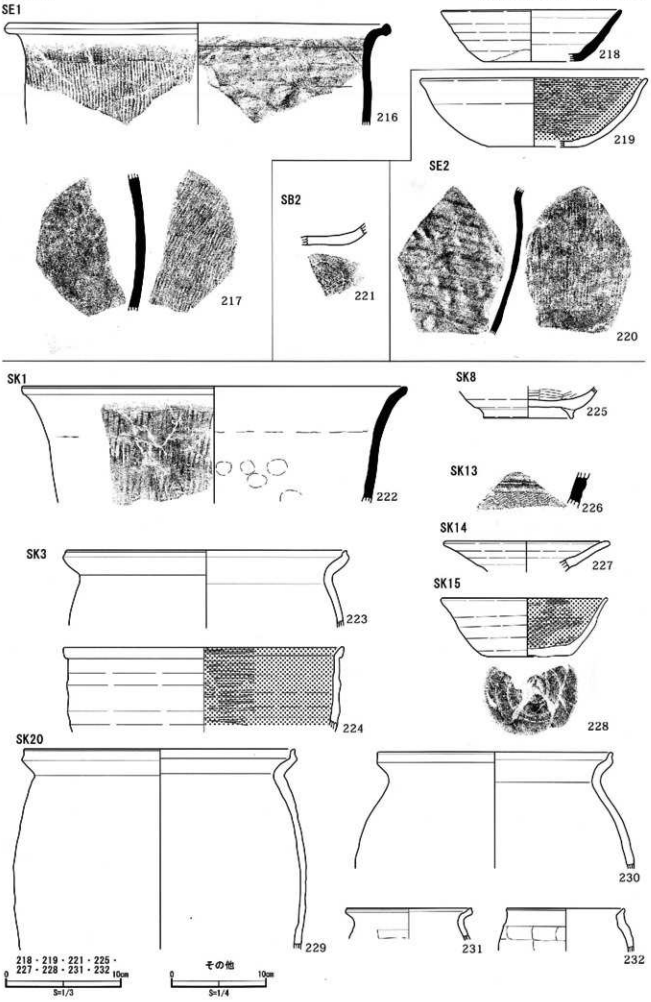


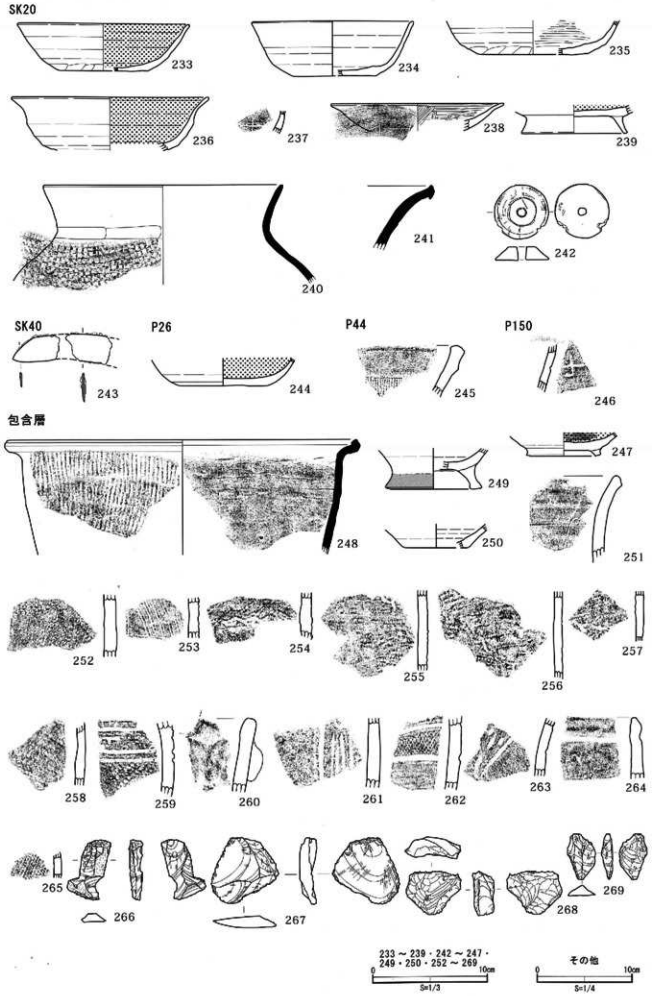

S114
140
141
142
143
144
145
146
147
S115
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
171
140・141・143 ～ 147・153 ～ 169・171
0 10cm
S=1/3
その他
0 10cm
S=1/4


S115
170
172
173
174
175
176
177
179
178
180
181
182
184
183
186
187
188
189
190
185
191
SD1
192
SD3
193
172 ～ 190・192・193
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4


SD3
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
SD4
209
210
211
212
213
SE1
214
215
194 ～ 199・201・204・205・209・210・212 ～ 215
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

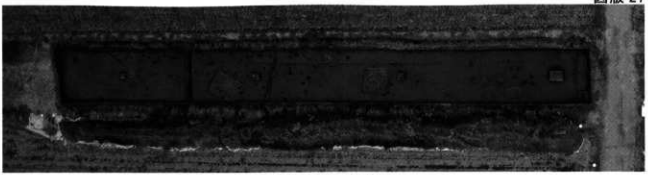
遺物実測図 (9)　216 ～ 232



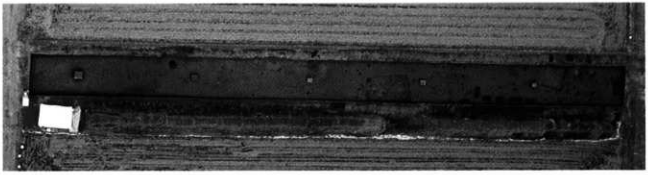

SK20
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
SK40
243
P26
244
P44
245
P150
246
包含層
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
233 ～ 239・242 ～ 247・
249・250・252 ～ 269
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

図版 26

遺跡全景　西から



調査区西側　南から



調査区中央　南から

調査区東側　東から

6号住居跡セクション　東から

同　遺物出土状況　西から

図版 28

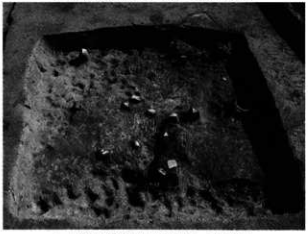
6 号住居跡完掘状況　西から

1 号住居跡完掘状況　南西から

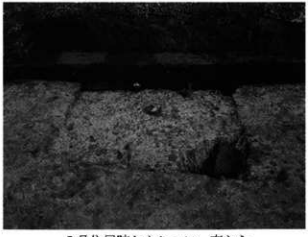
2 号住居跡セクション　南から

3 号住居跡セクション　北西から

4 号住居跡セクション　北から



4 号住居跡遺物出土状況　西から



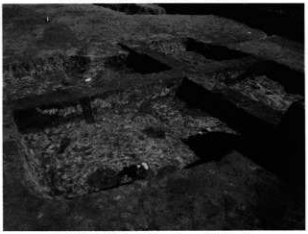
5 号住居跡セクション　南から

7・8・10 号住居跡完掘状況　南から

9 号住居跡セクション　西から

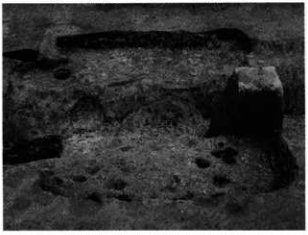
11 号住居跡セクション　南から

12 号住居跡完掘状況　西から



13 号住居跡セクション　南西から

13 号住居跡・5 号溝完掘状況　西から



14 号住居跡完掘状況　西から

15 号住居跡セクション　東から

15 号住居跡完掘状況　西から

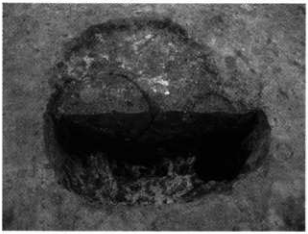
図版 30

16 号住居跡セクション　北西から

1 号掘立柱建物跡 P2 セクション　西から

1 号掘立柱建物跡 P8 セクション　北から

1 号掘立柱建物跡完掘状況　東から

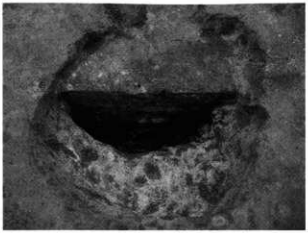


2 号掘立柱建物跡 P4 セクション　東から

2 号掘立柱建物跡 P5 セクション　南から

2 号掘立柱建物跡完掘状況　西から

3 号掘立柱建物跡 P1 セクション　東から



3 号掘立柱建物跡 P3 セクション　南から

3 号掘立柱建物跡完掘状況　東から

1 号溝セクション　南から

2 号溝完掘状況　北から

3 号溝遺構確認状況　北から

3 号溝セクション　南から

3 号溝完掘状況　北から

4 号溝完掘状況　南から

図版 32

6 号溝完掘状況　西から

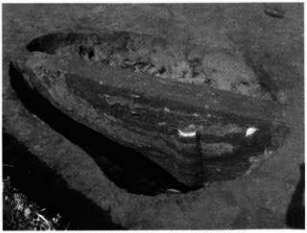
7 号溝完掘状況　北から

1 号井戸上層セクション　南から

1 号井戸完掘状況　南から

2 号井戸上層セクション　北から

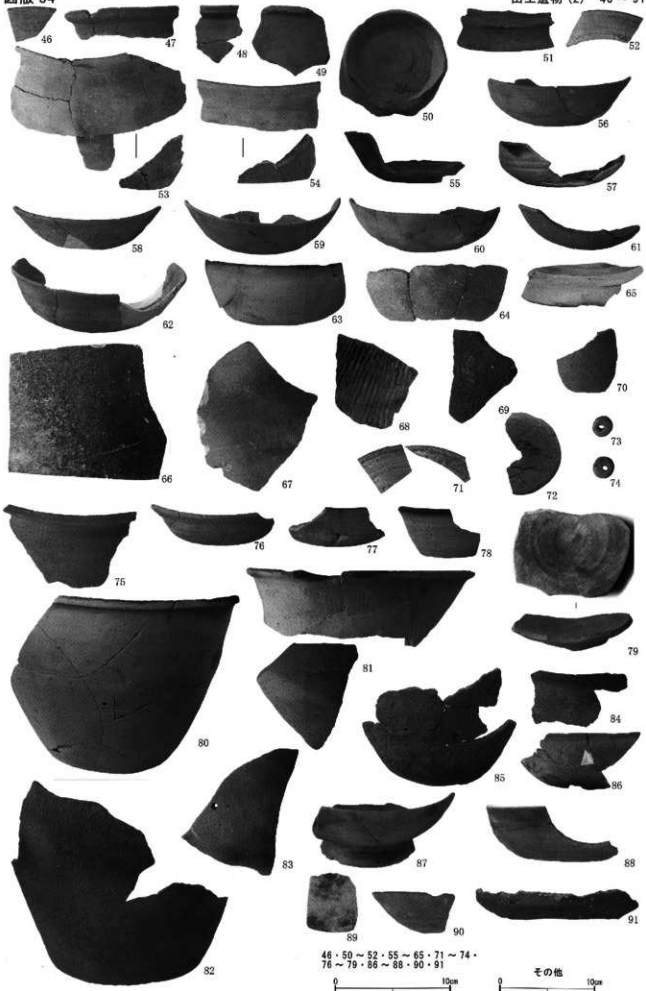
2 号井戸完掘状況　北から



20 号土坑セクション　南西から

20 号土坑完掘状況　南から

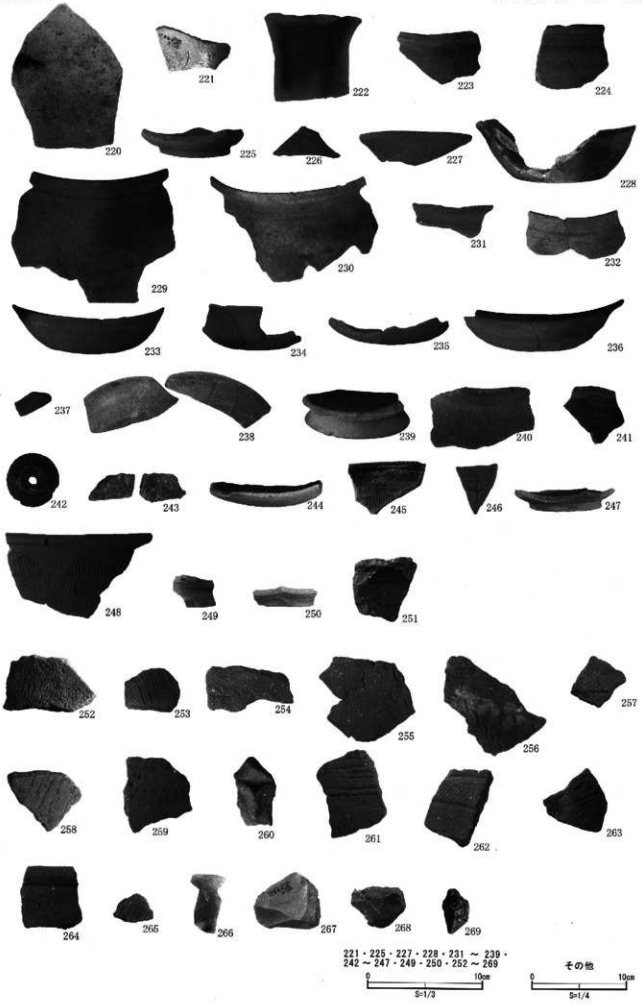
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
7・14～45
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

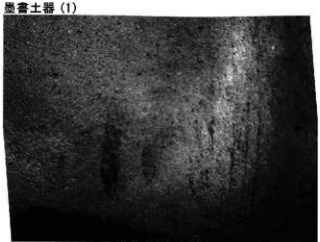

46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
46・50 ～ 52・55 ～ 65・71 ～ 74・
76 ～ 79・86 ～ 88・90・91
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
94 ～ 101・108 ～ 112・
114・115・118 ～ 122
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

123
124
125
126
127
128
129
134
133
131
135
132
130
137
141
140
136
138
139
142
143
145
146
147
144
148
149
151
153
150
152
154
155
156
158
157
159
160
161
162
163
164
165
166
167
169
170
171
168
172
173
174
123 ～ 125・127 ～ 129・131・
135 ～ 141・143 ～ 147・153 ～ 173
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4

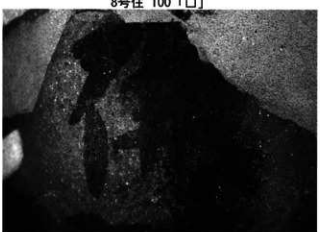
175
176
177
179
181
178
180
182
183
184
185
187
188
189
190
186
191
192
193
194
195
196
197
200
202
203
204
198
199
201
205
209
206
207
208
210
211
212
213
214
215
218
219
216
217
182 ～ 190・192 ～ 199・201・204・
205・209・210・212 ～ 215・218・219
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4


220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
221・225・227・228・231 ～ 239・
242 ～ 247・249・250・252 ～ 269
0
10cm
S=1/3
その他
0
10cm
S=1/4



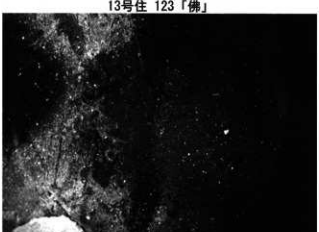
8号住 100「口」

10号住 114「万財」

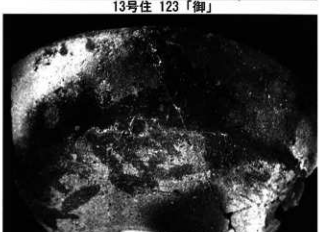


13号住 123「佛」

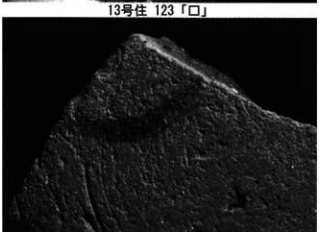
13号住 123「御」



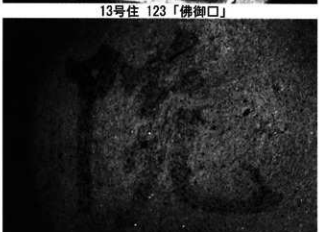
13号住 123「口」



13号住 123「佛御口」

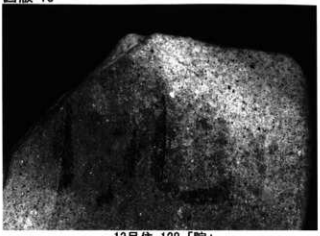


13号住 124「口」



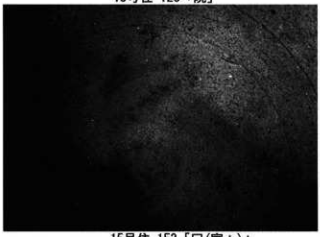
13号住 127「院」

墨書土器1



13号住 128「院」

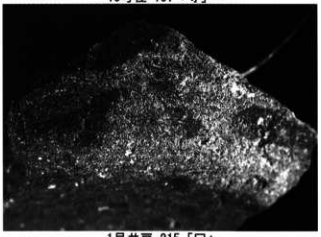
13号住 130「院」



15号住 153「口(家カ)」

15号住 157「寺」

15号住 169「寺」



1号井戸 215「口」

4号溝 212「米」

4号溝 212「太」

墨書土器2

報告書抄録

ふりがな	すみやきどひがしいせき
書　　名	炭焼戸東遺跡
副 書 名	つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	3
シリーズ名	筑西市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第6集
編著者名	田中　暁穂・大賀　健・大賀　さつき
編集・発行機関所在地	筑西市教育委員会 〒308-0031　茨城県筑西市丙 360 番地　TEL0296(22)0183 有限会社　勾玉工房Mogi 〒286-0203　千葉県富里市久能 238 100　TEL0476(92)0658
発行年月日	西暦２００９年３月１０日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すみやきどひがしいせき 炭焼戸東遺跡	いばらきけんちくしせいし 茨城県筑西市 さっぐち 松原 599 番地他	502061	36° 15′ 36″	140° 02′ 05″	20080925 ～ 20081125	2200 ㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
炭焼戸東遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	土師器・滑石製模造品（剣形・有孔円板） 滑石（原石・剥片）	古墳時代中期の住居跡から滑石製模造品とその製作工程に関わる遺物が出土した。
		平安時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・土坑・ピット	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・鈴鐘草・鉄形滓・羽口・金床石・黒曜土器・転用砥	平安時代の集落跡である。「院」「寺」等の黒曜土器、転用砥・仏鉢・火舎・灰釉陶器・壺G等仏教関連遺物が出土し寺院関連集落の可能性がある。
		中近世	溝跡	内耳鍋・土師質土器・陶器	

要　約

1.縄文時代は遺物のみであるが、早期～後期にかける土器片が出土した。弥生時代は後期の上稲吉段階と見られる土器片が出土した。

2.古墳時代は中期末の竪穴住居跡１軒しか検出されなかったが、滑石製模造品の製作工程を復元できる原石～成品までの資料が出土した。

3.遺跡の主体となる９世紀前半～10世紀前半には掘立柱建物跡・竪穴住居跡で構成される集落が形成された。遺構は３時期の変遷が考えられるが、Ⅱ期（９世紀中～後期）がピークであり、隣接する調査区との関連が見られる。特に掘立柱建物跡は１～４号建物と隣接調査区のSB05・06とは軸方位を揃え、近接しているため同一建物群と想定されるが、南方のSB01～04については時期や性格の異なる建物群の可能性が考えられる。また、黒曜土器「院」「寺」や転用砥・仏鉢・火舎・灰釉陶器・壺Gなど仏教関連遺物の出土からは村落内に寺院が存在したことが想定される。

4.中近世の遺構は溝跡のみとなるが、３号溝は「コ」字状を呈し、隣接調査区へと延伸する。本調査区以外に周辺で検出された溝跡群と同方位であり、南に存在する海老ヶ島城と並行する時期の遺構と考えられる。

茨　城　県　筑　西　市

筑西市埋蔵文化財調査報告書第６集

炭　焼　戸　東　遺　跡

―つくば明野北部工業団地進入路埋蔵文化財発掘調査報告書３―

印　刷・発　行　　平成２１年３月１０日

編集　　筑西市教育委員会

　　有限会社　勾玉工房Mogi

印刷　　株式会社　エイティー

　　〒289-1115　千葉県八街市ほ 211